

平成 25 年度文部科学省委託事業
「防災教育の体系的な指導に関する調査研究」
報告書

平成 26 年 2 月

株式会社 政策研究所

目次

序章 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の内容・方法等.....	1
(1) アンケート調査の実施.....	1
(2) 現地調査の実施.....	2
(3) 有識者会議の開催.....	2
第1章 防災教育の取組の現状.....	4
1 防災教育に関するアンケート調査.....	4
(1) 教育委員会へのアンケート調査.....	4
(2) 学校へのアンケート調査.....	22
(3) アンケート調査のまとめ.....	55
2 ヒアリング調査結果.....	57
(1) ヒアリング調査対象校の選定.....	57
(2) 小中高校、特別支援学校における防災教育の取組と成果把握の現状.....	58
第2章 学校における防災教育の評価と現状.....	60
1 学校における防災教育のねらい.....	60
2 発達の段階に応じた防災教育と評価.....	61
(1) 小学校.....	61
(2) 中学校.....	69
(3) 高等学校.....	72
(4) 特別支援学校.....	76
3 評価に関する課題.....	78
(1) 災害への知識習得、的確な思考・判断に基づく意志決定や行動選択等に対する課題.....	78
(2) 危険を予測し、自らの安全のための主体的行動に対する課題.....	79
(3) 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりへの貢献に対する課題.....	79
第3章 評価手法のあり方.....	81
1 本調査における評価の枠組み.....	81
(1) 本調査における評価の対象.....	81
(2) 評価の視点.....	81
(3) 評価の項目と評価する教育活動.....	81
2 発達段階に応じた評価方法.....	83
(1) 知識、思考・判断への評価方法.....	83
(2) 危険予測・主体的な行動における評価方法.....	84
(3) 社会貢献、支援者の基盤への評価方法.....	85
資料編.....	86

1 調査の目的

本事業は東日本大震災等で明らかになった教訓を踏まえ、児童生徒の発達の段階に応じた効果的かつ体系的な防災教育を推進するため、防災教育の効果及びその評価の方法について調査研究を実施するものであり、全国で防災教育を積極的に実践している学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）を対象に、アンケートや現地調査を行い、①教育目標、達成目標、学習のねらい、②学習指導の方法、③児童生徒の達成度を客観的かつ総合的に評価する手法について調査研究を行うと共に、その成果を報告書に取りまとめ、学校現場での指導に活用されるよう各教育委員会等へ配布し、学校現場における活用を促すことを目的とする。

2 調査の内容・方法等

(1) アンケート調査の実施

①教育委員会へのアンケート調査の実施

都道府県及び市町村教育委員会に対して、防災教育に対する考えや課題は何か、当該地域で防災教育を積極的に推進している小中学校、高等学校及び特別支援学校等の紹介を求めた。

【調査対象の教育委員会】

- ・都道府県教育委員会 47 カ所
- ・市町村教育委員会約 1,800 カ所

【主なアンケート調査項目】

- ・防災教育の目標、防災教育の成果、防災教育の課題
- ・当該地域で防災教育を積極的に実践している学校名

②調査対象校（小中学校及び高等学校、特別支援学校）の選定

アンケート調査結果から、先進的な取組をしている小中学校及び高等学校、特別支援学校を選定し、これらを調査対象校とした。全体で 500 校程度である。

③選定された調査対象校へのアンケート調査の実施

【主なアンケート調査項目】

- ・自然災害や地域で起こりやすい災害について、その発生する要因についてどのように理解させているか。
- ・防災教育について、教科の中でどのような方法で指導しているか。
- ・災害が発生してからの各段階で想定される危険をどのように予測し、また、その予測に対してどのような安全行動をとるよう指導しているか。
(各段階：災害予測予報段階、災害発生段階、災害事後段階、日常の予防啓発段階)
- ・自分だけでなく、幼児、高齢者、障害のある人など他の人の安全を考える行動ができるようにどのように指導しているか。

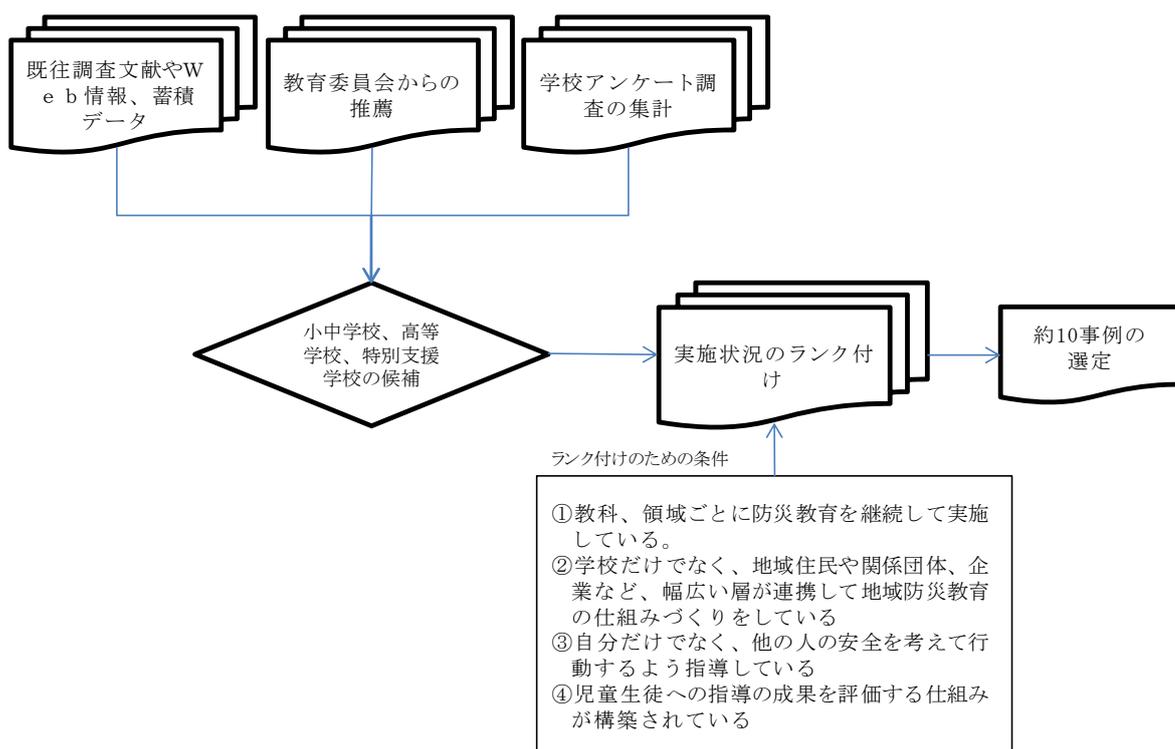
- ・自分だけでなく、学校、家庭、地域社会の安全に貢献できるように、どのように指導しているか。
- ・学習指導は、児童生徒にどのような効果として現れているか。
- ・学習指導の成果として児童生徒の理解を認識するために、どのような評価をしているか。
- ・現在の防災教育に関する問題課題は何か。
- ・今後予定されている防災教育は何か。

(2) 現地調査の実施

調査対象校へのアンケート調査結果、及び既往調査や研究論文、Web情報等から、その教育指導の取組が持続的であり、その成果が児童生徒の理解や行動にも現れている事例を現地調査対象校として選定した。

【調査対象の選定方法】

- ・既往調査や研究論文、Web情報等から選定する。
- ・都道府県及び市町村教育委員会及び学校へのアンケート調査結果等から選定する。
- ・約500校から約10校を絞り込むために、以下のようにランク付けを行った。



(3) 有識者会議の開催

本調査への必要な助言を得るために、有識者及び関係者がオブザーバーとなった会議を設置し、助言を受けて調査を進める。

会議は3回程度開催し、調査や検討に当たって専門的観点から意見交換を行った。

【有識者】

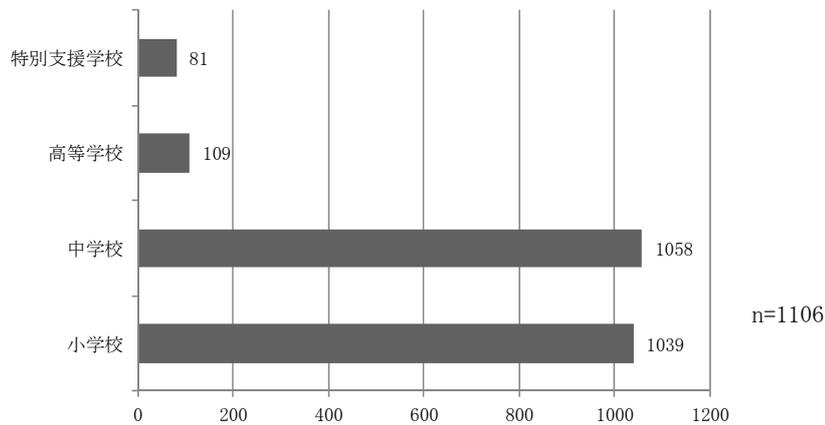
- ・井口 信二氏（東京都葛飾区立花の木小学校長）
- ・諏訪 清二氏（兵庫県立舞子高等学校環境防災科長）
- ・瀧川 猛氏（千葉県立東金特別支援学校高等部主事）
- ・滝田 和明氏（静岡県危機管理部危機情報課長）
- ・樋口 誠氏（川崎市麻生区新ゆりが丘自治会長/同市麻生区自主防災組織連絡協議会会計監査）
- ・藤田 大輔氏（大阪教育大学 学校危機メンタルサポートセンター長）
- ・森本 晋也氏（岩手県教育委員会事務局学校教育室指導主事）
- ・渡邊 正樹氏（東京学芸大学教授）

1 防災教育に関するアンケート調査

(1) 教育委員会へのアンケート調査

①概要

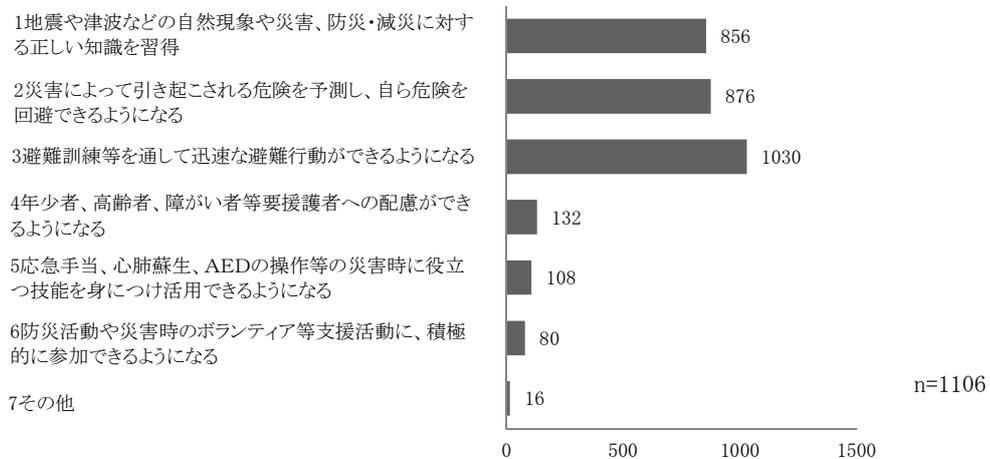
- 調査対象教育委員会：1878 件
- 調査期間：平成 25 年 10 月 2 日～10 月 16 日
- 平成 25 年 10 月 20 日時点で、1106 件の回収 (59%)
- 教育委員会が所管している学校の内訳数は以下のとおり。（複数回答可）



②小学校

【防災教育において重視している指導】

各小学校に対してどのような点を重視し教育するよう指導しているかを聞いたところ、最も多かったのは「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」が 1030 件で、次いで「災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避する」が 876 件、「地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得する」が 856 件となっている。（複数回答可）



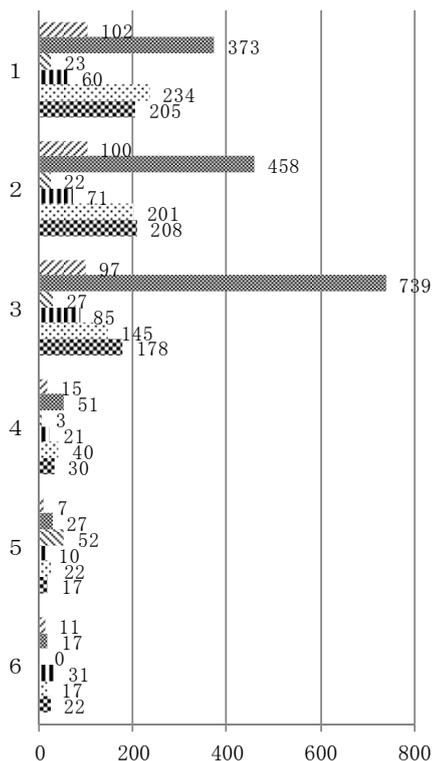
その他の主な内容

- 地震や火災等の災害などに対して、子どもが自ら身を守ろうとする態度や能力を育む体系的・具体的な安全教育の推進と危機管理体制の構築を重視している。
- 原子力発電所事故等の災害に対する知識の取得
- 地域とのつながりを大切にし、地域への愛着心を育み、地域の将来を見つめる力の育成を重視している。
- 教職員がケガ等をした場合を想定すること。
- 保護者による引き取りまで、自助のために何が必要か考え準備する。
- 自然を愛し、自然と共生する力の育成
- マニュアルの見直し・特別活動や各教科での防災教育の実施・文部科学省より配布されたDVDや指導教材の活用
- 自治体と小中学校が、実践的防災教育推進事業の指定を受け、取り組んでいる。
- 各学校で作成する防災マニュアルと市で作成する防災マニュアルの連携を行っている。
- 登下校時や休み時間等においても、児童が自分自身の命を守ることができるようになること。
- 震災体験から学んだ教訓を生かす。思いの共有化（震災を体験していない子どもたちが震災を理解し、震災を体験した人の思いに寄り添う。）
- 防災教育の視点を生かした授業の研究を行い、思考力、判断力、実践力の育成を図っている。
- 教職員向け「学校防災リーダー育成研修会」の研修内容を各学校の校内研修や授業等で活用することを重視している。

【重視している指導の成果を把握する方法】

重視している指導について、その成果をどのように把握しているかを聞いたところ、前掲の3つの重視している指導項目については、いずれも「避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している」が多く、中でも最も重視している指導項目「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」については、「避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している」が739件と最も多かった。また、その他の方法については以下に示す内容となっている。

(複数回答可)



〃学校側に、指導した成果報告書の提出を求め、分析している。

※避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している。

※応急手当、心肺蘇生等の訓練の実施回数や参加者数などの報告から把握している。

■地域と連携した防災活動(防災訓練や防災マップづくりなど)への参加回数や、参加者数の報告から把握している。

∴特に把握していない。

◆その他の方法

重視している指導

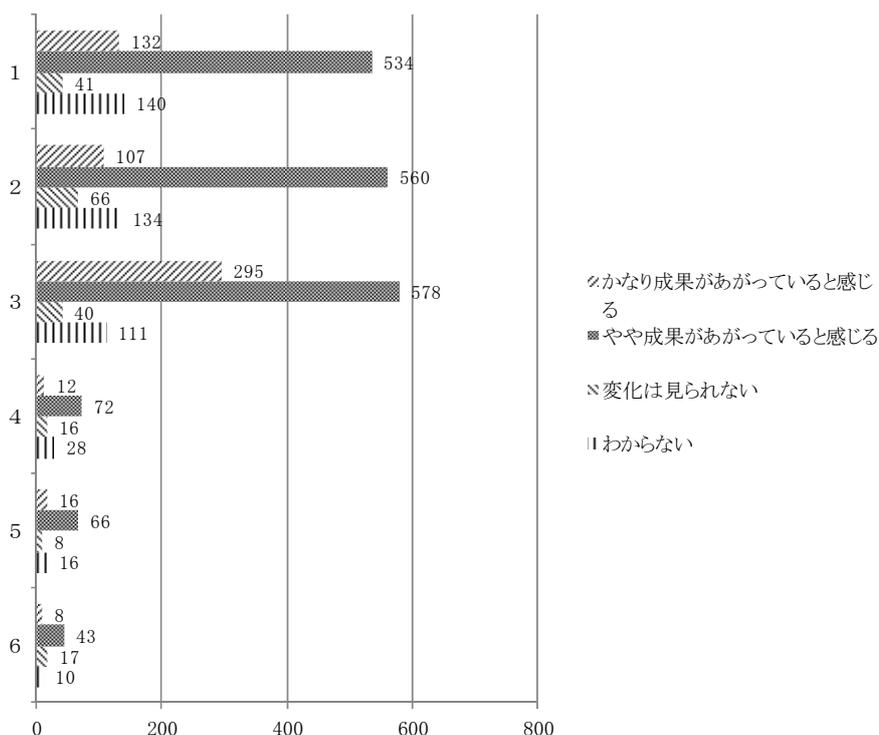
- 1 児童が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 児童が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 児童が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 児童が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 児童が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 児童が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。

その他の方法

- 各学校へ研修内容を活用した伝達研修や資料の活用をしたか否か調査を行い、把握している。
- 必要に応じて消防署と連携して避難訓練の事前学習会を実施している。
- 学校訪問や管理職研修会等を通して把握している。
- 学校経営案における防災計画で確認、6年生は、教育委員会主催事業にて防災関連施設で体験させている。
- 実際に学校が行っている防災教育を視察し、把握している
- 教育委員会学校安全担当者が避難訓練に立ち会うとともに、訓練後の反省会で成果と課題を話し合っている。
- スクールガード・アドバイザーと学校を巡回訪問し、学校の防災教育への取組状況を把握している。

【重視している指導の成果】

重視している指導ごとに、その成果状況を聞いたところ、前掲の重視している3つの指導項目については、いずれも「やや成果があがっていると感じる」という回答が多く、しており、特に最も重視している「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」については、「かなり成果があがっていると感じる」という回答が295と多い。（複数回答可）



重視している指導

- 1 児童が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 児童が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 児童が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 児童が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 児童が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 児童が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。

【防災教育の成果を把握する上での課題】

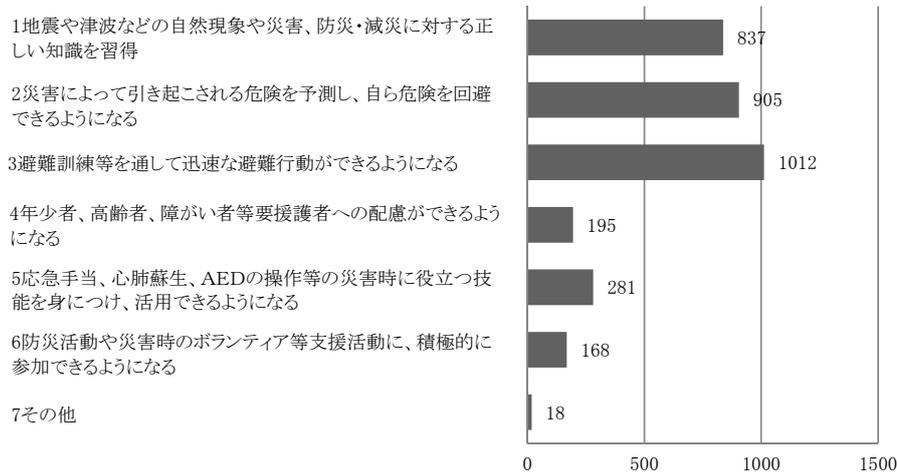
防災教育の成果を把握する上でどのような課題があるかを聞いたところ、主な回答は以下のとおりである。

- ・児童が、危機的状況において本当に適切な行動ができるのか、また、学校で学んだことを地域で生かし、将来の担い手やつなぎ手として育てているのかを把握することは難しい。
- ・主に学校からの報告により成果を把握している現状においては、成果等を直接的に把握しにくい面がある。
- ・評価基準は、何をもちて成果があがったということが課題と思われる。
- ・成果把握の最たるものとして訓練の実施があるが、学校事情により頻繁に実施できないことや、学校単位での取り組みしか訓練成果を把握できないことが課題。
- ・単に、防災・減災に対する知識・理解や技能だけでなく、発災時に周りの状況に応じて、自分で意思決定をしながら危険を回避する能力やコミュニティーの一員としての意識の育成を目的としている。短期的な子どもの姿ではなく10年後20年後の子どもの姿が大切である。このようなことから、教職員の防災教育に対する取組みについての自己評価を主に実施している。
- ・避難訓練等、児童の行動等で評価できるものは把握がそれ程困難ではないが、知識・理解や災害予知・災害回避能力・意識の成果に対する評価は、容易ではない。意図的に機会を設けて、継続的に取り組ませることが必要。
- ・成果を実感する場面・方法について明確なとらえがなく、児童の成果を把握することが難しい。学年に応じた、また、地域の実態に合った指導内容や、意識調査なども検討していきたい。

③中学校

【防災教育において重視している指導】

各中学校に対してどのような点を重視し教育するよう指導しているかを聞いたところ、最も多かったのは「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」が1012件で、次いで「災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避する」が905件、「地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得する」が837件となっている。（複数回答可）

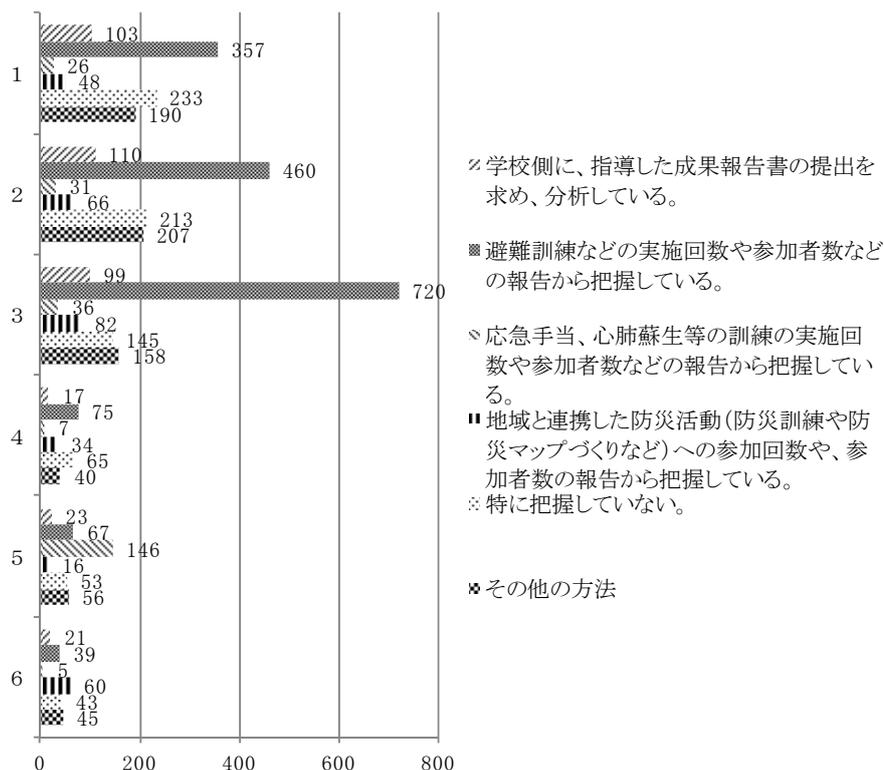


その他

- 地震や火災等の災害などに対して、子どもが自ら身を守ろうとする態度や能力を育む体系的・具体的な安全教育の推進と危機管理体制の構築を重視している。
- 原子力発電所事故等の災害に対する知識の取得。
- 地域とのつながりを大切にし、地域への愛着心を育み、地域の将来を見つめる力の育成を重視している。
- 教育事務所等より送付されるガイドラインに基づき、防災対策に努めるよう指導している。
- 保護者による引き取りまで、自助のために何が必要か考え準備する。
- 自然を愛し、自然と共生する力の育成。
- マニュアルの見直し・特別活動や各教科での防災教育の実施・文部科学省より配布されたDVDや指導教材の活用。
- 自治体と小中学校が、実践的防災教育推進事業の指定を受け、取り組んでいる。
- 震災体験から学んだ教訓を生かす。
- 教職員向け「学校防災リーダー育成研修会」の研修内容を各学校の校内研修や授業等で活用することを重視している。

【重視している指導の成果を把握する方法】

中学校において重視している指導について、その成果をどのように把握しているかを聞いたところ、前掲の3つの重視している指導項目については、いずれも「避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している」が多く、中でも最も重視している指導項目「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」については、「避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している」が720件と最も多かった。また、その他の方法については次頁に示す内容となっている。（複数回答可）



重視している指導

- 1 生徒が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 生徒が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 生徒が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 生徒が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 生徒が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。

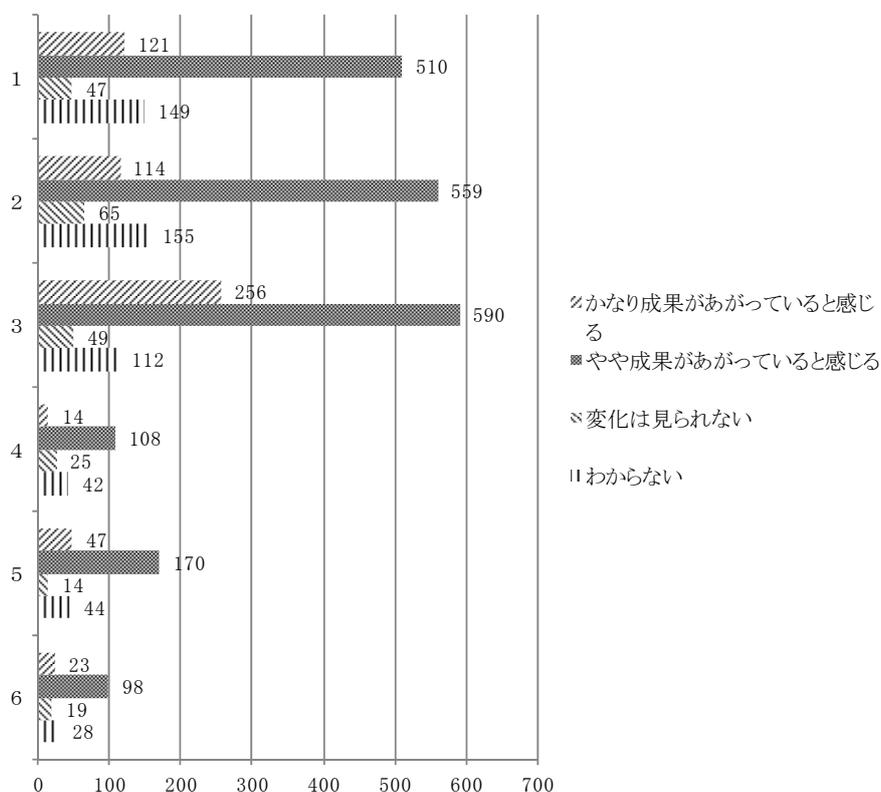
その他の方法

- 訓練等を実施した場合は定例の校長会・教頭会にて報告を受けている。
- 小学校区単位に設立されている、地域教育協議会での情報交換から把握している。
- 各学校から教育課程及び学校運営実施報告書を提出してもらう際の様式に防災教育についての成果と課題を記入する欄も設けている。
- 年に数回、防災担当による会議を開催し、各学校における状況、問題点について協議している。
- 学校訪問指導の際、防災教育の取組について説明を受けて把握している。
- 必要に応じて、または抽出した学校に成果報告書提出を求めている。
- 年間行事計画や月間行事計画の提出、又は、防災計画及び危機管理マニュアルの提出により把握している。
- 「我が家の地震対策プロジェクト」として親子で地震対策を記入するシートを夏季休業中の課題として実施、回収し把握している。
- 生徒、職員へアンケート（年2回）の分析により把握する。
- スクールガード・アドバイザーと学校を巡回訪問し、学校の防災教育への取組状況を把握している。

【重視している指導の成果】

中学校において重視している指導について、どの程度成果が出ているかを聞いたところ、前掲の3つの重視している指導項目については、いずれも「やや成果があがっていると感じる」という回答が多く、中でも、特に最も重視している指導項目「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」については、「かなり成果があがっていると感じる」という回答が256と多かった。

（複数回答可）



重視している指導

- 1 生徒が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 生徒が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 生徒が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 生徒が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 生徒が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。

【防災教育の成果を把握する上での課題】

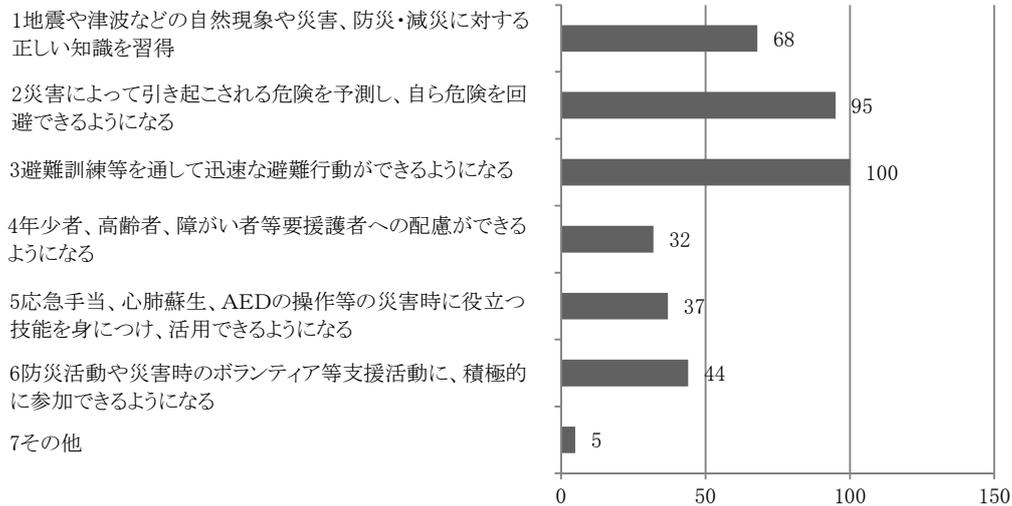
防災教育の成果を把握する上でどのような課題があるかを聞いたところ、主な回答は以下のとおりである。

- ・何をもちて成果があがっていると評価すべきなのか、明確な基準がない。
- ・災害を想定して緊張感をもって訓練をしているがこれで良いということがなく、想定外のことがおきる。普段から防災意識を高めるために過去の災害を語りつぎ自らを守れるようにすることが大切と考える。
- ・様々な状況の中で（学校内外、放課後、家庭、昼夜等）、突発的な災害発生時において生徒が主体的に判断し行動できる力の育成が必要。
- ・防災に係る様々な知識が本当に「できる」になっているのかどうか確認する術がない。
- ・学校ごとに環境が異なるため、成果を的確に把握する方法を見つけるのが難しい。
- ・震災以降3年が経過しようとしているが、子供たちの意識の中に震災の記憶が薄れつつある。訓練等を行う中で、どれだけ当時のような緊張感を持たせるかが今後の効果を高めていく鍵となると考えている。

④高等学校

【防災教育において重視している指導】

各高等学校に対してどのような点を重視し教育するよう指導しているかを聞いたところ、最も多かったのは「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」が100件で、次いで「災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避する」が95件、「地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得する」が68件となっている。（複数回答可）

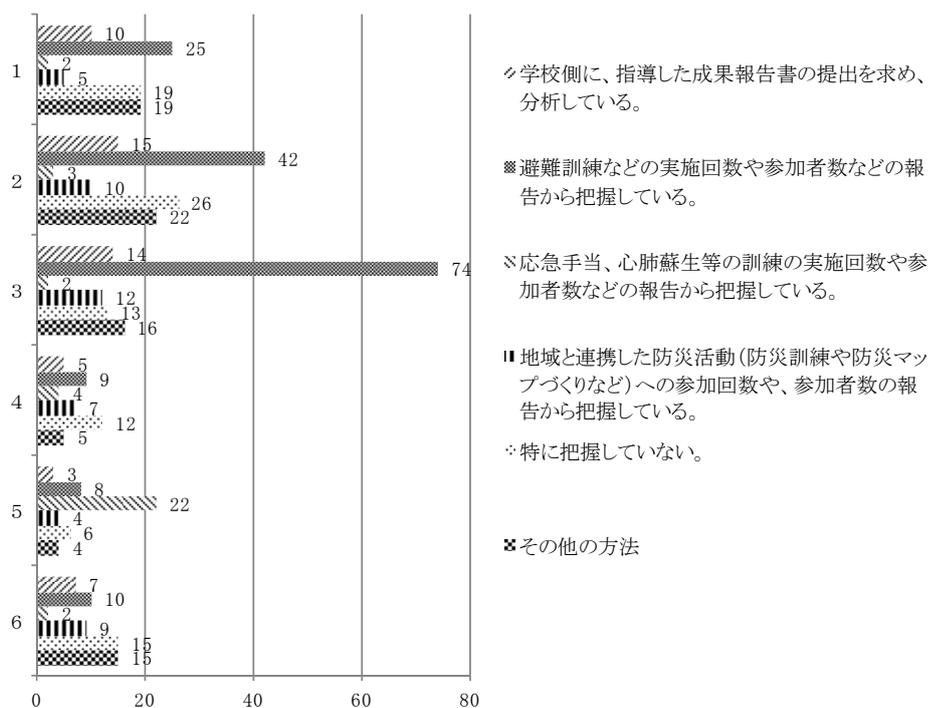


その他

- 起震車体験、消防署等による講話。
- 地域との連携。
- 震災体験から学んだ教訓を生かす。思いの共有化（震災を体験していない子どもたちが震災を理解し震災を体験した人の思いに寄り添う。）。
- 他の人や社会の安全に貢献できるようになることを重視している。
- 学校の立地環境等地域の実情に応じた災害の理解とその災害への対処法。

【重視している指導の成果を把握する方法】

重視している指導について、その成果をどのように把握しているかを聞いたところ、重視している指導項目「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」「災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避する」については、「避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している」が多くなっているが、「地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得する」については、それほど大きな傾向は見られない。（複数回答可）



重視している指導

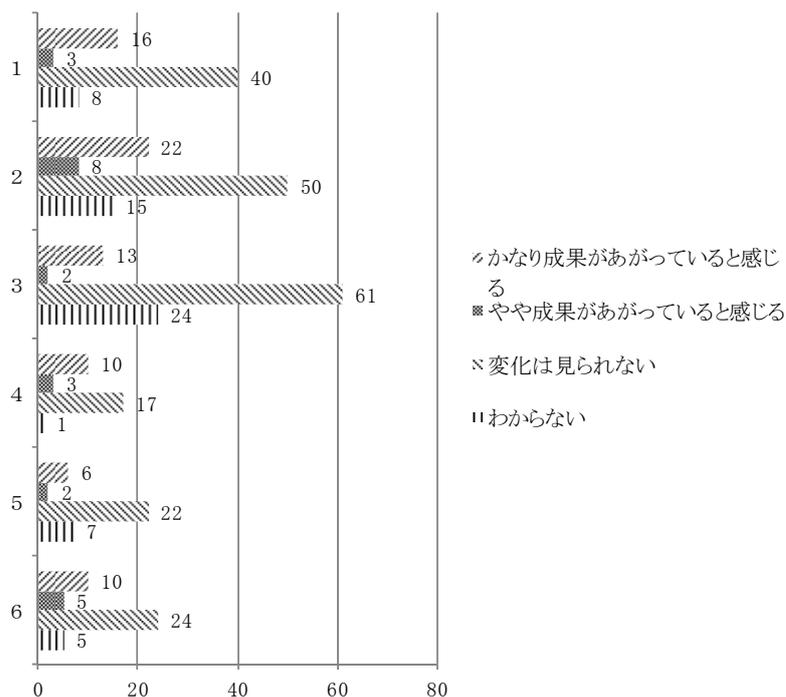
- 1 生徒が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 生徒が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 生徒が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 生徒が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 生徒が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。

その他の方法

- 指導主事が各学校を訪問し、管理職等からの聞き取りによって成果を把握している。
- 校長会議等で報告、交流している。
- 現地視察。
- 学校が作成した防災マニュアルの提出や避難訓練などの実施状況の聞き取りなどで把握している。
- 各種会議、研修会での報告や情報交換によって把握している。
- 防災教育年間指導計画、防災教育外部指導者派遣事業計画書および報告書、防災教育の実施状況に係わる調査などで把握。
- 学校安全巡回点検の際に、学校の取り組みについて聞き取っており、それによって把握している。
- 県が毎年実施している健康教育実践状況調査から、各学校が行っている防災教育について把握している。
- 総合的な学習の時間における学習発表会などに参観し把握している。

【重視している指導の成果】

高等学校において重視している指導について、どの程度成果が出ているかを聞いたところ、前掲の3つの重視している指導項目については、いずれも「変化は見られない」という回答が多くなっている。（複数回答可）



重視している指導

- 1 生徒が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 生徒が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 生徒が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 生徒が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 生徒が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。

【防災教育の成果を把握する上での課題】

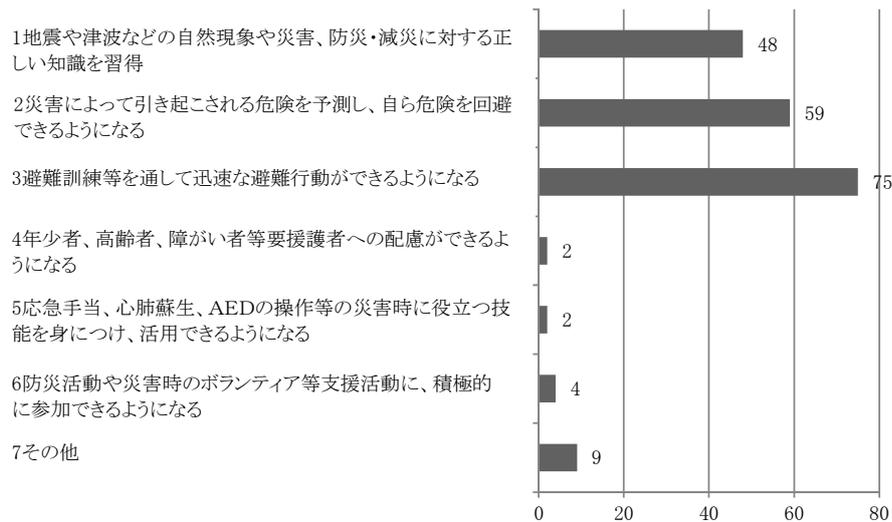
高等学校において、防災教育の成果を把握する上でどのような課題があるかを聞いたところ、おもな回答は以下のとおりである。

- ・ 成果を評価するための教育目標である評価規準の設定。
- ・ 実際の災害ではなく訓練なので、本当の災害がおきた時に生徒がどれぐらい動けるかわからない。
- ・ 教育委員会として、高校の防災教育を進める上でのねらいが明確になっていない。
- ・ 防災に関して、危険を予測し回避する能力や主体的に行動する態度が、生徒にどの程度身に付いているのかを把握することが難しい。
- ・ 指導目標、指導計画に基づいての評価というより、年に数回実施される「避難訓練」を評価の対象としている場合が多いので、学校経営評価の一環として実施されるよう意識を変えていく必要があると捉えている。
- ・ 教育効果を評価する具体的な方法について、各学校に周知するまでには至っていない。実践的防災教育総合支援事業（文部科学省の委託事業）をとおして、評価方法について研究していく。
- ・ 高校生として期待される地域や社会貢献、要援護者への支援等の機会が、いつ、どのような形で実施されているかを把握するとともに、参加状況、生徒の成長や貢献度等を細やかに評価していく必要がある。
- ・ 防災教育の成果は、危険を回避し、命を守る行動をとる、被害を受けている人の思いを共有する等、判断しにくいことが多い。その成果が本当に大きな災害時に表れるとしたら、定期的に成果と課題を見直し、PDCAサイクルで取り組まないと、災害時に対応できない。
- ・ 関係機関との連携をどのように評価していくのか。また、避難訓練も例年通りの形式的なものにとどまらない様々な災害を想定した訓練を実施し、評価としてその成果、課題をどのように生かしていくのかといった課題がある。
- ・ 自分だけでなく周りの人々の安全を考えた行動がとれる力を身につけるための指導方法の工夫・改善を進めていく必要があると考える。

⑤特別支援学校

【防災教育において重視している指導】

各特別支援学校に対してどのような点を重視し教育するよう指導しているかを聞いたところ、最も多かったのは「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」が75件で、次いで「災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避する」が59件、「地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得する」が48件となっている。（複数回答可）

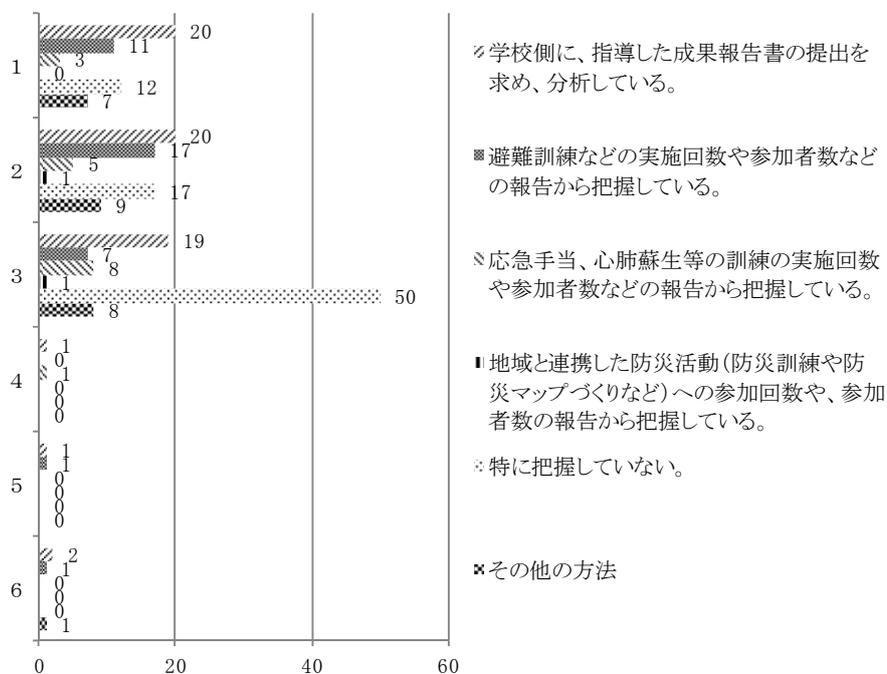


その他

- 地震や火災等の災害などに対して、子どもが自ら身を守ろうとする態度や能力を育む体系的・具体的な安全教育の推進と危機管理体制の構築を重視している。
- 地域と連携を図り、実践的内容になるように重視している。
- 児童生徒の障害の状態、発達の段階や特性及び地域の実態等に応じて、自ら危険な場所や状況を予測、回避したり、必要な場合には援助を求めたりすることを重視している。
- 障がいのある児童生徒を安全第一で避難させるための教職員の意識の高揚、適切な避難方法の徹底を重視している。
- 災害発生時にパニックに陥らず冷静に行動できるようになることを重視している。
- 危険を予測するのではなく、危険なことに気づき、その危険を回避することに重点をおいている。
- 学校の立地環境等地域の実情に応じた災害への対処方法を理解することを重視している。
- 地域との連携を重視している。
- 重度肢体不自由児が対象のため子どもの安全確保を重視している。

【重視している指導の成果を把握する方法】

重視している指導について、その成果をどのように把握しているかを聞いたところ、最も重視している指導項目「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」については、「特に把握していない」が50件であった。他の2つの重視している指導項目については、いずれも「学校側に指導した成果報告書の提出を求め分析している」が多くなっている。（複数回答可）



重視している指導

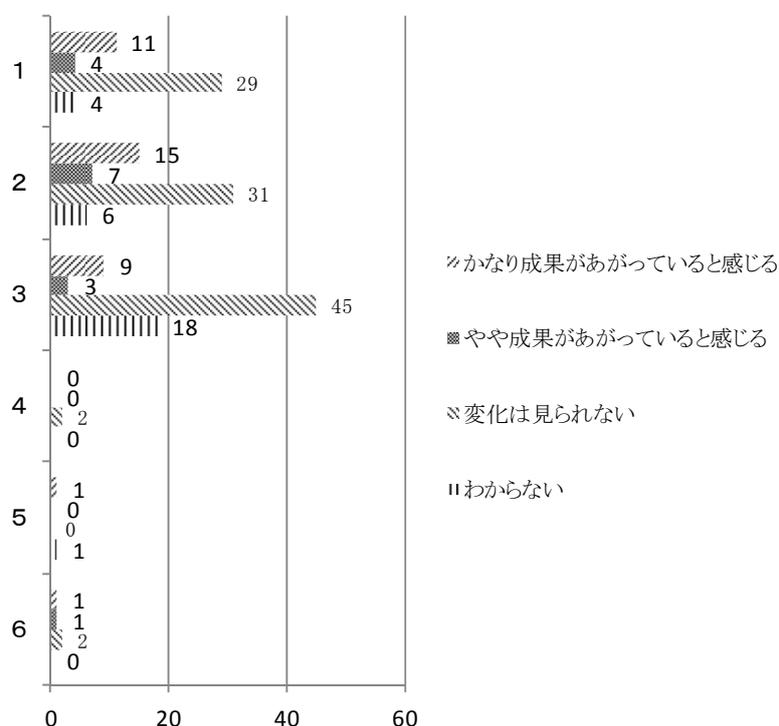
- 1 児童生徒が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 児童生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 児童生徒が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 児童生徒が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 児童生徒が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 児童生徒が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。

その他の方法

- 指導主事が各学校を訪問し、管理職等からの聞き取りによって成果を把握している。
- 各校の危機管理マニュアルの作成状況等を報告してもらい、見直しの具体的内容について把握している。
- 学校訪問の際に実施状況について確認している。
- 教育計画の提出によって把握している。
- アンケート調査により把握している。
- 安全教育指導者研修会の研究協議の中で確認している。
- 県が毎年実施している健康教育実践状況調査から、各学校が行っている防災教育について把握している。
- 年間指導計画（指導目標明記）の提出を求め、分析している。
- 「学校防災に関する実態調査」を年1回実施し、防災教育・防災管理の現状を包括的に調査している。
- 各校の学校防災リーダーを検討委員とする特別支援学校防災機能強化検討委員会の設置により、課題と解決策を把握。

【重視している指導の成果】

重視している指導について、どの程度成果が出ているかを聞いたところ、前掲の3つの重視している指導項目については、いずれも「変化は見られない」という回答が多くなっており、中でも、最も重視している指導項目「避難訓練等を通して迅速な避難行動ができる」については、「わからない」という回答も多い。（複数回答可）



重視している指導

- 1 児童生徒が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 児童生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 児童生徒が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 児童生徒が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 児童生徒が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 児童生徒が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。

【防災教育の成果を把握する上での課題】

特別支援学校において、防災教育の成果を把握する上でどのような課題があるかを聞いたところ、おもな回答は以下のとおりである。

- ・防災訓練で風邪などにより休む児童生徒がいることから、必ず全児童生徒の訓練が実施できていない。
- ・防災教育に成果という言葉が当てはまるとは思えない。どんなに綿密な防災教育をしても想定が実際の災害を上回る成果を上げることは無理だと考える。一人一人の児童生徒が、自分の命は自分で守るという意識の下、実際に災害が起きた時にどう動いていくのかを見ないと、成果を評価はできないように思う。
- ・障がいの程度により、評価基準を一定に設定できない。
- ・児童生徒個々の障がいの程度に応じた指導が必要である。また、自立した行動ができるようになるためにサポートする側と家庭との連携も必要である。
- ・特別支援学校については、小・中学校のように「我が家の地震対策プロジェクト」のようなシートへの記入で把握するのは難しい。そこで特別支援学校における防災教育の成果の評価は、防災計画の見直しの場等を利用して管理職から直接聞き取る方法で行っている。
- ・特別支援学校では、児童生徒が自分の判断や一人の力で行動できない部分があり、評価の観点が難しい。

⑥学校別防災教育の課題

各学校における防災教育の課題を聞いたところ、おもな回答は以下のとおりである。

小学校

- ・災害等発生時に現実的な対応が図られるよう、学校と地域とが一体となった避難訓練の実施について検討をすすめる必要がある。
- ・保護者（車送迎）の参加等も想定した避難訓練にも取り組んでいきたい。
- ・災害の怖さを知る。大人の指示を迅速に聞くことができるようにする。
- ・避難の仕方、避難経路の確認、冷静に避難する態度の育成。
- ・地域の防災や安全マップを理解し、登下校時に災害発生した場合の対処の方法等を学習する場を各学校ごとに実施する。
- ・学校・家庭・地域・自治体が一体となった地域連携型防災教育。

中学校

- ・災害等発生時に現実的な対応が図られるよう、学校と地域とが一体となった避難訓練の実施について検討をすすめる必要がある。
- ・幼稚園・小学校と連携した避難訓練にも取り組んでいきたい。
- ・災害の事実を知る。普段から災害に備え、自ら考え自分の命を守れるようにする。避難場所を把握し防災知識を高める。
- ・自然災害等に対する正しい知識と、迅速な避難行動及び災害時に役立つ技能等の身につけが課題。
- ・自らの安全を確保しつつ、状況に応じて、他の被災者の力となれる知識や心を育てること。

高等学校

- ・地域や社会全体の安全について考え行動させるため、家庭や地域との連携を図りながら実践的な防災教育を推進すること。
- ・ボランティア支援活動等への参加など「自助」から「共助」への意識付け。
- ・継続可能な防災教育のカリキュラムの作成学校間連携，地域・行政との連携が課題。
- ・発生時間帯などを考慮した実効性のある避難訓練と応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できる訓練の実施。
- ・社会や地域に貢献することができる資質や態度を育成すること、また、体系的に取り組む防災教育の内容を整備することが課題。

特別支援学校

- ・地域の協力・連携のもとに防災教育を進めていくことが必要。
- ・自力で避難できない児童生徒に対する避難対策や対応の検討、時や場所等様々な条件化での安全対策を詳細に想定し、実情に合った計画を作成する。
- ・それぞれの障害程度の応じた防災教育や避難訓練等について、体系的に取り組む防災教育の内容を整備することが課題。
- ・児童生徒等の障害の状態、発達の段階、特性等及び地域の実態等に応じて、自ら危険な場所や状況を予測・回避できるようにするとともに、必要な場合は援助を求めることができるようにする。
- ・災害発生時にパニックに陥らず冷静に行動できるようにする体験型防災教育。

(2) 学校へのアンケート調査

①概要

○調査対象学校数：509校

小学校：240校

中学校：190校

高等学校：50校

特別支援学校：29校

○調査期間：平成25年11月2日～12月16日

○調査方法

選定した学校に対して、郵送による配布、回収は郵送回収と電子メールによる回収を行った。

○回収状況：339校の回収(67%)

②アンケート調査の目的

文部科学省では東日本大震災等で明らかになった教訓を踏まえ、児童生徒の発達段階に応じた効果的かつ体系的な防災教育を推進するため、全国で防災教育を積極的に実践している学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）を対象に、アンケートや現地調査を行い、①教育目標、達成目標、学習のねらい、②学習指導の方法、③児童生徒の達成度を客観的かつ総合的に評価する手法について調査研究を行うと共に、その成果を報告書に取りまとめ、学校現場での指導に活用されるよう各教育委員会等へ配布することとしている。

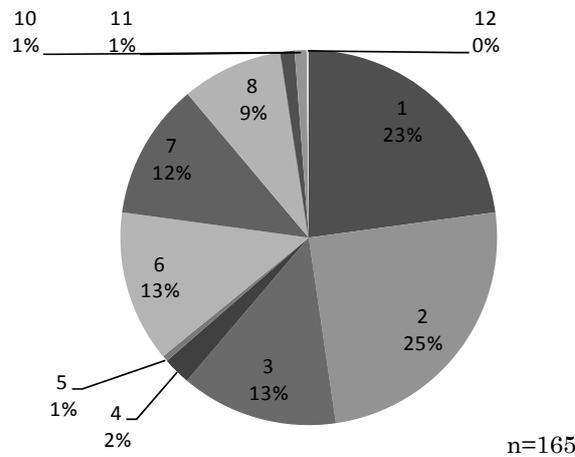
このアンケート調査は、以上を踏まえて、教育委員会への調査から積極的に防災教育を推進している学校として紹介していただいた高等学校へアンケート調査票を送付し、防災教育の内容や高校生の達成度を客観的かつ総合的に評価する方法などを明らかにするものである。

③小学校 1, 2 学年

ア 防災教育に関して特に重視している教育内容

問：児童への防災教育に関して、児童の発達の段階に応じて、どのような点を重視していますか。

この学年で重視されている点は、「日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」「きまりの大切さを理解すること」「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるよくなること」等となっている。



1, 2 学年で重視している項目

- 1 教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること。
- 2 日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること。
- 3 きまりの大切さを理解すること。
- 4 地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 5 被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解すること。
- 6 安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるよくなること。
- 7 危険な状況を見つけた時、身近な大人にすぐ知らせることができるようになること。
- 8 災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるよくなること。
- 9 高齢者や地域の人と関わり、自分のできることをするようになること。
- 10 友達と協力して活動に取り組むことができるようになること。
- 11 自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができるよくなること。
- 12 その他

イ 重要指導項目に対する教育活動及び具体的指導の手立て

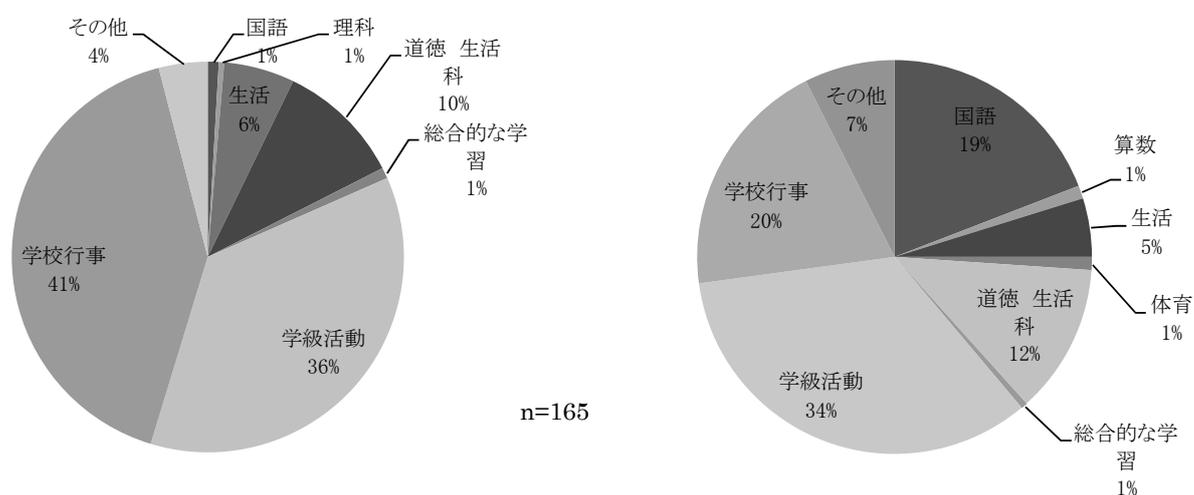
防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、上位2項目について、教育活動と具体的指導の手立てを整理した。

【重要指導項目】

- 「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」
- 「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」

【教育活動】

- 「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対する教育活動は、学校行事及び学級行事が多くなっている。
- 「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」に対する教育活動は、学校行事、学級行事及び国語等となっている。



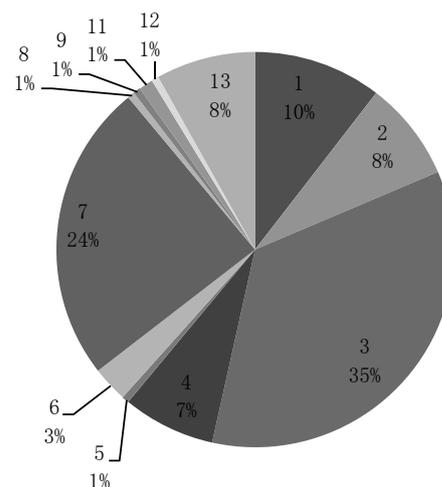
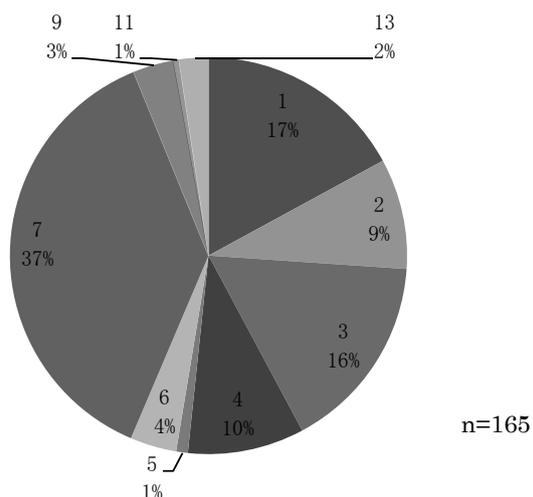
○「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対する教育活動

○「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」に対する教育活動

【具体的指導の手立て】

○「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対する具体的指導の手立ては、緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施が多くなっている。

○「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」に対する具体的指導の手立ては、通常使用している教科書や副教材を活用することが多くなっている。



○「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対する具体的指導の手立て

○「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」に対する具体的指導の手立て

- 1 写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴を実施している。
- 2 外部からのゲストティーチャーを活用している。
- 3 通常使用している教科書や副教材を活用している。
- 4 自治体等が作成した副教材を活用している。
- 5 防災ポスターや標語づくり、新聞づくり等を実施している。
- 6 地域と連携し児童を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させている。
- 7 緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施している。
- 8 テント生活や教室での宿泊生活などを実施している。
- 9 幼稚園や高齢者や障がい者福祉施設等と連携し、避難行動訓練を実施している。
- 10 応急手当の方法について、講義や実習を実施している。
- 11 自分たちが学んだことや作成した防災作品を発表させている。
- 12 地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組方法を調査している。
- 13 その他の手立て。

ウ 重要指導項目に対する把握方法とその効果

防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、前掲で示した重視している上位2項目について、その成果をどのような方法で把握しているか、また効果はどのようなであったかを整理した。

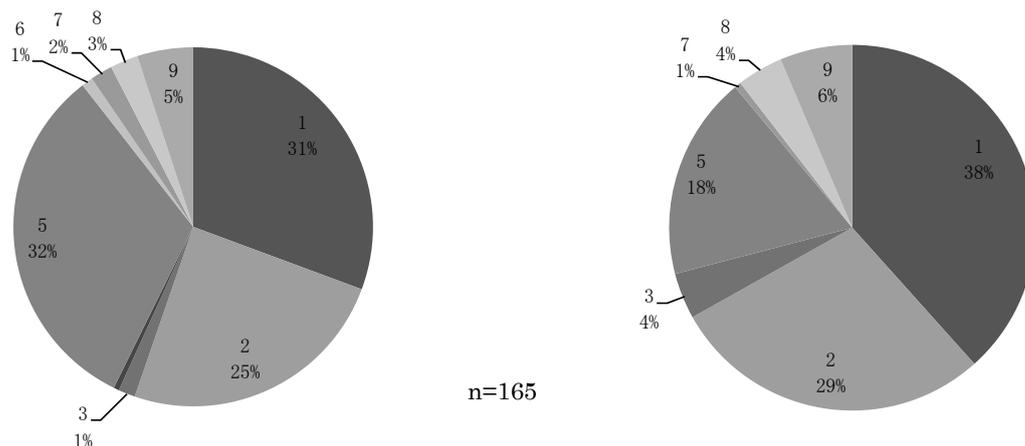
【把握方法と効果】

重視している指導項目「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対して、「避難行動や避難所での生活訓練」「クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等」「児童の自己評価シート」等によって把握している。

また効果については、同指導項目を選定した回答者のほとんどが、やや効果が上がっている、かなり効果が上がっていると回答している。

同様に指導項目「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」に対しては、「クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等」「児童の自己評価シート」等によって把握している

また効果については、上記同様に、同指導項目を選定した回答者のほとんどが、やや効果が上がっている、かなり効果が上がっていると回答している。



○「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対する把握方法

○「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」に対する把握方法

- 1 クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等。
- 2 児童の自己評価シート。
- 3 学校独自のペーパーテストや検定等。
- 4 自治体等や外部団体等が実施する検定等。
- 5 避難行動や避難所での生活訓練。
- 6 けがなどの簡単な応急手当の技能テスト。
- 7 地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への児童の参加状況。
- 8 特に把握していない。
- 9 その他の把握方法。

【その他の把握方法】

その他の把握方法は以下のとおりである。

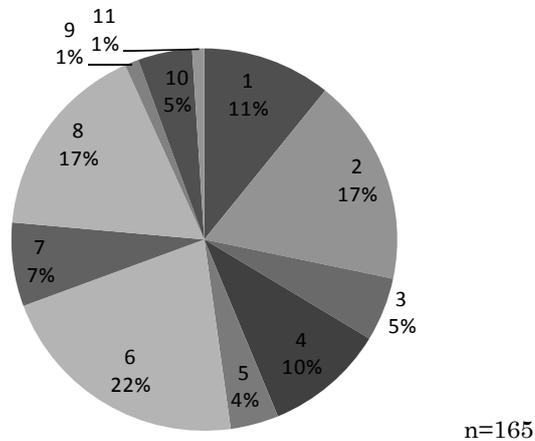
- 学校における避難・防災訓練における児童の参加状況
- 学級指導 口答で振り返り
- 教師の行動観察
- 担任による態度面の評価
- 担任とのやりとり
- 避難訓練時の事前・事後指導
- 児童の反省用紙
- 教師間や保護者との情報交換
- 職員によるアンケート
- 授業，集会，訓練の際の行動観察
- 訓練の際の行動観察，学校評価の項目に入れている

④小学校3，4学年

ア 防災教育に関して特に重視している教育内容

問：児童への防災教育に関して、児童の発達の段階に応じて、どのような点を重視していますか。

「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」が最も多く、次いで「日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」，「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」、さらには「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」、「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」が多くなっている。



3，4 学年で重視している項目

- 1 教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること。
- 2 日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること。
- 3 きまりの大切さを理解すること。
- 4 地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 5 被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解すること。
- 6 安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること。
- 7 危険な状況を見つけた時、身近な大人にすぐ知らせることができるようになること。
- 8 災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること。
- 9 高齢者や地域の人と関わり、自分のできることをするようになること。
- 10 友達と協力して活動に取り組むことができるようになること。
- 11 自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができるようになること。
- 12 その他

イ 重要指導項目に対する教育活動及び具体的指導の手立て

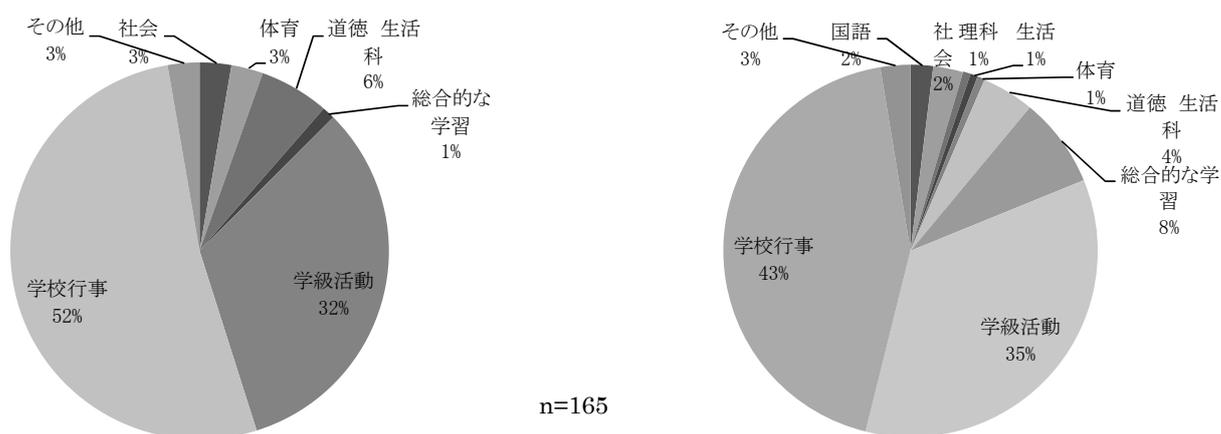
防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、上位2項目について、教育活動と具体的指導の手立てを整理した。

【重視項目】

- 「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」
- 「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」

【教育活動】

- 「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対する教育活動は、学校行事及び学級行事が多くなっている。
- 「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対する教育活動も、学校行事、学級行事及び国語等となっている。

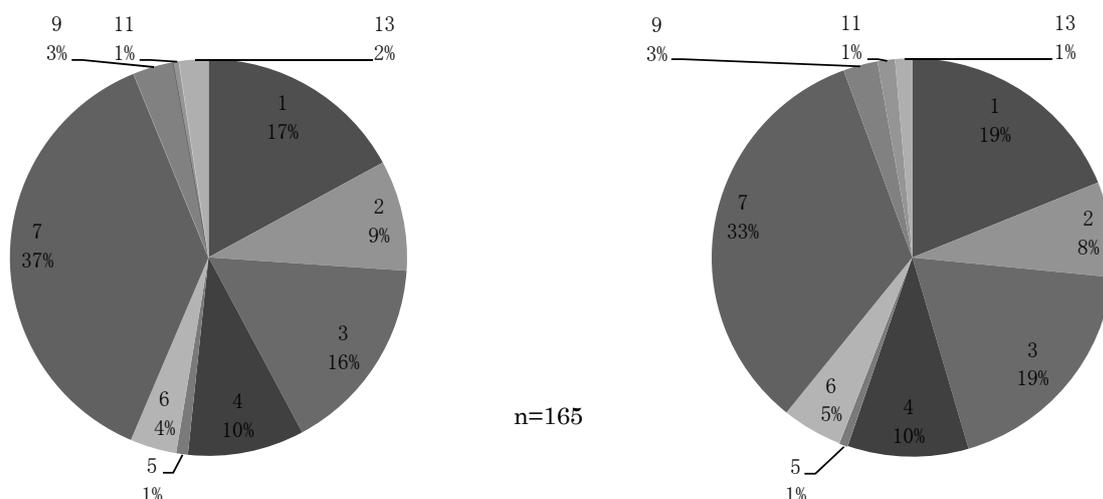


○「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対する教育活動

○「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対する教育活動

【具体的指導の手立て】

- 「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対する具体的指導の手立ては、緊急地震速報の活用等により学校全体で定期的に避難行動訓練を実施が多くなっている。
- 「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対する具体的指導の手立ては、緊急地震速報の活用等により学校全体で定期的に避難行動訓練を実施、また、写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴、通常使用している教科書や副教材を活用することが多くなっている。



○「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対する具体的指導の手立て

○「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対する具体的指導の手立て

- 1 写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴を実施している。
- 2 外部からのゲストティーチャーを活用している。
- 3 通常使用している教科書や副教材を活用している。
- 4 自治体等が作成した副教材を活用している。
- 5 防災ポスターや標語づくり、新聞づくり等を実施している。
- 6 地域と連携し児童を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させている。
- 7 緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施している。
- 8 テント生活や教室での宿泊生活などを実施している。
- 9 幼稚園や高齢者や障がい者福祉施設等と連携し、避難行動訓練を実施している。
- 10 応急手当の方法について、講義や実習を実施している。
- 11 自分たちが学んだことや作成した防災作品を発表させている。
- 12 地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組方法を調査している。
- 13 その他の手立て。

ウ 把握方法とその効果

防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、前掲で示した重視している上位2項目について、その成果をどのような方法で把握しているか、また効果はどのようなであったかを整理した。

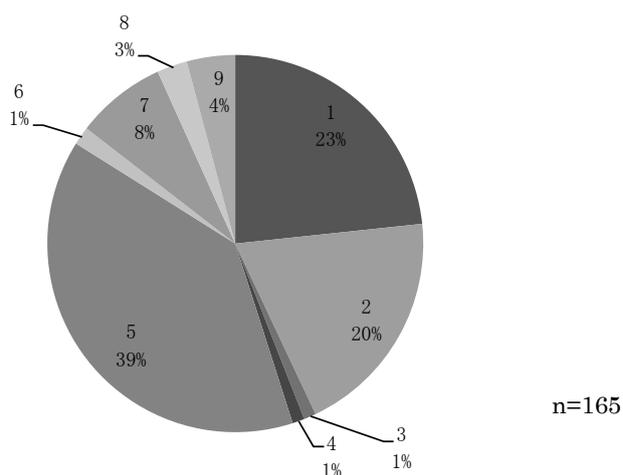
【把握方法と効果】

重視している指導項目「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対して、「避難行動や避難所での生活訓練」「クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等」「児童の自己評価シート」等によって把握している。

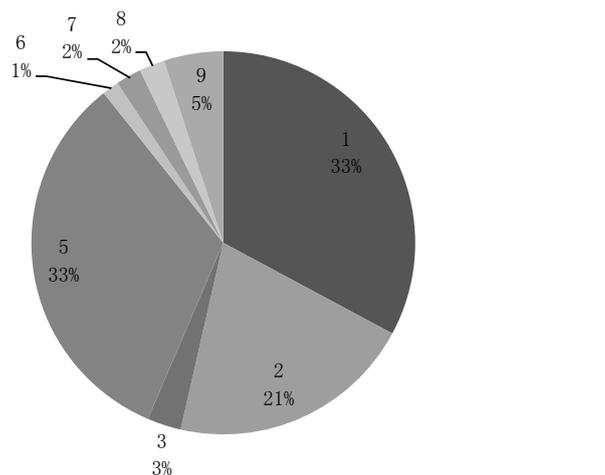
また効果については、同指導項目を選定した回答者のほとんどが、やや効果が上がっている、かなり効果が上がっていると回答している。

同様に指導項目「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対しては、「写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴」「防災ポスターや標語づくり、新聞づくり」等によって把握している

また効果については、上記同様に、同指導項目を選定した回答者のほとんどが、やや効果が上がっている、かなり効果が上がっていると回答している。



○「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対する把握方法



○「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」に対する把握方法

- 1 クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等。
- 2 児童の自己評価シート。
- 3 学校独自のペーパーテストや検定等。
- 4 自治体等や外部団体等が実施する検定等。
- 5 避難行動や避難所での生活訓練。
- 6 けがなどの簡単な応急手当の技能テスト。
- 7 地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への児童の参加状況。
- 8 特に把握していない。
- 9 その他の把握方法。

【その他の把握方法】

その他の把握方法は以下のとおりである。

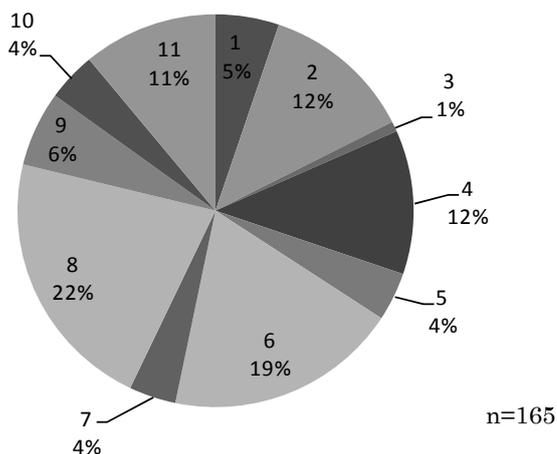
- 学級指導 口答で振り返り
- 避難訓練時の事前・事後指導
- 行動観察
- 職員によるアンケート
- 日常の会話やメモ日記等
- 指導後の感想発表
- 日々の安全指導、避難訓練
- 学校のまわりの地図の作成
- 訓練の際の行動観察，学校評価の項目に入れている

⑤小学校5，6学年

ア 防災教育に関して特に重視している教育内容

問：児童への防災教育に関して、児童の発達の段階に応じて、どのような点を重視していますか。

「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」が最も多く、次いで「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」、さらには「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」、「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」、「自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができるようになること」が多くなっている。



5、6学年で重視している項目

- 1 教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること。
- 2 日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること。
- 3 きまりの大切さを理解すること。
- 4 地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 5 被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解すること。
- 6 安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること。
- 7 危険な状況を見つけた時、身近な大人にすぐ知らせることができるようになること。
- 8 災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること。
- 9 高齢者や地域の人と関わり、自分のできることをするようになること。
- 10 友達と協力して活動に取り組むことができるようになること。
- 11 自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができるようになること。
- 12 その他

イ 重要指導項目に対する教育活動及び具体的指導の手立て

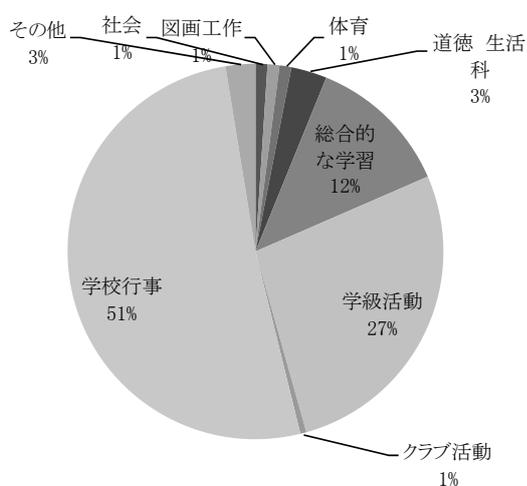
防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、上位2項目について、教育活動と具体的指導の手立てを整理した。

【重視項目】

- 「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」
- 「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」

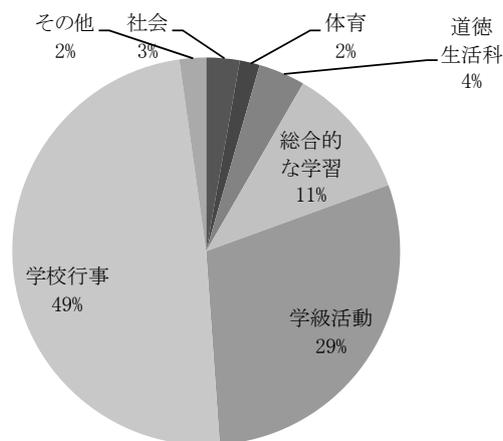
【教育活動】

- 「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対する教育活動は、学校行事及び学級行事が多く、また、総合的な学習の時間も多くなっている。
- 「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対する教育活動も、学校行事及び学級行事が多く、また、総合的な学習の時間も多くなっている。



n=165

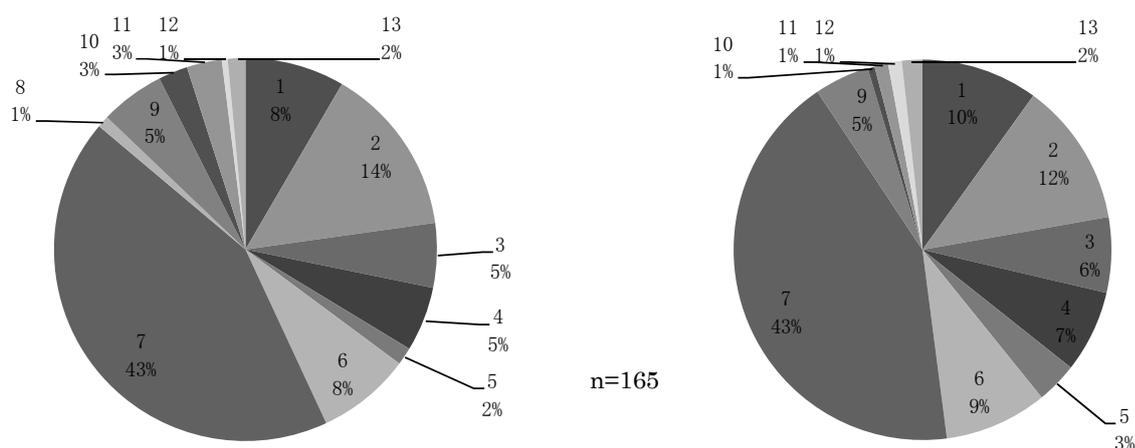
- 「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対する教育活動



- 「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対する教育活動

【具体的指導の手立て】

- 「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対する具体的指導の手立ては、緊急地震速報の活用等により学校全体で定期的に避難行動訓練を実施が多くなっている。
- 「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対する具体的指導の手立ても、緊急地震速報の活用等により学校全体で定期的に避難行動訓練を実施が多くなっている。



○「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対する具体的指導の手立て

○「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対する具体

- 1 写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴を実施している。
- 2 外部からのゲストティーチャーを活用している。
- 3 通常使用している教科書や副教材を活用している。
- 4 自治体等が作成した副教材を活用している。
- 5 防災ポスターや標語づくり、新聞づくり等を実施している。
- 6 地域と連携し児童を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させている。
- 7 緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施している。
- 8 テント生活や教室での宿泊生活などを実施している。
- 9 幼稚園や高齢者や障がい者福祉施設等と連携し、避難行動訓練を実施している。
- 10 応急手当の方法について、講義や実習を実施している。
- 11 自分たちが学んだことや作成した防災作品を発表させている。
- 12 地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組方法を調査している。
- 13 その他の手立て。

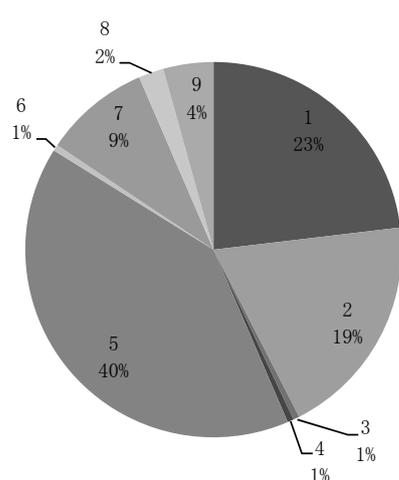
ウ 把握方法とその効果

防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、前掲で示した重視している上位2項目について、その成果をどのような方法で把握しているか、また効果はどのようなであったかを整理した。

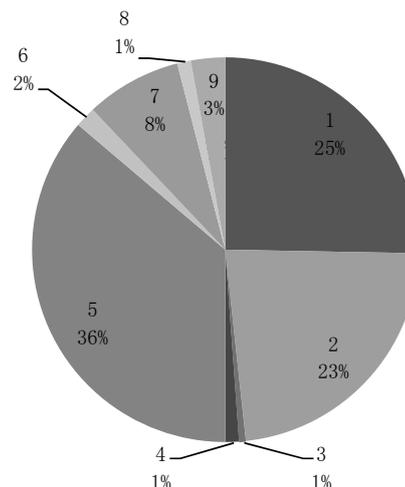
【把握方法と効果】

重視している指導項目「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対して、「避難行動や避難所での生活訓練」「クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等」「児童の自己評価シート」等によって把握している。また効果については、同指導項目を選定した回答者のほとんどが、やや効果が上がっている、かなり効果が上がっていると回答している。

同様に指導項目「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対しても、「避難行動や避難所での生活訓練」「クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等」「児童の自己評価シート」等によって把握している。また効果については、上記同様に、また効果については、同指導項目を選定した回答者のほとんどが、やや効果が上がっている、かなり効果が上がっていると回答している。



n=165



○「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対する把握方法

○「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」に対する把握方法

- 1 クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等。
- 2 児童の自己評価シート。
- 3 学校独自のペーパーテストや検定等。
- 4 自治体等や外部団体等が実施する検定等。
- 5 避難行動や避難所での生活訓練。
- 6 けがなどの簡単な応急手当の技能テスト。
- 7 地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への児童の参加状況。
- 8 特に把握していない。
- 9 その他の把握方法。

【その他の把握方法】

その他の把握方法は以下のとおりである。

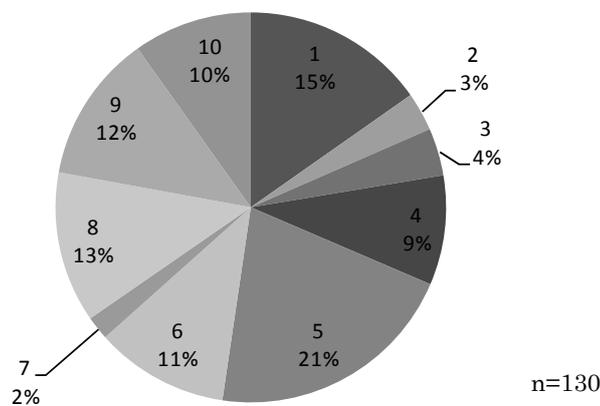
- 避難訓練時の事前・事後指導
- 児童の反省用紙
- 日常の会話やメモ日記等
- 指導後の感想発表

⑥中学校

ア 防災教育に関して特に重視している教育内容

問：生徒への防災教育に関して、どのような点を重視していますか。

「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすこと ができるようになること」「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」「自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができるようになること」等となっている。



重視している項目

- 1 地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 2 被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解すること。
- 3 災害時のメカニズムの基礎や諸地域の災害例から危険を理解すること。
- 4 備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 5 災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること。
- 6 日常生活において知識を基に正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができるようになること。
- 7 災害の軽減、災害後の生活を考え備えることができるようになること。
- 8 災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること。
- 9 自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができるようになること。
- 10 地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加することができるようになること。
- 11 その他

イ 重要指導項目に対する教育活動及び具体的指導の手立て

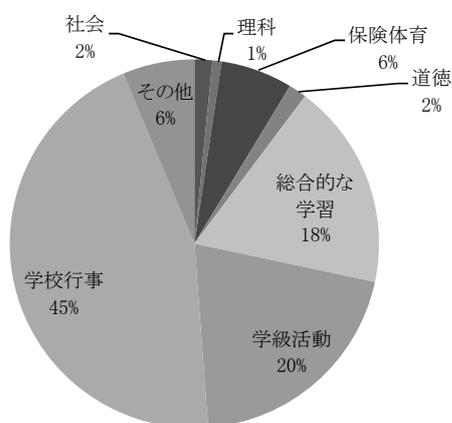
防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、上位2項目について、教育活動と具体的指導の手立てを整理した。

【重視項目】

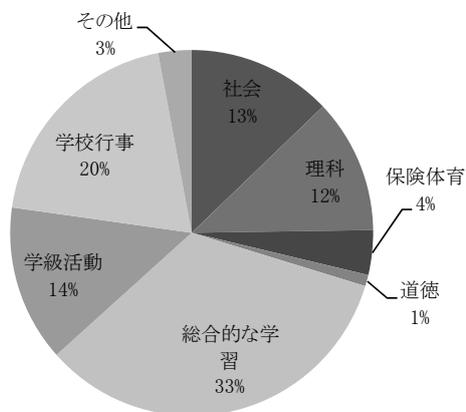
- 「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」
- 「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」

【教育活動】

- 「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対する教育活動は、学校行事及び学級行事、また総合的な学習が多くなっている。
- 「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」に対する教育活動は、総合的な学習の時間が多く、次いで学校行事、学級活動、社会、理科等となっている。



n=130

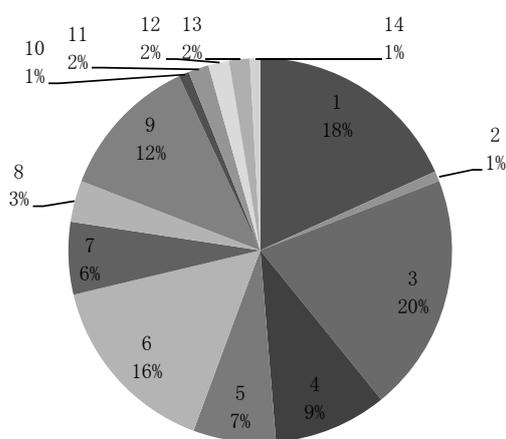
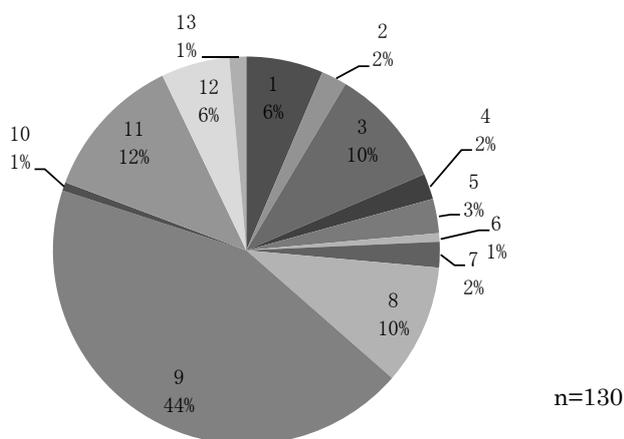


○「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対する教育活動

○「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」に対する教育活動

【具体的指導の手立て】

- 「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対する具体的指導の手立ては、緊急地震速報の活用等により学校全体で定期的に避難行動訓練を実施が多くなっている。
- 「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」に対する具体的指導の手立ては、外部からのゲストティーチャーの活用、写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴、地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組等の調査が多くなっている。



○「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対する具体的指導の手立て

○「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」に対する具体的指導の手立て

- 1 写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴を実施している。
- 2 防災関連施設を活用している。
- 3 外部からのゲストティーチャーを活用している。
- 4 通常使用している教科書や副教材を活用している。
- 5 自治体等が作成した副教材を活用している。
- 6 地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組等の調査を実施している。
- 7 ワークシートへの生徒自らの記入や、グループディスカッションをしている。
- 8 地域と連携し、生徒を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させている。
- 9 緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施している。
- 10 テント生活や教室での宿泊生活などを実施している。
- 11 幼稚園、小学校、高齢者や障がい者福祉施設等と連携し、避難行動訓練を実施している。
- 12 応急手当の方法について、講義や実習を実施している。
- 13 自分たちが学んだことや作成した防災作品を発表させている。
- 14 その他の手立て。

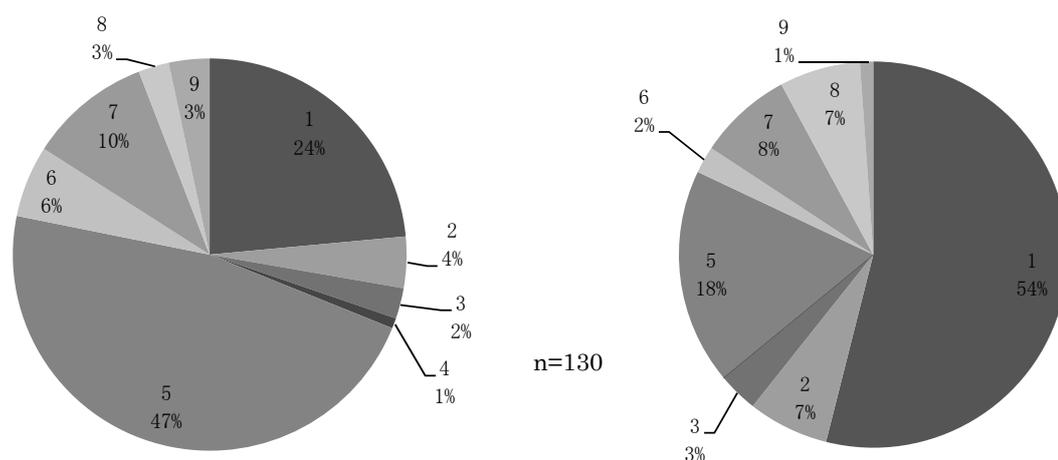
ウ 把握方法とその効果

防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、前掲で示した重視している上位2項目について、その成果をどのような方法で把握しているか、また効果はどのようなであったかを整理した。

【把握方法と効果】

重視している指導項目「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対して、「避難行動や避難所での生活訓練」による把握がほとんどで、次いで「授業の中での生徒の発表や、生徒が記入したワークシート等」によって把握している。また効果については、同指導項目を選定した解答者のほとんどが、やや効果が上がっている、かなり効果が上がっていると回答している。

同様に指導項目「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」に対して、「授業の中での生徒の発表や、生徒が記入したワークシート等」による把握がほとんどとなっている。また効果については、同指導項目を選定した解答者のほとんどが、やや効果が上がっている、かなり効果が上がっていると回答している。



○「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」に対する把握方法

○「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」に対する把握方法

- 1 授業中での生徒の発表や、生徒が記入したワークシート等。
- 2 授業中の生徒の言動等をチェックする授業評価シート。
- 3 学校独自のペーパーテストや検定等。
- 4 自治体等や外部団体等が実施する検定等。
- 5 避難行動や避難所での生活訓練。
- 6 けがなどの簡単な応急手当や、心肺蘇生、AEDの操作等の技能テスト。
- 7 地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への生徒の参加状況。
- 8 特に把握していない。
- 9 その他の把握方法。

【その他の把握方法】

その他の把握方法は以下のとおりである。

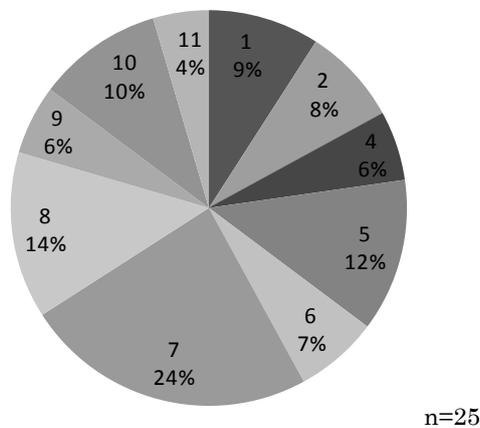
- 学校における避難・防災訓練における児童の参加状況
- 学級指導 口答で振り返り
- 避難訓練時の事前・事後指導
- 児童の反省用紙
- 職員によるアンケート
- 日常の会話やメモ日記等
- 指導後の感想発表
- 学校のまわりの地図の作成
- 訓練の際の行動観察，学校評価の項目に入れている

⑦高等学校

ア 防災教育に関して特に重視している教育内容

問：生徒への防災教育に関して、どのような点を重視していますか。

「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」「日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること」「日常生活において知識を基に正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができるようになること」「地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加することができるようになること」等となっている。



重視している指導項目

- 1 災害時のメカニズムの基礎や諸地域の災害例から危険を理解すること。
- 2 備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 3 世界や日本の主な災害の歴史や原因を理解すること。
- 4 災害時に必要な物資や支援について考え、日常生活や災害時に適切な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 5 日常生活において知識を基に正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができるようになること。
- 6 災害の軽減、災害の生活を考え備えることができるようになること。
- 7 災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること。
- 8 日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること。
- 9 災害時には地域や社会全体の安全について考え行動することができるようになること。
- 10 地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加することができるようになること。
- 11 事前の備えや災害時の支援について考え、積極的に地域防災や災害時の支援活動に取り組むことができるようになること。
- 12 その他

イ 重要指導項目に対する教育活動及び具体的指導の手立て

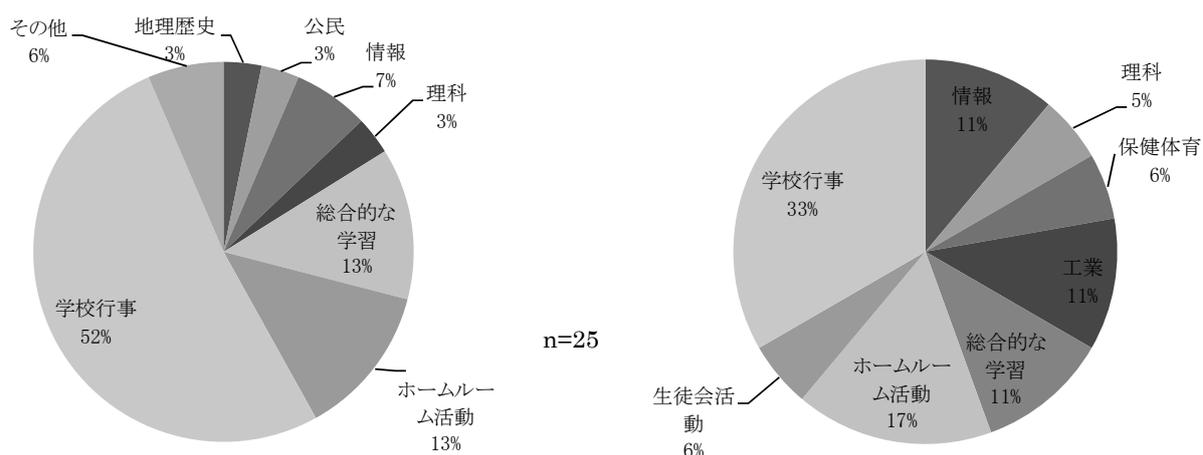
防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、上位2項目について、教育活動と具体的指導の手立てを整理した。

【重視項目】

- 「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」
- 「日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること」

【教育活動】

- 「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」に対する教育活動は、学校行事及、ホームルーム活動、総合的な学習が多くなっている。
- 「日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること」に対する教育活動は、学校行事、ホームルーム活動が多い。

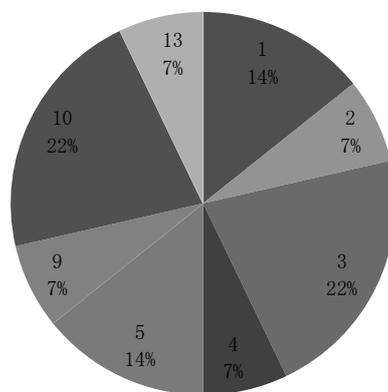
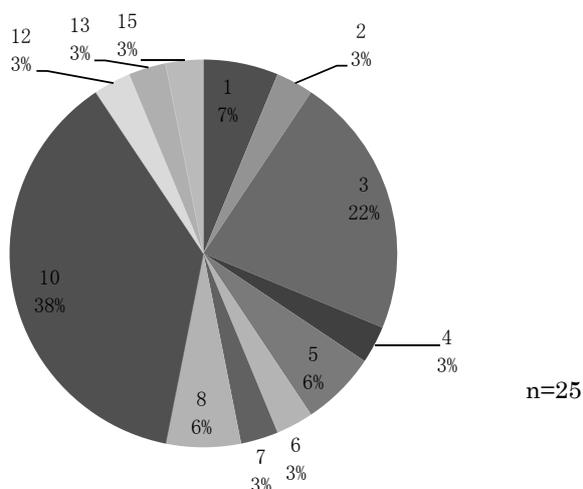


○「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」に対する教育活動

○「日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること」に対する教育活動

【具体的指導の手立て】

- 「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」に対する具体的指導の手立ては、緊急地震速報の活用等により学校全体で定期的に避難行動訓練、また、外部からのゲストティーチャーの活用が多くなっている。
- 「日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること」に対する具体的指導の手立ては、外部からのゲストティーチャーの活用、緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練、津波や地震災害等の情報を活用、自治体等が作成した副教材の活用等となっている。



○「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」に対する具体的指導の手立て

○「日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること」に対する具体的指導の手立て

- 1 津波や地震災害等の情報を活用している。
- 2 防災関連施設を活用している。
- 3 外部からのゲストティーチャーを活用している。
- 4 通常使用している教科書や副教材を活用している。
- 5 自治体等が作成した副教材を活用している。
- 6 地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組等の調査を実施している。
- 7 ワークシートへの生徒自らの記入や、グループディスカッションをしている。
- 8 地域と連携し、生徒を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させている。
- 9 災害図上訓練を実施している。
- 10 緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施している。
- 11 高齢者や障害者等への配食サービスを実施している。
- 12 テント生活や教室での宿泊生活などを実施している。
- 13 幼稚園、小中学校、高齢者や障がい者福祉施設等と連携し、避難行動訓練を実施している。
- 14 応急手当の方法について、講義や実習を実施している。
- 15 自分たちが学んだことや作成した防災作品を発表させている。
- 16 津波や地震等の地域の災害特性や防災への取組を調査している。
- 17 その他の手立て。

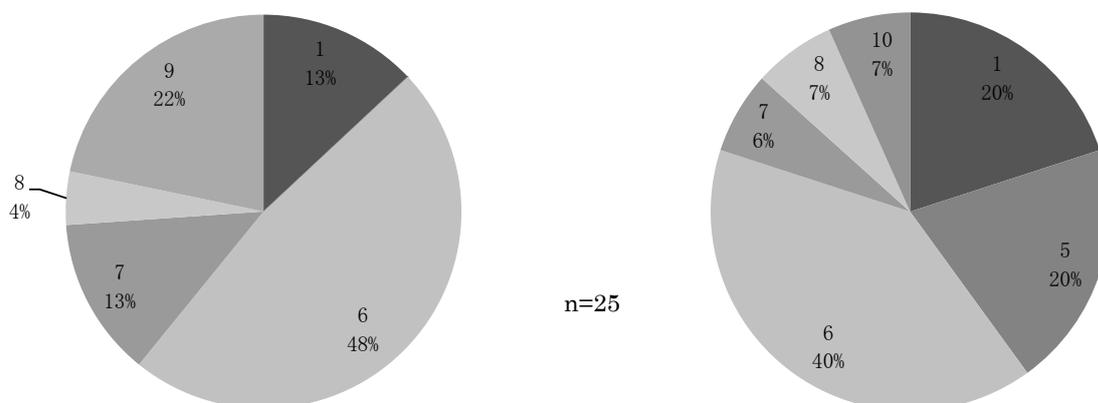
ウ 把握方法とその効果

防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、前掲で示した重視している上位2項目について、その成果をどのような方法で把握しているか、また効果はどのようなであったかを整理した。

【把握方法と効果】

重視している指導項目「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」に対して、「避難行動や避難所での生活訓練」による把握がほとんどで、次いで「特に把握していない」「授業中での生徒の発表や、生徒が記入したワークシート等」「けがなどの簡単な応急手当や、心肺蘇生、AEDの操作等の技能テスト」等による把握となっている。また効果については、同指導項目を選定した解答者のほとんどが、やや効果が上がっている、かなり効果が上がっていると回答している。

同様に指導項目「日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること」に対して、「避難行動や避難所での生活訓練」「授業中での生徒の発表や、生徒が記入したワークシート等」、「グループワーク」等による把握となっている。効果についても、同指導項目を選定した解答者のほとんどが、やや効果が上がっている、かなり効果が上がっていると回答している。



○「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」に対する把握方法

○「日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること」に対する把握方法

- 1 授業中での生徒の発表や、生徒が記入したワークシート等。
- 2 授業中の生徒の言動等をチェックする授業評価シート。
- 3 学校独自のペーパーテストや検定等。
- 4 自治体等や外部団体等が実施する検定等。
- 5 グループワーク。
- 6 避難行動や避難所での生活訓練。
- 7 けがなどの簡単な応急手当や、心肺蘇生、AEDの操作等の技能テスト。
- 8 地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への生徒の参加状況。
- 9 特に把握していない。
- 10 その他の把握方法。

【その他の把握方法】

その他の把握方法は以下のとおりである。

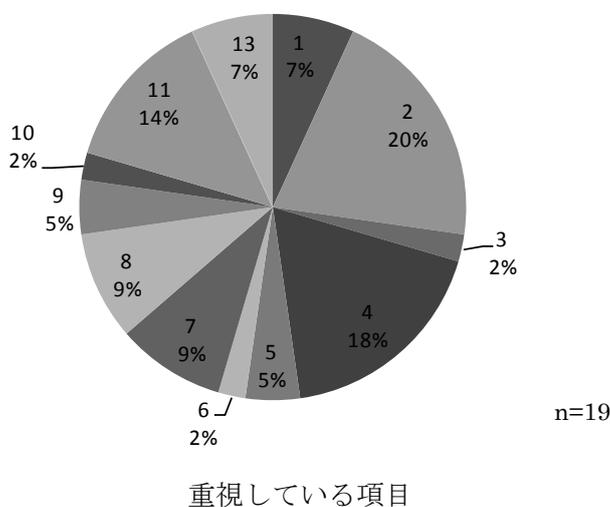
- 年度当初のアンケート調査
- 避難行動の時間測定
- 職員による観察
- 委員会での生徒の発表

⑧特別支援学校

ア 防災教育に関して特に重視している教育内容

問：児童・生徒への防災教育に関して、どのような点を重視していますか。

「児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること」「児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること」「児童・生徒が、災害に応じた安全な避難方法や日常生活での備えを理解し、パニック防止と安全な行動ができるようになること」「児童・生徒が、日頃から教師や他の児童・生徒等の言葉やサインを見聞きして、行動できるようになること」等となっている。



- 1 児童・生徒が、障害の種類と程度、発達段階に応じて、地震や津波などの災害を引き起こす自然現象について、正しい知識を習得できるようになること。
- 2 児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること。
- 3 児童・生徒が、地震や津波などの災害に対して、自分だけでなく、支援者として、学校、家庭、地域社会と助け合っ（連携して）、安全に貢献できるようになること。
- 4 児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること。
- 5 児童・生徒が、日頃から十分に身体を動かすことができるようになること。
- 6 児童・生徒が、日頃から帽子（防災頭巾やヘルメット）や靴の着脱ができるだけ早くできるようになること。
- 7 児童・生徒が、日頃から教師や他の児童・生徒等の言葉やサインを見聞きして、行動できるようになることを重視している。
- 8 児童・生徒が、日頃から集団生活のルールを理解できるようになること。
- 9 児童・生徒が、日頃から自分の気持ちを伝え、災害時にもコミュニケーションを図ることができるようになること。
- 10 児童・生徒が、災害時の初期対応や応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、様々な場面で活用できるようになること。
- 11 児童・生徒が、災害に応じた安全な避難方法や日常生活での備えを理解し、パニック防止と安全な行動ができるようになること。
- 12 児童・生徒への災害体験の語り継ぎ、継承、発信。
- 13 特別支援学校と家庭や地域との防災活動の連携の維持強化。
- 14 その他

イ 重要指導項目に対する教育活動及び具体的指導の手立て

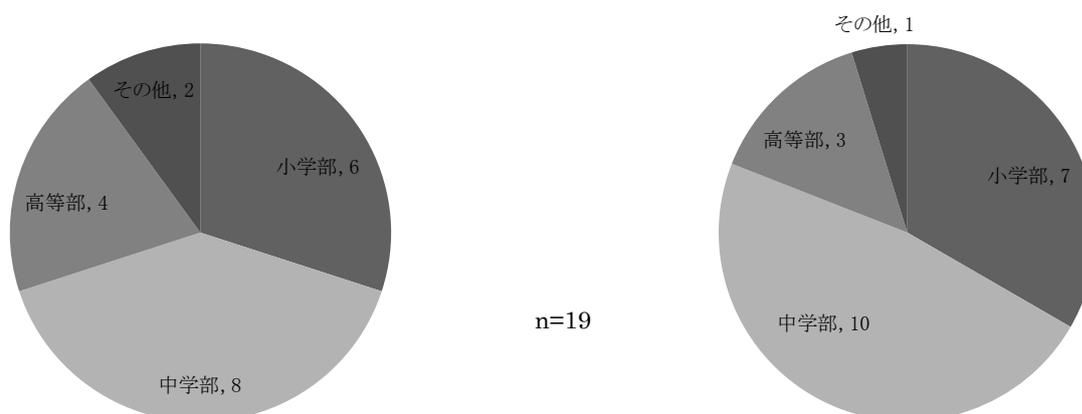
防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、上位2項目について、教育活動と具体的指導の手立てを整理した。

【重視項目】

- 「児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること」
- 「児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること」

【教育活動】

- 「児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること」に対する教育活動は、小学部、中学部、高等部で実施されているが、比較的中学部が多くなっている。
- 「児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること」に対する教育活動も、小学部、中学部、高等部で実施されているが、比較的中学部が多くなっている。

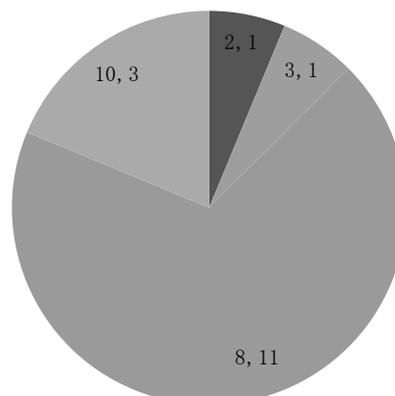
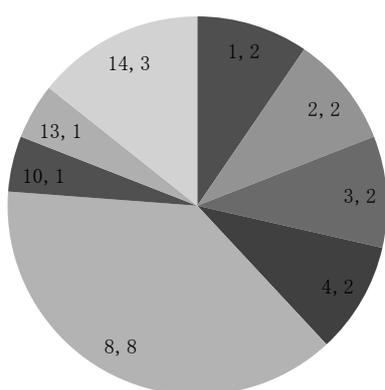


○「児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること」に対する教育活動

○「児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること」に対する教育活動

【具体的指導の手立て】

- 「児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること」に対する具体的指導の手立ては、緊急地震速報の活用等により学校全体で定期的に避難行動訓練することが多くなっている。
- 「児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること」に対する具体的指導の手立ても、緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練することが多くなっている。



n=19

- 「児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること」に対する具体的指導の手立て
- 「児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること」に対する具体的指導の手立て

- 1 写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴を実施している。
- 2 防災関連施設への見学を実施している。
- 3 外部からのゲストティーチャーの招聘による講演等を実施している。
- 4 通常使用している教科書や副教材を使用している。
- 5 自治体等が作成した副教材を使用している。
- 6 防災ポスターや標語づくり、新聞づくり等を実施している。
- 7 地域と連携し、児童・生徒を防災活動（避難行動、その他の防災訓練など）に参加させている。
- 8 緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施している。
- 9 テント生活や教室での宿泊生活等を実施している。
- 10 地域と連携し、避難行動訓練を実施している。
- 11 応急手当の方法について、講義や実習を実施している。
- 12 他の学校生徒と連携した避難行動や防災訓練をしている。
- 13 自分たちが学んだことや作成した防災作品を発表させている。
- 14 その他の手立て。

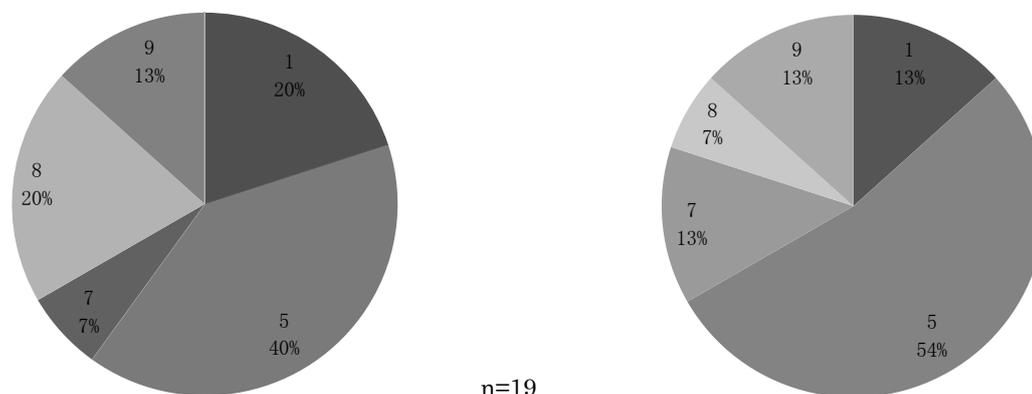
ウ 把握方法とその効果

防災教育に関して特に重視している教育内容の中から、前掲で示した重視している上位2項目について、その成果をどのような方法で把握しているか、また効果はどのようなであったかを整理した。

【把握方法と効果】

重視している指導項目「児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること」に対して、「避難行動や避難所での生活訓練」による把握が多く、次いで「授業中の児童・生徒の行動や発表、生徒が作成した作品」「等による把握となっている。また効果としては、これらの方法を選択した回答者は、やや効果が上がっていると回答している。

同様に指導項目「児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること」に対しても、「避難行動や避難所での生活訓練」による把握がほとんどであり、効果もやや効果があると回答している。



○「児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること」に対する把握方法

○「児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること」に対する把握方法

- 1 授業中の児童・生徒の行動や発表、生徒が作成した作品。
- 2 授業中の生徒の言動等をチェックする授業評価シート。
- 3 学校独自のペーパーテストや検定等。
- 4 自治体等や外部団体等が実施する検定等。
- 5 避難行動や避難所での生活訓練。
- 6 けがなどの簡単な応急手当や、心肺蘇生等の、児童・生徒の実習状況。
- 7 地域と連携した防災活動（避難行動訓練やその他防災訓練など）への、児童・生徒の参加行動。
- 8 特に把握していない。
- 9 その他の方法。

【その他の把握方法】

その他の把握方法は以下のとおりである。

- 生徒の実態に即した危機管理に関する定期的な質問、生活単元学習で防災学習を位置づけている
- アンケート調査や定期的に児童生徒の実態に即した危機管理に関する質問を行う

⑨評価結果の活かし方

評価した結果を防災教育にどのように活かすかを聞いたところ、以下のような回答を得た。

<p>小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の命を守るための行動は、家族や大切な人たちを守るための行動につながることを意識づけることにつながっている。 ○成果があがっていることを保護者・地域住民に知らせ、更なる協力を仰いでいきたい。 ○反省点及び既存学習を教職員間で共通理解し、防災教育の充実に繋げている。 ○職員間で情報交流し、互いの参考とすることに加え、結果を事後に児童にフィードバックしている。家庭や地域には概要を学校便り等で伝えている。 ○評価アンケート結果を保護者や地域に公表。家庭・地域ぐるみで防災意識を高める。 ○学習発表会を通し、児童だけでなく保護者や地域と連携した、より実践的な防災教育を目指している。
<p>中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練を行った後、生徒の自己評価（反省）をまとめ、生徒への指導に役立てる。 ○評価をもとに、避難の体制、手順を振り返る。 ○定期的に行っている避難訓練や市の防災シンポジウムの参加、他校との防災に関する交流、3年生の防災学習の発表会などを通して防災への意識向上につなげている。 ○学校評価アンケート、訓練後のアンケートを学校・学年だよりで公表するとともに反省を次年度に生かす。 ○生徒達が考えて作成した防災マップをプラスの評価をしたところ、さらに詳細な情報を付け加えながら、地域にも役立つものをつくりたいという意欲をもたせることができたので、来年度の防災教育の深化につなげたい。 ○学年だより等に掲載する等して、意識の高揚に努めている。 ○学校通信等で、その様子を広く地域へ知らせることで、地域と連携を図るようにしている。 ○防災学習のまとめや避難訓練の反省を「たより（学校、学級）にまとめ、教材として活用している。発行した「たより」を保護者、地域に配布し、取組への理解、協力を得ている。 ○年3回避難訓練を実施しているが、他の教育活動と同様にPDCAサイクルを機能させた有効な活動となるよう実践している。反省～見直し～改善のくり返しが大事と考える。
<p>高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体系的なカリキュラムを組み、3年間をトータルで人材育成のためのプログラム策作成に活用する。 ○次年度に活用する。課題を生徒に伝え、行動の指針とする。 ○職員で共有し防災職員研修に入れる。 ○生徒が他の生徒に情報を紹介し共有している。 ○自治会の訓練で行ったことや学んだことを研究発表しており、職員と地域住民との連絡会議で紹介している。 ○命を守る訓練を年6回実施。実施後HPにアップし、防災意識向上を目指している。
<p>特別支援学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練を定期的実施する中で避難経路や方法について検討を行い、次回の実施に活かしている。 ○避難訓練の反省を踏まえ、より様々な状況に対応できるように設定を変更した訓練の機会を設定するようにしている。 ○防災訓練後のアンケートや生徒の意識調査を、次回の防災訓練や生活単元学習「防災教育」に活かしている。

⑩防災教育への課題

防災教育への課題について聞いたところ、以下のような回答を得た。

<p>小学校</p>	<p>○自己評価カードだけでは十分な評価が出来ない。、グループでまとめたり、発表したりすることを行いたいが、時間がとれない。 ○評価テストをするわけではないので、学習したことが実際の時にどのように有効なのかが課題。 ○学校で集団でいる時は形としても評価でき、結果を指導に反映できる。しかし、家庭や地域にいる時や一人の時の評価は難しい。 ○自己評価や教師による評価という主観的評価が行われており、本当に子どもたちに力が身についているかという客観的な評価を行っていない。</p>
<p>中学校</p>	<p>○防災教育を具体的に評価することは難しいと思われるが、防災についてのペーパーテストや自治体や外部団体等が実施する検定などがあるのであれば、活用も検討していきたい。 ○防災教育というイメージしにくい問題に対して、より有効な評価は行動評価になる。その基準が明確になっていない。 ○防災のための学活、訓練では、全学年とも同一のねらいで行っているが、事後テストによる定着度の確認を行う等の時間を確保できていない。 ○VTRや写真を通して評価を行ったが、本当に災害が起きた時、どの程度活かされるのか不安がある。繰り返し訓練するしかないのかもしれない。 ○授業時間数には限界があり、防災教育にあてる時間の確保が難しい。 ○系統的な防災教育が確立されているとはいえないため、評価の基準も曖昧などころがある。いざという時に迅速な行動ができるかが検証できていない。 ○防災教育に関する実地訓練的な学習機会が少ない。（時間確保の困難） ○簡単に入手できる情報ツールに依存しすぎて切実感がない。 ○体験や学習知識の乏しさから危機管理に関する意識がない。 ○実施計画と評価計画が妥当であるかどうか明確ではない為、教師側が優れた成果をあげたと思っても、実践的な能力が生徒の身についているかどうかの検証が難しい。 ○防災教育の成果はすぐ表れることは難しいが、指導後の評価をどのようにしたらよいか課題。</p>
<p>高等学校</p>	<p>○各教科や総合的な学習の時間、特別活動など、学校教育全般で指導すべきであるが、どの時間に教えるか統一性がない。入学時、新学期、各教科で指導する週をもうけ、生徒の知識、理解を評価すべきかもしれない。 ○ペーパーテストになじまない教科なので、点数がつけづらい。 ○実際にどのような行動がとれるか。知識と行動が結びつくか分からない。 ○学校外部からのアドバイスにより、防災訓練がパターン化しないように注意している。 ○防災教育実施時間の確保が課題。適切な行動をとることを評価するのは困難。 ○防災訓練への参加は増えているが、評価シートは導入していない。</p>
<p>特別支援学校</p>	<p>○自立活動を主とする児童生徒への評価は防災という観点では難しい。 ○意思表示の困難な児童生徒の理解度の把握、知識だけではなく、実際に行動できるかを判断するための状況設定が課題。 ○児童生徒の実態に即した危機管理意識に関する質問の評価について、指標に曖昧な部分がある。 ○障害の特性に合った防災教育を実施しているが、児童・生徒一人一人の実態により、身につくまでに個人差が大きく、防災教育の課題が児童・生徒一人一人について設定される。</p>

⑪今後の防災教育への考え

今後、どのような防災教育をしようと考えているかを聞いたところ、以下のような回答を得た。

<p>小学校</p>	<p>○児童が主体的に行動できる態度、能力を育成できる活動、子供ができる災害ボランティアに関する活動、まだ行っていない活動を取り入れた防災体験（例えば避難所体験など）。</p> <p>○総合的な学習の時間を核とした防災学習の定着。</p> <p>○ICTを活用して家庭や地域と連携し、学校外に児童がいるとき（登下校中、家等）の安否確認のシステム作りの訓練。</p> <p>○自治会との連携訓練。炊き出しや避難所開設に係る訓練を指導者を招聘して行う予定。</p>
<p>中学校</p>	<p>○雪災害へのプログラム。災害から身を守るだけでなく、地域の良さ、自然の恩恵も含めた総合的な防災教育。脅しの防災にならない工夫。</p> <p>○来年度は生徒が地区ごとに作成したハザードマップをさらに小学生と一緒に検証し、練り上げて、地域にも広めること。</p> <p>○町のテーマ「防災と福祉の街づくり」とリンクさせて、地域の防災委と連携した防災教育を行っていく。</p> <p>○地域に貢献することをキーワードに学習を展開することで教育内容を充実させ、主体的に行動する力と市民性を育みたい。</p> <p>○地域と連携した防災会議を継続し、地域と学校が共に学校防災について取り組んでいきたい。今後は、災害時のボランティア活動として、中学生にできることを考えていきたい。</p> <p>○イベント的なものではなく、日常生活の中にしっかり定着するものを考えている。マンネリ化せず、習慣化をめざしたい。そのためにもふるさとを愛すること、命の大切さについて考えさせたい。</p> <p>○読売新聞社やNNNが共同で作成した防災教育資料を使って全校授業を行った。効果が認められるので今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>高等学校</p>	<p>○自分の身は自分で守るための知識を身につけ、行動を起こせるようにさせる。</p> <p>○地域とどのように関わるかを考えさせる。</p> <p>○特別活動だけでなく、各教科とつながった取組をしたい。</p> <p>○災害時対応における三本柱（サバイバー、サポーター、市民力）と災害誘因、素因を考える三本柱（ハザード、災害対応、社会背景）の融合。</p> <p>○学校周辺とのコミュニティづくりを防災教育に活かしたい。</p> <p>○各種の資料を活用し災害発生時の各自の行動、避難場所の確認と防災対策を実施。</p>
<p>特別支援学校</p>	<p>○様々な形態の（地域と連携した、地域の実状に見合った、児童生徒の主体的な行動を引き出す）避難訓練の実施。</p> <p>○児童生徒の理解度に応じたグルーピングによる防災学習。</p> <p>○福祉避難所に指定されたことを受け、ライフラインが断たれた状況で学校内に留まる体験。</p> <p>○災害時に連携が取れるところの一覧やマップ等の作成。</p> <p>○生活単元学習の防災教育単元の充実（減災（命を守る）のための行動ができる防災教育）。</p>

(3) アンケート調査のまとめ

教育委員会及び小中高等学校、特別支援学校に対するアンケート調査から、防災教育と評価の現状を以下にまとめた。

①防災教育について

ア 教育委員会

○多くの教育委員会では、各学校において実践的な学習や訓練が関係機関等と連携を図りながら実施されるようになってきていることを確認しており、そうした中で、さらに各学校と連携を図りながら、子どもが自ら身を守ろうとする態度や能力を育む体系的・具体的な安全教育の推進と危機管理体制の構築を目指している。

イ 各学校

○災害に対する正しい知識を習得し、危険を予測しながら自ら危険を回避することを学んでいるが、一方で、津波等の災害の恐怖により地域への愛着が薄れないよう、地域の自然資源の恵みや魅力についても学んでいる。これは特に津波の被害が心配される海岸部の学校において多く見られている。

自然への恐怖心を教えるのではなく、災害への正しい知識を教え、地域の自然の恵みや、魅力を教え、地域社会の安全安心づくりに積極的にかかわっていけるように指導している。

○日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解することは、主に学校行事や学級行事、総合的な学習の時間を活用して指導しているが、避難訓練が多くなっている。

そして訓練についても、危機的状況において本当に適切な行動ができるのか、また、学校で学んだことを地域で活かせるかという難しさを感じている。

○避難訓練はもちろん必要であるが、家庭や地域との連携を図り、人と人とのかかわりを大事にしながらか、安全な生活づくりや地域社会づくりに関心を持たせ、いつでも必要な時に参加できる意識を構築する教育が求められていると考えられる。

②評価に対する考え

ア 教育委員会

○教育委員会では、各学校の取組について報告を受けたり訓練を視察したり、またアンケート調査等を実施しながら学校での実施状況を把握しているが、児童生徒への成果等を直接的に評価することに困難を感じている。

○教育の成果を数値で表し把握することは難しく、形を重視する避難訓練による成果が評価の中心になっていると感じている。訓練の実施だけでなく、子どもの変容を確認する手立ての必要性を感じている。

イ 各学校

○防災教育の指導成果については、教科の中での防災的な活動に対して、自己評価シートや作文、作品づくり、グループなどでの発表等をとおして理解度を把握しているが、明確な基準を持たないため、何をもって成果があがったということになるか課題となっている。

○災害への知識や地域を理解することは比較的評価基準を設定しやすいが、災害予知、災害回避能力、社会貢献等への意識の成果に対する評価は容易ではないと感じている。

- そうした中でも、一部小学校や中学校のように、教科間の役割を明確にしながら地域と連携して年間指導計画を策定し、教科の中での評価と、地域との連携事業の中で自己診断し、話し合いや発表（全校生徒や対外的発表）を通して振り返りを行い、それを評価につなげる活動をしている例もある。
- 避難訓練だけではなく、防災学習の教育課程を防災行事と関連させて作成し、系統だった学習が実施できるようにしたいとの意見が多くあり、先進的な取組を参考にしながら、家庭や地域社会と連携し、発達段階に応じた防災教育の指導目標に照らして、児童生徒が理解し、どのように変容したかを把握する方法を構築していくが求められている。

2 ヒアリング調査結果

(1) ヒアリング調査対象校の選定

Web 情報やアンケート調査（教育委員会及び各学校へのアンケート調査等）及び、有識者会議委員からの推薦等を踏まえ、防災教育の取組が持続的であり、成果が現れている学校を選定した。

○調査対象校：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等約 10 校

○現地調査対象校の教員、対象校の一部児童生徒、地元行政担当者、教育委員会担当者を対象として、ヒアリング調査を行った。主なヒアリング内容は以下のとおりである。

- ・防災教育の内容について
- ・児童生徒の理解や行動に対する評価について
- ・防災教育の効果について

【調査対象校】

小学校

- 岩手県釜石市立釜石小学校
- 千葉県南房総市立七浦小学校
- 高知県四万十町立興津小学校

中学校

- 静岡県焼津市立和田中学校
- 和歌山県田辺市立新庄中学校
- 徳島県徳島市立津田中学校

高等学校

- 千葉県立銚子高等学校
- 静岡県立沼津西高等学校

特別支援学校

- 岐阜県立可茂特別支援学校
- 静岡県立浜松特別支援学校

(2) 小中高校、特別支援学校における防災教育の取組と成果把握の現状

①現地調査校の取組概要

現地調査校 10 校の防災教育の取組状況と、その成果を把握するための方法は以下に示すとおりである。（各学校の取組は、資料編を参照）

【現地調査校の取組概要】

注) 上段の○は防災教育の取組概況、下段●は評価の考え方を示したものである。

○防災マップづくりをとおして、地域の安全性や要援護者の存在を知り、地域住民との連携の大切さを学び、郷土への愛着が高まることを期待している。 ●これらの成果を全校生徒へ発表する準備と説明能力を観察し、理解度を把握。	①釜石小学校 (資料編1頁)
○各教科の中で、津波への対策と同時に海からの恵みと地域固有の資源の大切さを理解することや互いに助け合うことの大切さを学んでいる。 ●これらを学習後の感想文やふりかえりカードの作成を観察し、理解度を把握。	②七浦小学校 (資料編3頁)
○地域の自然や災害に対する知識習得を行うと共に、海の恵みについても理解しながら、自助・共助の考え方を学んでいる。 ●5～6年生はこれらを全校生徒に発表しており、その行動を観察し、理解度を把握。	③興津小学校 (資料編6頁)
○小中合同の避難訓練をとおして自助とともに幼児児童や地域の要援護者へのサポートの大切さを学んでいる。 ●これらをクラスの話し合いやアンケート調査を行い、その内容から理解度を把握。	④和田中学校 (資料編9頁)
○3年生を中心に、各教科に分かれて防災について考え総合的な取組が必要であること、同時に、地域のコミュニティの大切さを学んでいる。 ●これらを毎年実施している全校生徒と地域住民を対象とした「新庄地震学発表会」に向けた生徒の準備と、その発表力を観察し理解度を把握。	⑤新庄中学校 (資料編12頁)
○総合的学習の時間を活用して防災講座を設定しており2, 3年生が選択している。 ●防災講座では、地域とつながることをテーマとしつながる活動、地域に貢献する活動、被災地に貢献する活動、自ら体験する活動を実施している。	⑥津田中学校 (資料編15頁)
○防災教育は総合的な取組が必要であることから、教科として進めようとしている。また学校が地域の避難拠点であることから、地域との連携強化、ボランティア活動の大切さを学んでいる。 ●これらをクラスでの話し合いやレポート作成、ミニテスト等を実施し、理解度を把握。	⑦銚子高等学校 (資料編17頁)
○防災ノートを活用した防災学習と生徒会活動を中心として、防災知識の習得やボランティア活動、地域との連携を行い、防災リーダーの育成を行っている。 ●こうした取組参加する生徒の意識向上の経緯を観察し理解度を把握。	⑧沼津西高等学校 (資料編19頁)
○児童・生徒の体力、心の状態などの違いを踏まえて、避難行動や防災学習を進めている。 ●特に高等部では、生徒の作品作り、説明能力を観察し、防災への理解度を把握。	⑨可茂特別支援学校 (資料編22頁)
○児童・生徒の体力、心の状態などの違い踏まえて、避難行動を中心にした指導を行っている。 ●避難行動への対応や児童生徒の作品作りを観察し、防災への理解度を把握。	⑩浜松特別支援学校 (資料編24頁)

②評価の捉え方

現地ヒアリング調査を踏まえて、各学校においてどのような点にポイントを置き、防災教育の成果を把握しようとしているかを整理した。

評価の捉え方として浮かび上がった点は以下のように整理される。

- 防災学習をとおして、地域への愛着、人のつながりの大切さを理解する過程を観察する。
- 地域固有の資源を発見すること、自助共助の大切さを理解する過程を観察する。
- 要援護者へのサポート、地域コミュニティの大切さを理解する過程を観察する。
- 防災を総合的に取り組むための工夫、他生徒や地域住民への発表を観察する。
- 地域防災リーダー育成への取組とその過程を観察する。
- 防災学習、避難訓練への指導に対する児童生徒の対応を観察する。
- 防災学習の成果について児童生徒の説明能力を観察する。

また、これらの捉え方は「地域を理解し、人と人とのつながりの大切さに関心を持っているか」「支援者として防災への理解を深め、知識を向上させているか」「避難訓練等で自助、共助の考えを理解しているか」に分類される。以上を整理したものが以下である。

【地域を理解し、人と人とのつながりの大切さに関心を持っているか】

防災学習をとおして、地域への愛着、人のつながりの大切さを理解する過程を観察する

地域固有の資源を発見すること、自助共助の大切さを理解する過程を観察する

要援護者へのサポート、地域コミュニティの大切さを理解する過程を観察する

【支援者として防災への理解を深め、知識を向上させているか】

防災を総合的に取り組むための工夫、他生徒や地域住民への発表を観察する

地域防災リーダー育成への取組とその過程を観察する

【避難訓練等で自助、共助の考えを理解しているか】

防災学習、避難訓練への指導に対する児童生徒の対応を観察する

防災学習の成果について児童生徒の説明能力を観察する

1 学校における防災教育のねらい

文部科学省では、「学校防災のための参考資料「『生きる力』を育む防災教育の展開」（文科省、2013）の中で、防災教育のねらいを次のようにまとめている。

- 自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。
- 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。
- 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

本調査では、各学校においてこうした防災教育のねらいを受けて、必要な知識や能力を児童生徒に理解させ身につけさせていくために、どのような取組をしているか、また、その達成度をどのように評価しているかを明らかにした。

2 発達の段階に応じた防災教育と評価

(1) 小学校

①防災教育の目標

日常生活の様々な場面で発生する災害の危機を理解し、安全な行動ができるようにすると共に、他の人々の安全にも気配りできる児童を目指す。（「学校防災のための参考資料「『生きる力』を育む防災教育の展開」（文科省、2013）より）

②小学校 1， 2 学年の防災教育と評価

【防災教育で重視している点と教育活動】

アンケート調査から示されるように、この学年では、今後とも「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」を重視した防災教育を実施し、また、これらに対する教育活動としては、特定の教科や特別活動としての学級活動や学校行事の中で、写真やポスターの展示、ビデオ等映像を視聴したり、緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練の実施、また、防災ポスターや標語づくり、新聞づくり等を実施し、防災への関心を高めていくことなどが挙げられている。

【教科としての防災教育の評価】

教科としては主に国語、生活、体育等が挙げられており、この中では児童に対して、防災の標語づくりを通して地震や津波への対策と同時に海などからの自然資源の恵みや地域固有の資源の大切さを理解させている。また、防災関連グッズの準備や使用方法など、生活訓練や避難行動の訓練等も行われている。

教科として防災教育を評価する方法としては、担当教員が児童の授業への参加の度合い、発表内容、作文やポスターなどの制作物の内容等を把握する方法が挙げられており、アンケート調査からはこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。

【総合的な学習の時間や特別活動を活用した防災教育の評価】

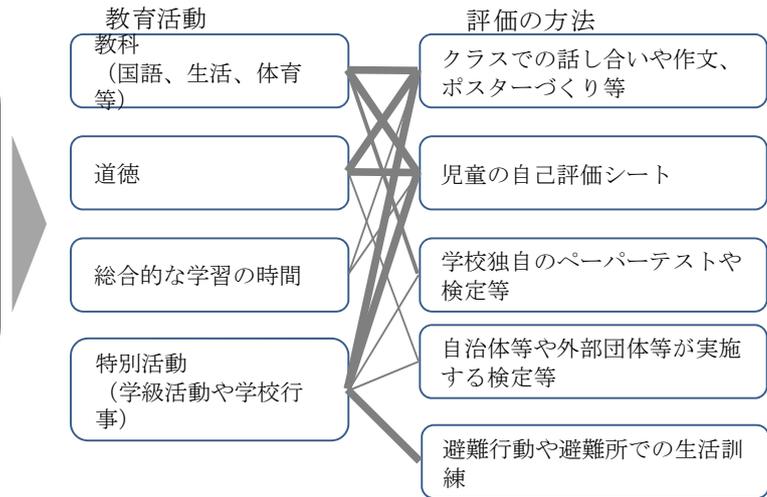
多くの小学校では総合的な学習の時間や特別活動として「避難行動や避難所での生活訓練」等を実施しており、安全確保のための的確な意志決定と行動選択ができるように指導している。

ここでの評価は、担当教員が児童の各種活動への取組の積極さや、取組後の児童の自己評価シート、クラスでの話し合い、防災に関する作文やポスター等の内容を把握する方法が挙げられており、アンケート調査からはこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。

以上の関係を整理したものが次図である。

防災教育で重視する点

- 日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること
- 教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること
- きまりの大切さを理解すること
- 安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること



小学校1, 2学年の防災教育と評価手段

—— 教育活動をどのような方法で評価しているかを示しており、活用頻度の多いものが太くなっている。

③小学校3，4学年の防災教育と評価

【防災教育で重視する点と教育活動】

この学年では、「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」「教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること」等を重視した防災教育を実施し、また、これらに対する教育活動としては、特定の教科や特別活動としての学級活動や学校行事の中で、写真やポスターの展示、ビデオ等映像を視聴したり、緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練の実施、外部からのゲストティーチャーの活用等により防災意識を向上させる取組を実施していくことなどが挙げられている。

【教科としての防災教育の評価】

アンケート調査によると防災教育に関する教科としては、主に国語、社会、理科、生活、体育等が挙げられており、この中で児童に対して、写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴、防災ポスターや標語づくり、新聞づくり、地域と連携し児童を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させたり、緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練の実施などを行っている。

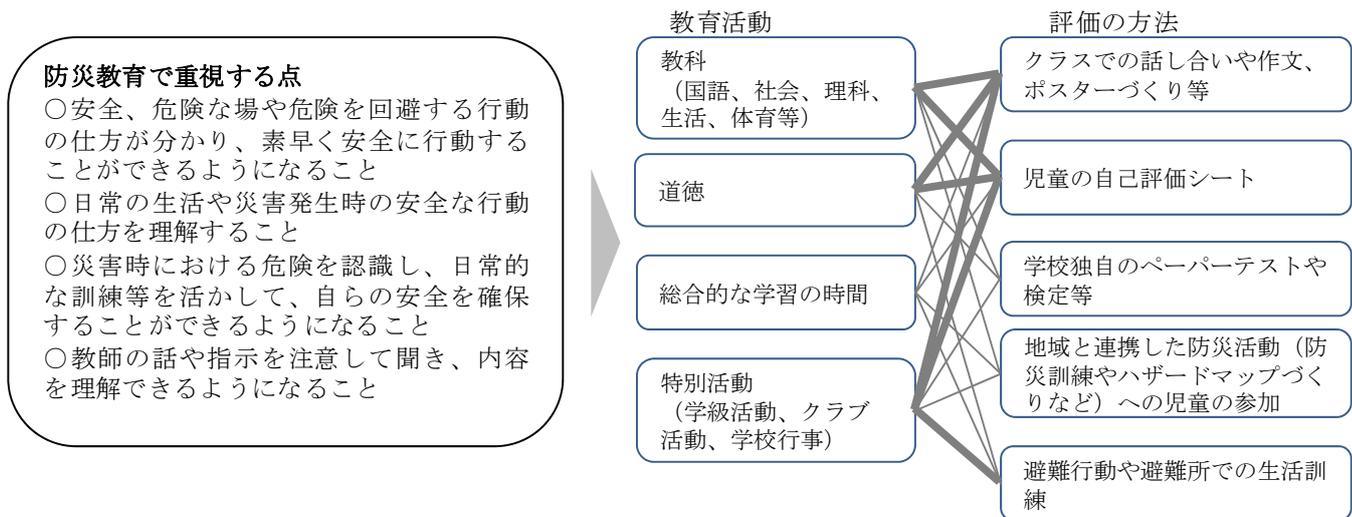
教科として防災教育を評価する方法としては、担当教員が児童のクラスでの話し合いや作文、ポスターづくり、自己評価シートやふりかえりカード（参考事例：千葉県南房総市七浦小学校）、学校独自のペーパーテストや検定、避難行動や避難所での生活訓練、地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への児童の参加状況等を把握する方法が挙げられており、アンケート調査からはこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。

【総合的な学習や特別活動等を活用した防災教育の評価】

総合的な学習の時間や特別活動として「避難行動や避難所での生活訓練」等の他に、危険からどのように身を守るかなどのクラスでの話し合いや作文、ポスターづくり、児童の自己評価シート等も実施しており、安全確保のために的確な意志決定と行動選択ができるように指導している。

ここでの評価も、担当教員が児童の各種活動への取組の積極さや、取組後の児童の自己評価シート、クラスでの話し合い、防災に関する作文やポスター等の内容を把握することが挙げられており、アンケート調査からはこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。さらに、地域の人々に学習に参加してもらい感想を聞いたり、自治体の実施する防災訓練への参加状況等から、的確な意志決定と行動選択、また、要援護者を含む他の人々への安全にも気配りしながら、安全な行動ができるようになったかどうかを判断している。

以上の関係を整理したものが次図である。



小学校3，4学年の防災教育と評価

—— 教育活動をどのような方法で評価しているかを示しており、活用頻度の多いものが太くなっている。

(参考事例：千葉県南房総市七浦小学校)

七浦小学校では、各教科の中で津波への対策と同時に海からの恵みと地域固有の資源の大切さを理解することや互いに助け合うことの大切さを学んでいる。各教科の担任が工夫しながら防災への取組を指導し、学習後には感想文を作成したり、地域住民と連携した避難訓練後には自己評価するための「ふりかえりカード」を作成し、子ども同士で話し合いを持っている。これらを教員が観察し、児童の理解度を把握している。

また、避難訓練では地域住民も参加しており、住民からの児童の行動や意識の観察結果も寄せられ、児童の理解を把握するための貴重な情報となっている。

3～4年生の科目の防災教育の主な内容は以下のとおりである。（資料編3頁参照）

- 国語：避難訓練や防災学習の感想文作成。
- 算数：避難場所までの距離や時間、避難場所の広さを図る。
- 社会：地域社会の安全性や、自然災害や防犯上の危険箇所を知る。
- 道徳：宿泊体験をとおして自主的活動を学ぶ。
- 特別活動：避難訓練。

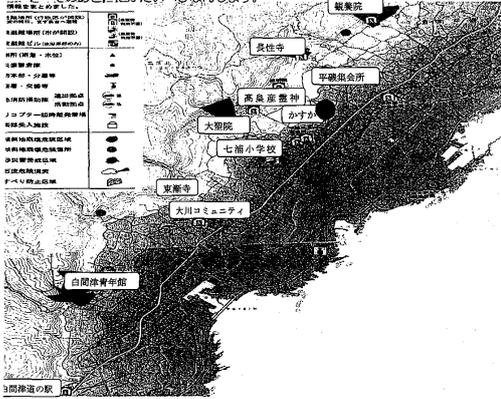
●ふりかえりカードの作成例

登校班で話し合おう

地区() 班長()

1 どうこう中、ゆれをかじったら「おちてこない」「たおれてこない」「いどうしてこない」ところに ひなんします。(車、電線、ガス管、ブロック壁注意)

2 そのあと、たかだいへひなんします。



ちかい方に げます。

5 おおつなみけいぼうが かいじよされたら こういきひなんばしよの
にいります。

ふりかえりカード

登校班()

- 1 地震が来た時、「頭を守る」「危険なところからはなれてしゃがむ」ができましたか?
○でかこみましょう。
①よくできた ②できた ③できなかった
- 2 しやがんだところは、どんなところでしたか。
家のあいだでもあり、近くによう水池がある場所
- 3 『高倉の避難場所』は、どこにしましたか?その場所は、避難場所として安全ですか?
(どこかすか)
①安全 ②土砂崩れなどの危険がある。 ③海からの高さが高い。
- 4 高倉の避難場所にすくにいけましたか?○でかこみましょう。
①すくにいった。
②道路が分らなくてなかなか行けなかった。
③どこに行ったらいいのかわからなかった。
④なかなか道路がわかれなかった。
⑤その他()
- 5 ここまでの訓練で、よかったこと、なおした方がよいこと、こまったことを書きましよう。
場所が見えてきたらみんなあるいてしまっていた。
- 6 次はどこに避難しますか、広場避難場所はどこですか?
(どこかすか)

●避難訓練に対する住民の感想例

本日は、ご参加いただきありがとうございます。本日の訓練について、感想を書いていただきたいです。今後の指導へ生かして参りたいと思います。ご協力よろしく願いいたします。

お名前() 地区()

1 子どもたちの避難の様子で気になったこと

- ・ すぐ、グラウンドの真中に下げ、上級生は下級生の面どうを良く見ていました。日頃、学校での訓練がきちんとできていたと感じました。
- ・ 避難場面で待機中、少しふざけたり、おしゃべりをする手がありました。訓練して成果が出ていたと感じます。

2 子どもたちに気をつけてほしいこと

- ・ 今日(2)雨で天気が悪く、道も取りやすかったと思います。その時々々の状況を判断し、何かがないようにならざるを得ないと思います。

3 心配なこと

- ・ 今日(2)登校中という事で、上級生が15分中の訓練でしたが、下級生だけやむらで15分時の避難は心配です。

4 その他(七浦小学校の避難訓練について)

- ・ 色々な場面を想定しての訓練は大変だと思えます。おしゃべりがなくなり自覚し、あつては避難の手がでるようになり、日々話し合ったりするが大変だと思えます。

ご協力感謝申し上げます。

④小学校5，6学年の防災教育と評価

【防災教育で重視する点と教育活動】

この学年では、より地域社会への関わりを理解するようになる年代であり、「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」「安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること」「日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること」「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」等を重視した防災教育を実施している。

これらに対する教育活動としては、特定の教科や特別活動としての学級活動や学校行事の中で、外部からのゲストティーチャーの活用、地域と連携し児童の防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）参加、防災ポスターや標語づくり、新聞づくり、緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練等を実施等が挙げられている。

【教科としての防災教育の評価】

アンケート調査によると防災教育に関する教科としては、主に社会、理科、図画工作、家庭、体育等が挙げられており、この中で児童に対して、写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴、外部からのゲストティーチャーの活用、地域と連携し児童を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させること、また緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練の実施、さらには地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組方法などの調査を行っている。

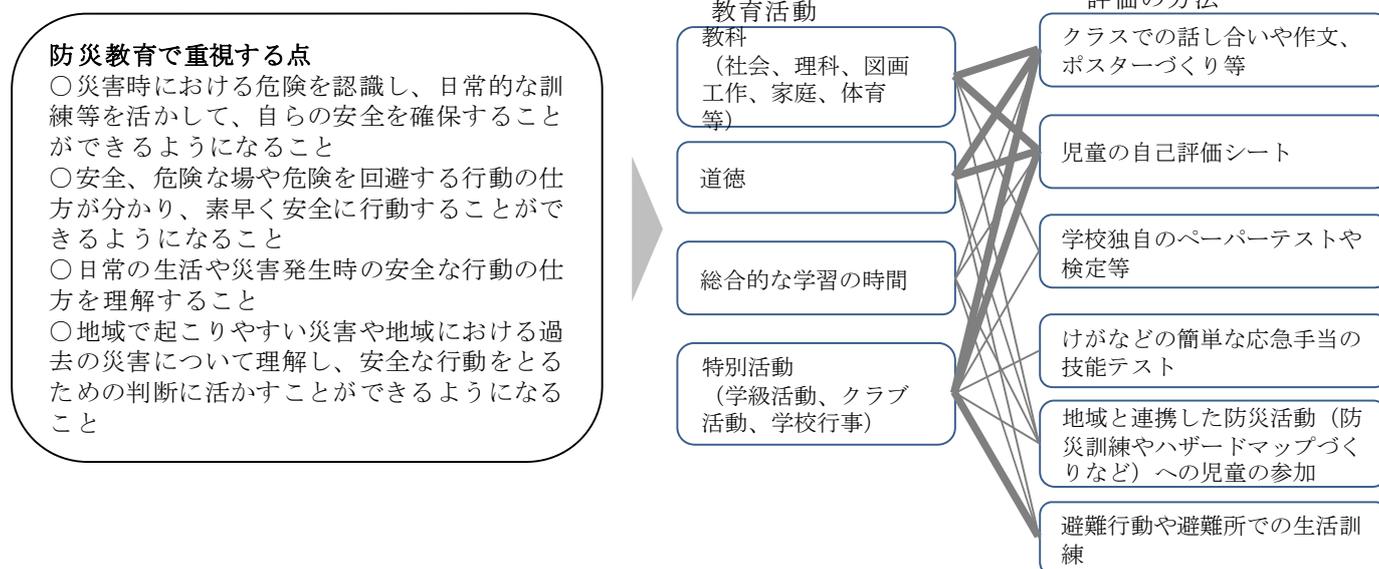
こうした教科として防災教育を評価する方法としては、担当教員が児童のクラスでの話し合いや作文、ポスターづくり、児童の自己評価シート、学校独自のペーパーテストや検定、避難行動や避難所での生活訓練、けがなどの簡単な応急手当の技能テスト、地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への児童の参加状況等を把握する方法が挙げられており、アンケート調査からもこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。

【総合的な学習や特別活動等を活用した防災教育の評価】

総合的な学習の時間や特別活動として「避難行動や避難所での生活訓練」等の他に、危険からどのように身を守るかなどのクラスでの話し合いや作文、ポスターづくり、児童の自己評価シート、また、学校独自のペーパーテストや検定、けがなどの簡単な応急手当の技能テスト、避難行動や避難所での生活訓練、他児童への発表等も実施しており、安全確保のために的確な意志決定と行動選択ができるように指導している。

他学年と同様に、ここでの評価も、担当教員が児童の各種活動への取組の積極さや、取組後の児童の自己評価シート、クラスでの話し合い、防災に関する作文やポスター等の内容、発表に当たっての準備や発表能力等を活用して把握する方法が挙げられており、アンケート調査からはこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。また、応急手当の技能テスト、地域との連携活動、避難訓練等から、的確な意志決定と行動選択が図れたか、要援護者を含む他の人々への安全にも気配りしながら安全な行動ができるようになったかどうかなどを判断している。（参考事例：高知県四万十町興津小学校）

以上の関係を整理したものが次図である。



小学校5、6学年の防災教育と評価

—— 教育活動をどのような方法で評価しているかを示しており、活用頻度の多いものが太くなっている。

(参考事例：高知県四万十町興津小学校)

興津小学校では、5～6年生が中心となって、防災マップづくりや教育の成果をまとめ、全校生徒に対して発表しており、教員がその準備や発表能力等を観察しながら成果を把握している。
(資料編6頁参照)

防災教育の内容と評価の方法

- 地域の自然や災害に対する知識習得を行うと共に、海の恵みについても理解しながら、自助・共助の考え方を学んでいる。
- 低学年は担任教員による行動の観察を行い、担任に話し合いを経て次の指導方法に活かしている。
- 5～6年生は訓練や防災学習時には、防災マップづくり、感想文や自己評価シート等を作成させ、担任教員が理解度を判断している。
- 防災マップづくりでは、自分たちで問題点改善点等を話し合いながら作成している。
- 5～6年生は半年間取り組んできた防災学習の成果を全校生徒に発表し、その行動を観察し理解度を把握している。

教育成果の把握方法	実施時期(期間)	対象者
A 防災学習の発表会	1回/年	5~6年生
B 避難行動や防災学習時に生徒の行動を観察		1~4年生
C 防災学習後の感想文、自己評価シートを作成		5~6年生

●防災マップ作りの計画例

防災マップ作りの計画を立てよう!

平成 年 月 日 ()
年 名前 ()

1. 昨年度作成したマップから、良いところを見つけましょう。

(良いところ)		
○グループの意見		
()	()	()
・びんまこを使っている。	・道がこゆくて見やすい。	・地域で発見したことが見やすく書かれています。
○全体の意見	別班	別班

2. 昨年度作成したマップから、改善点を見つけましょう。

(改善点)		
○グループの意見		
()	()	()
・道の線がうすい。	・現実でない道を書いているから、地図を見た人は分からない。	・色が少ない。 ・道の線がぼやい。
○全体の意見	別班	別班
・ひなん所を大きく見やすくかく ・海枝を大きく見やすくかく ・道と矢印の色を分ける ・危険な所、助けを求める所を大きくする	・色をこゆすぎないようにする。(色使い) ・建物のマークを増やす。 ・字が小さい→はっきりと!! ・道が分かりやすい→色を	

2. 良い点、改善点をもとに、グループでどのようなマップを作っていくか考えましょう。

<ul style="list-style-type: none"> ・道をこゆくする ・字を大きく、はっきり ・明るい色で... ・写真は、8~7枚 ・見る人に分かりやすく ・ひなんじょだけ色をかえる ・海枝を大きく(500円玉ぐらい) ・ひなんじょ・ひなんタワーを大きく見やすく ・道がきれいな所「ここが5,000」と書く(書いたとき) 	<ul style="list-style-type: none"> ひなんぼしよ ・むかい山 ・保育園 ・ひなんタワー(2き)
---	--

3. 防災マップを作るために、どのような活動をしたらいでしょうか。

○グループの意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に、歩いたり、走ったりしてタイムをはかる。(子ども) ・危険な場所の写真を取る。 	
○全体の意見	別班
	浦分班
	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所の写真 ・道のかくにん ・ひなんぼしよのかくにん

(2) 中学校

①防災教育の目標

日常の備えや的確な判断によって主体的に行動するとともに、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、すすんで活動できる生徒を目指す。（「学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開」（文科省、2013）より）

②中学校の防災教育と評価

【防災教育で重視する点と教育活動】

アンケート調査やヒアリング調査等では、中学校の生徒は地域との関わりが深くなり、すすんで地域の防災活動や災害時の助け合いなど、防災への意識を高めていくことが求められており、今後とも「災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること」「地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること」「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」「自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができるようになること」を重視した防災教育を実施していくことが求められている。

これらに対する教育活動としては、特定の教科や特別活動としての学級活動や学校行事の中で、写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴、外部からのゲストティーチャーの活用、地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組等の調査、地域と連携し生徒を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させること、避難行動訓練の実施、緊急地震速報の活用等により学校全体で定期的に避難行動訓練の実施、幼稚園、小学校、高齢者や障がい者福祉施設等と連携し避難行動訓練をしていくことなどが挙げられている。

【教科としての防災教育の評価】

アンケート調査によると防災教育に関する教科としては、主に国語、社会、理科、美術、保健体育等が挙げられており、この中で生徒に対して、写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴、外部からのゲストティーチャーの活用、地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組等の調査、ワークシートへの生徒自らの記入や、グループディスカッション、地域と連携し児童を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させること、緊急地震速報の活用等により学校全体で定期的に避難行動訓練の実施、応急手当の方法について講義や実習等を行っている。

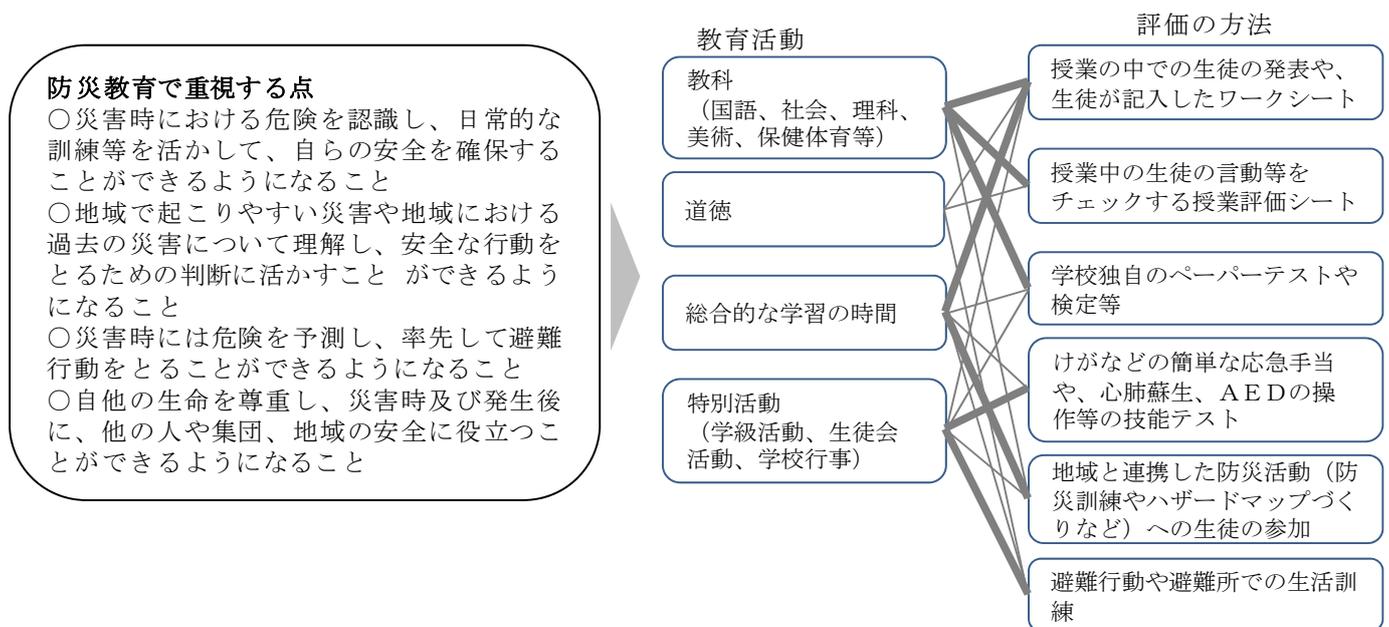
こうした教科として防災教育を評価する方法としては、授業中での生徒の発表や、生徒が記入したワークシート、学校独自のペーパーテストや検定、避難行動や避難所での生活訓練、けがなどの簡単な応急手当や、心肺蘇生、AEDの操作等の技能テスト、地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への生徒の参加状況等を把握する方法が挙げられており、アンケート調査からはこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。（参考事例：和歌山県田辺市新庄中学校）

【総合的な学習や特別活動等を活用した防災教育の評価】

総合的な学習や特別活動として「避難行動や避難所での生活訓練」等の他に、写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴、外部からのゲストティーチャーの活用、地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組等の調査、地域と連携し、生徒を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させ、地域社会の一員として、安全安心な地域づくりに関心も持てるように指導している。

ここでの評価は教科と同様に、担当教員が生徒の各種活動への取組の積極さや、取組後の生徒が記入したワークシート、応急手当の技能テスト、地域と連携した防災活動への参加状況、避難行動や避難所での生活訓練等を把握する方法が挙げられており、アンケート調査からはこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。（参考事例：徳島県徳島市津田中学校）

以上の関係を整理したものが次図である。



中学校の防災教育と評価

—— 教育活動をどのような方法で評価しているかを示しており、活用頻度の多いものが太くなっている。

(参考事例：和歌山県田辺市新庄中学校)

新庄中学校（新庄地震学（平成 24 年度実施分）の活動内容

- 3 年生により地震学の準備活動及び全生徒や地域住民への発表をとおして、生徒の自然災害への理解や地域や家庭での防災活動の役割意識の向上を把握している。
- また、防災教育には総合的な取組が必要であることと同時に、地域のコミュニティの大切さについても学んでいる。
- これらを毎年実施している全校生徒と地域住民を対象とした「新庄地震学発表会」に向けた、生徒の準備とその発表力を観察し理解度を把握している。

(資料編 12 頁参照)

選択教科と防災学習のテーマ	取組内容
理科:地震と津波のエネルギー	南海トラフ等を起因とする地腰や津波、災害に関わる事柄について探求する
国語:防災標語	「防災標語」を小学生・中学生・高校生・地域の方々から募集・審査し、優秀作品を表彰する。また、地域の方々などに掲示・配布する。
社会:登下校の避難場所	昨年度取り組んだハザードマップを改良し、新たな津波高に対応する避難場所や避難経路を、視覚に訴える方法で探求し、個々の避難場所について現状を把握する。
数学:数値でみる避難場所(体育館)	校内にある備蓄庫の状況確認を行い、避難場所である体育館や校舎でどのぐらいの人が生活できるか探求する。
英語:英語版防災紙芝居の製作と発表	簡単な英語を使った防災紙芝居を制作し、小学校高学年の児童に出前授業を行う。災害時の避難方法について啓発する。
美術:新庄地震学カレンダーの製作	新たな津波高のハザードマップや今年度の取り組み等をカレンダーにまとめ、配布する。
家庭:耐震家具の工夫	各家庭における耐震グッズや家具の転倒防止グッズ準備状況を学ぶと共に、アンケートを取り生徒自身が就寝している間取り状況を把握して、動画にて危険性を確認する。
保体:避難所の生活と保健衛生	避難所の生活を調べ、新庄中学校が避難所となった場合について、その生活面や保健衛生について検討し、率先して行動できる態度を養う。

(3) 高等学校

①防災教育の目標

安全で安心な社会づくりへの参画を意識し、地域の防災活動や災害時の支援活動において、適切な役割を自ら判断し行動できる生徒を目指す。（「学校防災のための参考資料「『生きる力』を育む防災教育の展開」（文科省、2013）より）

②高等学校の防災教育と評価

【防災教育で重視する点と教育活動】

高校生にとっては、災害への知識と安全で安心な社会づくりに向けた地域防災への理解が求められており、今後とも「災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること」「日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること」「日常生活において知識を基に正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができるようになること」「地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加することができるようになること」等を重視した防災教育を実施し、これらに対する教育活動としては、特別活動として、外部からのゲストティーチャーの活用、地域と連携し、生徒を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加、テント生活や教室での宿泊生活などの実施等が挙げられている。

【教科としての評価】

アンケート調査によると防災教育に関する教科としては、主に地理歴史、公民、理科、保健体育、家庭、情報等が挙げられており、この中で生徒に対して、外部からのゲストティーチャーの活用、地域と連携し児童を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加、緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練の実施等を行っている。

こうした教科として防災教育を評価する方法としては、授業の中での生徒の発表や、生徒が記入したワークシート、グループワーク、避難行動や避難所での生活訓練、けがなどの簡単な応急手当や、心肺蘇生、AEDの操作等の技能テスト、地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への生徒の参加等を把握することが挙げられており、アンケート調査からはこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。

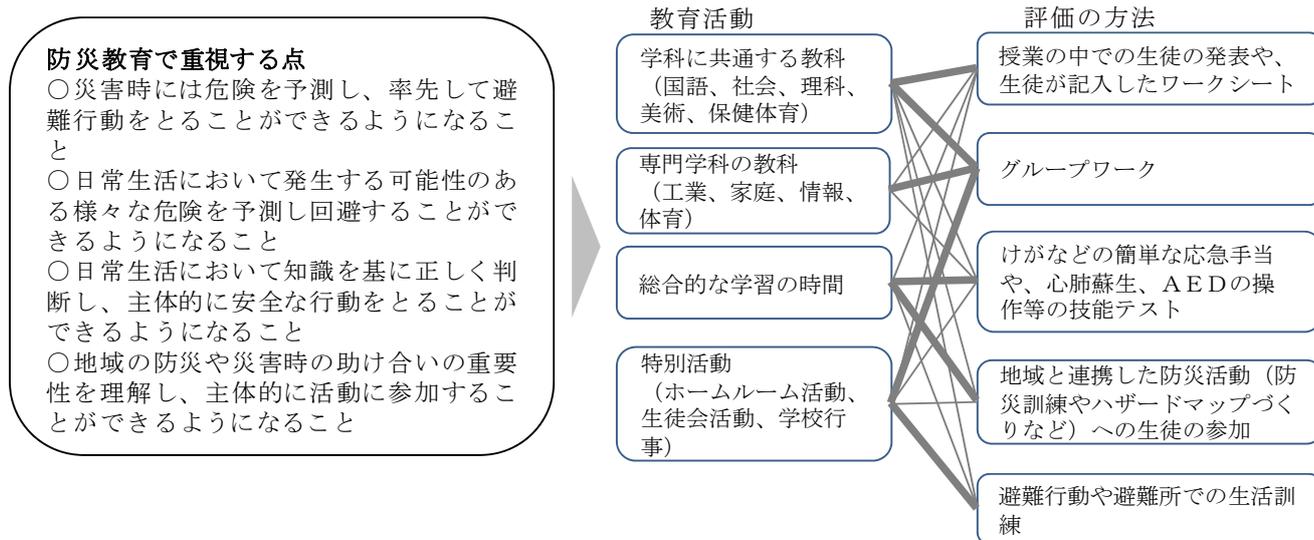
防災教育を独立した教科として取り組もうとしている学校もある。千葉県立銚子高等学校では、現在は総合学習を活用して教育学習を行っているが、防災教育は総合的な取組が必要であるとの考えから、今後、1、2年生を対象に正規の教科として扱うよう、関係機関と調整を図りながら授業内容や教材、時間配分等を検討している。

【総合的な学習や特別活動等を活用した評価】

総合的な学習の時間や特別活動として「避難行動や避難所での生活訓練」等の他に、写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴、外部からのゲストティーチャーの活用、地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組等の調査、地域と連携し生徒を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させると共に、地域社会の一員として、安全安心な社会づくりへの参画を意識できるように指導している。

ここでの評価は教科と同様に、担当教員が生徒の各種活動への取組の積極さや、取組後の生徒が記入したワークシート、応急手当の技能テスト、地域と連携した防災活動への参加状況、避難行動や避難所での生活訓練状況を把握することが挙げられており、アンケート調査からもこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。（参考事例：静岡県沼津市沼津西高等学校）

以上の関係を整理したものが次図である。



高等学校の防災教育と評価

—— 教育活動をどのような方法で評価しているかを示しており、活用頻度の多いものが太くなっている。

(参考事例：静岡県沼津市沼津西高等学校)

沼津西高等学校では、生徒会やボランティア委員会が中心となり、地域社会の一員として、学校、地域社会の安全安心づくりに積極的に参加するとともに、活動報告や展示等により他生徒への啓発も行っている。

生徒会には常設委員会として「防災委員会」も設けられており、教員がこれらの活動状況や他生徒の参加状況等を観察し、生徒の理解程度を把握している。

地域住民との合同避難訓練（地域住民の避難を想定したサポート訓練）では、生徒に参加報告書を記入提出させ、その内容等も評価の参考にしている。（資料編 19 頁参照）

防災訓練参加報告書の記入例

防災訓練参加報告書			
組	番	氏名	性別
参加した訓練	救急法	トイレ設置	テント設置
			バケツリレー
①今日、行った訓練についての感想。			
<p>トイレ設置とバケツリレーをしましたが、トイレ設置においては、仮設トイレを作っているところを見るのは初めてでしたが、生徒だけで作れることに驚くとともに、意外と時間がかかるとのことと分かりました。バケツリレーでは、ただバケツを回すだけではありませんが、何度も繰り返していると腕や腰に痛みを感じ、さまざまな大変さだと分かりました。</p>			
②これまでに学校で行ってきた防災についての講習や訓練を通して学んだこと。			
<p>小中学校の防災訓練という、防災ずきんを被って逃げる、いわゆる自分の身を自分で守ることに重点が置かれた訓練でしたが、高校では、自分の身を自分で守るという事は前提で、他人と助け合い、みんなと一緒に自分だけでなく周りの人々や地域を守るということが大切であるということと教わるものだと感じ、助け合うことの大切さを学びました。</p>			
③防災について、家庭ではどのような事を話したりしていますか。また、どのような準備をしていますか。			
<p>数年前から非常持ち出し袋は用意し、水や食料などの生活必需品を入れています。また、学校にいる時と家にいる時 どちらの場合でもお世話を行動するよう、何を持て逃げるかやどこに逃げるかといった話をしています。</p>			
④高校生として、災害時にはどのような形で地域に貢献できると思いますか。			
<p>一人一人が自覚を持って、自分の身を守ることを第一に考え、かつ訓練で学んだトイレやテントの設置等に取り組むことは地域の貢献につながると思います。また、学校に逃げてくる地域の方々は、突然の事態ということにパニックされていると思うので、私たちが落ち着きを持って行動すれば、周りの方々も自然と冷静になれるのではないかと思います。実際にトイレやテントを設置するという行動だけでなく、冷静さを保って地域の方々と手を取り、先頭に立て引張っていくことも地域への貢献といえるのではないかと思います。</p>			

(参考事例：千葉県立銚子高等学校)

銚子高等学校では、防災教育を教科として取り組んでいくために以下のような目標と内容を検討している。(資料編 17 頁参照)

●教科の目標

- ・全ての災害発生時に、的確な判断を行い、自らの安全を確保するために行動できるようにする。
- ・防災教育を、生命を大切にす教育と位置づけ、災害発生時には進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。
- ・地域の教材の活用や地域と連携した防災訓練等の実施により、災害の発生メカニズムや歴史、地域の自然環境や防災体制について理解できるようにする。

●科目の目標

- ・日頃から災害に対する備えを行い、災害発生時には状況に応じた的確な判断により、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
- ・災害発生時には、自らの安全を守るだけでなく、防災活動やボランティア活動等に積極的に参加し、地域の人々の安全確保に貢献できるようにする。
- ・災害発生メカニズムや歴史及び地域の防災体制についての理解を深めることができるようにする。

●内容

- ・近年の自然災害について学ぶ。
- ・自助(自分の命は自分で守る)について学ぶ。
- ・共助(地域とともに活動する)について学ぶ。
- ・災害発生のしくみについて学ぶ。
- ・災害と情報について学ぶ。

(4) 特別支援学校

①防災教育の目標

特別支援学校の防災教育は、児童生徒の心身の状態に応じて対応していくことが必要であり、小学部では遊びや音楽の中で身体を動かすことができるようになること、帽子や靴の着脱ができるようになることを目指す。中学部ではさらに安全に注意し、集団生活のルールを理解できるようになること、高等部では自分の気持ちを伝え、災害時にもコミュニケーションを図ることができるようになること、また、防災学習をとおして災害への理解や助け合いの大切さを理解できることなどを旨とする。（「学校防災のための参考資料『生きる力』を育む防災教育の展開」（文科省、2013）を参照）

②特別支援学校の防災教育と評価

【防災教育で重視する点と教育活動】

特別支援学校では、児童生徒の心身の状態に応じ、「児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること」「児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること」「児童・生徒が、災害に応じた安全な避難方法や日常生活での備えを理解し、パニック防止と安全な行動ができるようになること」「児童・生徒が、日頃から教師や他の児童・生徒等の言葉やサインを見聞きして、行動できるようになること」を重視した防災教育を実施している。

これらに対する教育活動として、小学部では、主に緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施したり、地域と連携し避難行動訓練を実施したり、中学部及び高等部では、さらに写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴、防災関連施設への見学、外部からのゲストティーチャーを活用することなどが挙げられている。

【各学部での防災教育の評価】

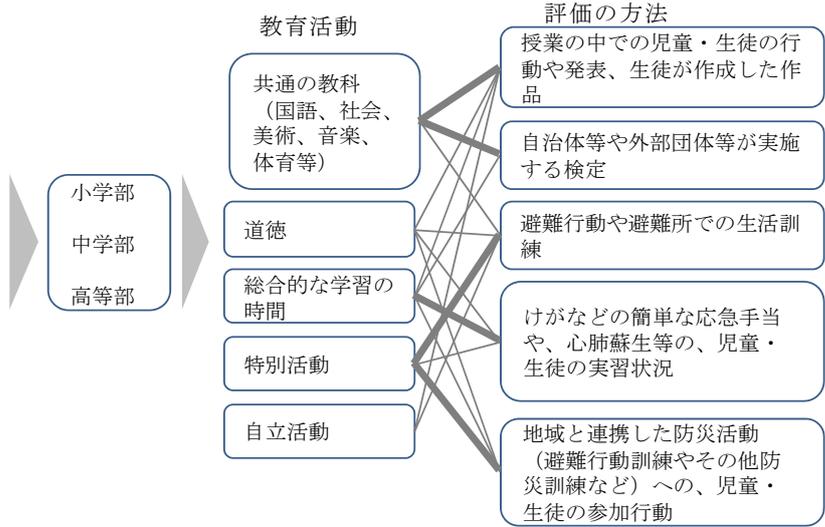
小学部及び中学部での防災教育の取組は、主に写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴、防災関連施設への見学の実施、外部からのゲストティーチャーの招聘による講演、緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練の実施等が行われており、高等部では、これらに加えて、防災関連施設への見学の実施、応急手当の方法について講義や実習等が行われている。

こうした防災教育を評価する方法としては、授業の中での児童・生徒の行動や発表、生徒が作成した作品、避難行動や避難所での生活訓練、けがなどの簡単な応急手当や心肺蘇生等の、児童・生徒の実習状況等を把握することが挙げられており、アンケート調査からはこれらの方法による評価によってやや成果があがっていると報告されている。

以上の関係を整理したものが次図である。

防災教育で重視する点

- 児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること
- 児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること
- 児童・生徒が、災害に応じた安全な避難方法や日常生活での備えを理解し、パニック防止と安全な行動ができるようになること
- 児童・生徒が、日頃から教師や他の児童・生徒等の言葉やサインを見聞きして、行動できるようになること



特別支援学校の防災教育と評価

—— 教育活動をどのような方法で評価しているかを示しており、活用頻度の多いものが太くなっている。

3 評価に関する課題

アンケート調査、ヒアリング調査、前掲の防災教育のねらい¹⁾等を踏まえて、以下に示す3つの観点から防災教育の評価に対する課題を整理した。

(1) 災害への知識習得、的確な思考・判断に基づく意志決定や行動選択等に対する課題

①小学校における評価の課題

【個別の理解の度合いを具体的に判断することは困難】

○多くの小学校では、地域における災害状況や事故防止の方法を理解することなどについて、自己評価シート、ふりかえりカード、作文等をチェックしたり、またクラスでの話し合いを観察したりして評価しているが、理解の度合いを具体的に判断するための基準が明確でないため、個別にランク付けすることはほとんど無い。

ヒアリング調査結果によると、シートやカード、作文等に記入されている内容や話し合いでの発言状況から、理解の有無を確認している。

②中学校・高等学校における評価の課題

【災害への知識や危険への理解が、防災への意識付けと結びついているか疑問】

○中学校においては、社会や理解、保健体育などの教科の中で災害発生のメカニズムや危険に対する理解、安全な行動をとるための方法などについて具体的な指導がなされており、評価についても生徒が作成したレポートや作品を個別にチェックしたり、学校独自のペーパーテスト等により知識習得の確認をしているケースが多い。

アンケート調査やヒアリング調査によると、防災に対する教科ごとの判断が異なり、防災に対する生徒の意識付けに結びついているかどうか判断が困難という意見が多い。

○高等学校では、地理、理科、地学、保健体育等で、災害の歴史や原因、災害時に必要な支援、適切な行動をとることについて指導がなされている。

しかし、アンケート調査やヒアリング調査によると、知識としての理解はできているが、日常生活や災害時に適切な行動がとれるかどうか疑問視する意見もある。また、防災に対する生徒の意識付けは中学生以上に個人の差が大きく、一律に評価することは困難という意見も多い。

1) ○自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。

○地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。

○自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

③特別支援学校における評価の課題

【個々の児童生徒の理解の度合いを評価することは困難】

○アンケート調査やヒアリング調査によると、多くの児童生徒は身体の部位を理解すること、そして地震・津波等の災害に対する理解、衣服の調節等の体調管理等はできているが、個人によって障害の程度が異なるため、防災という観点で個別に理解の度合いを判断するのは困難という意見が多い。

(2) 危険を予測し、自らの安全のための主体的行動に対する課題

①小学校における評価の課題

【危険を予測することは困難】

多くの小学校では災害発生の規模を想定しながら避難訓練を行うことで、児童が安全を確保し、どこまで短時間に、かつ避難行動の中で主体的に行動できるかを観察している。しかし児童みずから危険を予測し行動することに対する評価は十分にできていない。

②中学校・高等学校における評価の課題

【生徒間の意識の差が大きい】

各教科の中では、災害に対する知識や主体的な避難行動、必要な支援等は指導されているが、危険を予測して行動することは専門性を要求されるため、防災に関心のある生徒会活動や有志など一部の限られた生徒の活動となっているケースが多い。このため、全生徒を対象に指導の成果を確認し評価することは難しい。

③特別支援学校における評価の課題

【個人の理解度を確認することが鍵】

小学部や中学部では教員の指示を的確に判断しながら行動することを目的としており、高等部では、一部で危険を予測しながら自ら主体的に考え行動することを指導し、生徒の取組を観察しながら理解の程度を確認している。どの程度習得できているか判断することは困難な状況にあり、登下校時の安全確保には個人の主体的な行動が必要となるため、個人の理解の程度を確認することが今後の重要な課題となっている。

(3) 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりへの貢献に対する課題

①小学校における評価の課題

【地域との連携強化が必要】

学校から離れ、家庭や地域と連携した防災活動の中で、社会貢献等を評価することが必要になると理解されており、地域住民の協力を受けながら実施しているケースが多い。今後とも、誰が評価するのか、評価方法や基準はどうするか、検討していかなければならないとしている。

②中学校・高等学校における評価の課題

【学校、家庭及び地域社会の安全づくりに対する関心の評価は困難】

地域の防災活動はもとより、家庭及び地域社会の安全安心づくりへの関心と参加・協力等から、社会貢献や支援者の基盤を評価していく必要があるが、地域の防災活動への参加状況から判断するケースが多く、人と人とのかかわりを持つ姿勢や地域社会の安全安心づくりへの関心をどのように評価するか問題を感じている。

③特別支援学校における評価の課題

【児童生徒の個人的な差が大きい】

学内では児童生徒同士や教員とのコミュニケーションに対する指導と成果を把握できているが、家庭や地域と連携した防災活動や助け合い活動等では十分にはできていない。特にコミュニケーションを図ることについては個人的な差が大きく、評価が困難となっている。

1 本調査における評価の枠組み

(1) 本調査における評価の対象

防災教育の評価は、指導計画の評価、指導方法や過程の評価、指導の成果の評価の3つの観点から行われるものであるが、本調査では指導の成果の評価を対象とし、地震や津波への防災教育の目標に対して、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等において、児童生徒がどの程度理解しどのように変容したか（どのように定着したか）を測定するための考え方を、アンケート調査やヒアリング調査等の結果を参考に検討することとする。

(2) 評価の視点

基本的な評価の視点は以下のように設定する。（「学校防災のための参考資料「『生きる力』を育む防災教育の展開」（文科省、2013）を参照）

- 児童生徒が日常生活を安全に営むために、災害発生の基礎的知識を把握し、事故発生の原因と、その危険から回避するための的確な思考・判断に基づく意志決定を行い、安全に行動選択できるようになったか。
- 児童生徒が災害発生時の様々な危険を予測し、的確な思考・判断に基づく意志決定を行い、安全に行動選択できるようになったか。
- 児童生徒が、幼児、高齢者、障害のある人など要援護者の安全を考えて行動できるようになったか。
- 児童生徒が、防災教育をとおして家庭や地域社会の安全性や地域コミュニティに関心を持ち、人のつながりの大切さを理解し行動できるようになったか。

(3) 評価の項目と評価する教育活動

防災教育の評価として「知識、思考・判断」「危険予測・主体的な行動」「社会貢献、支援者の基盤」に分類し、それぞれについて評価項目と評価する教育活動を設定し、児童生徒が防災教育をどのように理解・習得し、また変容したかを測定する方法を示す。

「知識、思考・判断」への評価方法

前掲の「学校防災のための参考資料」では、「知識、思考・判断」とは、児童生徒が自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができることを指す。

「危険予測・主体的な行動」への評価方法

同様に、「危険予測・主体的な行動」とは、児童生徒が地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができることを指す。

「社会貢献、支援者の基盤」への評価方法

同様に、「社会貢献、支援者の基盤」とは、児童生徒が自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できることを指す。

また、評価する教育活動としては以下の活動の中で実施することとする。

○防災教育を既存の教科の中に組み込んで指導を行い、その中で児童生徒の取組を評価していく。

○総合的な学習の時間や特別活動の中で指導を行い、その中で児童生徒の取組を評価していく。

注) 現在、一部の高等学校等では防災教育を独立した教科として位置づけて防災教育が行われているところである。このことは、今日の防災教育の重要性に鑑み、指導時間の確保の観点から検討していかなければならない点であるが、本調査では、例えば「既存の教科の中で実施」「総合的な学習の時間や特別活動の中で実施」することを前提に評価方法を検討することとした。

2 発達段階に応じた評価方法

「知識、思考・判断」「危険予測・主体的な行動」「社会貢献、支援者の基盤」ごとに、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒への評価方法を以下に示す。

(1) 知識、思考・判断への評価方法

	評価する内容 (知識、思考・判断)	評価する教育活動	評価方法
小学校	地域で起こりやすい災害や過去の災害を理解しているか	社会科、生活科、体育科等	●授業に対する児童の参加態度や児童が記入した自己評価シート、授業中の児童の言動、クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等から、個人別に災害発生の基礎的知識や事故発生の原因を理解したかどうか判断する。 ●地域の自然災害に関する学校独自のペーパーテストの結果を参考に判断する。
	災害発生時の安全な行動の仕方を理解しているか、また、被害を軽減するためにどうしたらよいか理解できているか	総合的な学習の時間 学級活動、学校行事	
中学校	地震津波等の自然災害が発生するメカニズムや、一時災害、二次災害等が発生する危険のリスクについて理解しているか	社会科、理科、保健体育科等	●授業に対する生徒の参加態度や生徒が記入したワークシート、授業中の生徒の言動等をチェックする授業評価シート、発表等の内容や説明力等から、災害発生の基礎的知識や事故発生の原因を理解したかどうか判断する。 ●自然災害や危険リスクへの知識に関する学校独自のペーパーテストを実施し、その結果と授業における参加意欲等から個人別に判断する。
	これまでの被害状況を理解し、地域の自然環境や生活、産業等を踏まえて地域に対応した防災対策を考えることができるか	社会科、理科、道徳科等	
	被害防止への準備対応（食料の備蓄、避難生活への必需品などへの日頃からの準備対応）の必要性を理解しているか 地域の災害と同時に、地域にもたらされている自然の恵みについても理解しているか 家庭内でも防災への気づきが行われているか	総合的な学習の時間 特別活動	
高等学校	自然災害発生の原因や、地震津波等の災害が発生するメカニズムについて理解しているか	社会科、理科、地理科、地学科、保健体育科等	●授業に対する生徒の参加態度や発表内容、ワークシートから、地震や津波等の災害発生の基礎的知識や災害発生の原因を理解したかどうか判断する。 ●自然災害の種類、危険リスクへの知識に関する学校独自のペーパーテストを実施し、その結果と授業における参加意欲等から個人別に判断する。
	災害時に必要な物資や支援について関心を持ち、必要な行動がとれる準備ができているか	社会科、家庭科、情報科等	
特別支援学校	命を守るために、遊びや音楽の中で体を動かすことができるようになっていくか、また、帽子や靴の着脱ができるようになっていくか	国語科、音楽科、体育科等	●授業に対する児童・生徒の参加態度、遊びの時間等の中で、帽子や靴の着脱状況、体を動かす動作等から判断する。
	集団生活のルールを理解できるようになっているか 火災、地震、津波、液状化、風水害等の災害発生について理解しているか	国語科、社会科、音楽科、体育科、道徳科等	
		総合的な学習の時間 特別活動 自立活動 日常生活指導 生活単元学習	●授業（ビデオ、DVDの視聴等含む）に対する児童・生徒の参加態度、発表内容、作品づくり等から、災害発生の基礎的知識や事故発生の原因を理解したかどうか判断する。

(2) 危険予測・主体的な行動における評価方法

	評価する内容 (危険予測・主体的な行動)	評価する教育 活動	評価方法
小学校	日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解しているか	社会科、生活科、体育科等	<ul style="list-style-type: none"> ●授業に対する児童の参加態度や児童が記入した自己評価シート、授業中の児童の言動、クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等から、安全な行動を理解したかどうか判断する。また、けがなどの簡単な応急手当をどの程度理解し、応急処置ができるようになったか判断する。 ●児童の生活訓練や避難行動の訓練（初期動作及びそれに続く行動）等の行動から、安全な行動選択できるようになったか判断する。 ●地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への児童の参加を観察し、回避行動の仕方や安全な行動のしかたを理解しているか判断する。
	安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになっているか	総合的な学習の時間 学級活動、学校行事	
	災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになっているか	生活科、体育科等 総合的な学習の時間 学級活動、学校行事、課外活動	
中学校	災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになっているか	社会科、保健体育科、技術・家庭科等	<ul style="list-style-type: none"> ●授業に対する生徒の参加態度や生徒が記入したワークシート、授業中の生徒の言動等をチェックする授業評価シート、発表等の内容や説明力等から、個人別に災害後の生活やそれに対する準備の仕方を理解、被害の軽減方法を理解したかどうか判断する。 ●学校独自のペーパーテストを実施し、その結果と授業における参加意欲等から個人別に判断する。 ●家庭においても非常時の準備などについて話し合い等をもっているかを、ワークシートに記入しその内容から判断する。
	被害を軽減するためにどうしたらよいか理解できているか	総合的な学習の時間 特別活動	
	災害後の生活を考え準備することができるか	保健体育科 総合的な学習の時間 特別活動	
高等学校	日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになっているか	社会科、理科、地理科、家庭科、情報科、保健体育科、工業科	<ul style="list-style-type: none"> ●授業に対する生徒の参加態度や発表内容、ワークシートから、危険への予測能力の有無、避難方法、地域の防災活動などの社会的安全性を理解し、行動の準備ができているかを判断する。 ●家庭での災害対応への話し合いの結果をもとに、グループ内で安全な住環境について話し合い、その状況から判断する。 ●避難訓練への生徒の行動態度や訓練後の参加報告書やワークシート、地域住民からの意見等を参考に、危険を予測し安全に行動選択できるようになったかを判断する。
	地域の防災の取組や、地域の要援護者、社会全体の安全について関心を持ち、必要な行動がとれる準備ができているか	総合的な学習の時間 特別活動	
	応急手当の必要性を理解し、処置について習得できたか	保健体育科 総合的な学習の時間 特別活動	
特別支援学校	命を守るための健康な身体づくりの方法を理解し、取り組もうとしているか	国語科、音楽科、体育科等 総合的な学習の時間 特別活動 自立活動 日常生活指導 生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> ●授業や日頃の生活時間の中で、児童生徒の学習への態度や生活行動等を観察し健康な身体づくりの方法を理解したか判断する。 ●けがなどの簡単な応急手当の実習を行い、児童生徒がどの程度理解したか、また、高等部では応急処置ができるようになったかを判断する。
	日頃から教師や他の児童・生徒等の言葉やサイン、カード等の災害時の指示を理解し、行動に移すことができているか	国語科、社会科、美術科、音楽科、体育科等 総合的な学習の時間 特別活動 自立活動 日常生活指導 生活単元学習	

(3) 社会貢献、支援者の基盤への評価方法

	評価する内容 (社会貢献、支援者の基盤)	評価する教育 活動	評価方法
小学校	他の人々や家庭や地域社会の安全性、地域コミュニティに関心を持ち、人のつながりの大切さを理解し行動できるようになったか。 安全安心な地域づくりに関心を持っているか	国語科、社会科、生活科、体育科等 総合的な学習の時間 学級活動、学校行事、課外活動	●防災の標語づくりや作文、ポスターづくりを通して、地域社会の安全性、地域コミュニティについて、児童の授業への参加態度や発表内容から、関心の度合いや人のつながりの大切さを理解したかどうかを判断する。 ●家庭内での話し合いを父兄から聞いたり、地域住民との連携の中で、住民からの意見を参考に判断する。 ●行政の担当者や専門家等の説明をとおして、安全な社会づくりについて話し合いや感想文の作成を行い、その状況や内容等から判断する。
中学校	地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さや、人と人の助け合いへの大切さを理解しているか 地域の防災活動や災害時の助け合いへ積極的に参加するなど、人と人とのかかわりを持つ姿勢ができていますか	社会科、保健体育科、道徳科等 総合的な学習の時間 学級活動、学校行事	●地域の防災活動に対する参加の状況を把握すると共に、そこでの活動内容、住民とのかかわりあい、幼児や高齢者等へのサポート状況等を観察し、また、生徒が記入したワークシートや自己評価シート等を参考に判断する。 ●地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への生徒の参加状況、地域住民との話し合いの状況を観察すると共に、地域住民からの参加生徒の取組に対する意見を参考に判断する。
	応急手当の技能を身につけているか	保健体育科、技術家庭科等 総合的な学習の時間 学級活動、学校行事	●授業の中で、けがなどの簡単な応急手当や心肺蘇生、AEDの操作等の技能テストを行い、その結果と授業における参加意欲等から個人別に技能を身につけているかを判断する。
高等学校	地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加することができる準備ができていますか 支援者としての役割を自覚しているか	社会科、生活科、工業科、情報科等 総合的な学習の時間 学級活動、学校行事	●地域の防災活動やボランティアなどの支援活動への参加状況、活動内容、避難訓練等への参加状況や行動を観察し、また地域住民による意見等を参考に、地域コミュニティに対する関心の度合いや人のつながりの大切さを理解したかどうかを判断する。 ●地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への生徒の参加状況、地域住民の意見等を参考に判断する。
	地域の災害と復興、安全安心な社会づくりへ理解できたか、また、社会貢献の意識は向上しているか	社会科、理科、生活科、工業科、情報科等 総合的な学習の時間 学級活動、学校行事	●授業に対する生徒の参加態度や発表内容、ワークシートから、災害復興、安全な社会づくりについて理解したかどうか判断する。 ●行政の担当者や専門家等の説明をとおして、災害復興、安全な社会づくりについて、グループでの話し合いや感想文の作成を行い、その状況や内容等から判断する。
特別支援学校	挨拶から始まるコミュニケーションを図ったり、助け合いの大切さを理解できているか 災害時に報告や相談等のコミュニケーションを図ることができるか	国語科、社会科、美術科、音楽科、体育科等 総合的な学習の時間 特別活動 自立活動 日常生活指導 生活単元学習	●授業や日頃の生活時間の中で、児童生徒の学習への態度や生活行動等を観察し判断する。 ●地域との交流行事の中で、児童生徒の行動を観察し判断する。 ●校内や登下校時を想定した避難訓練や防災活動の中で、児童生徒の行動や態度等から、教師や他の児童・生徒等と報告や相談をし行動できているかを判断する。

資料編

- 1 現地ヒアリング調査の概要
- 2 アンケート調査票

◆防災教育のテーマと主な内容

○テーマ:自ら救った命だから、あなたのために

平成21年度から津波が発生する仕組みや、津波から身を守る取組を理解し、自助や共助のあり方を学んできている。現在は、特に「他のために」という視点で、考えたことや思ったこと、体験等を発信していく活動を行い、防災意識の向上を目指す。

3つの重点項目:郷土愛、親子の防災意識強化、地域の自然とのつきあい

○学習の科目:現在は、総合学習を活用して教育学習を行っているが、各教科の中で防災意識を高められるような工夫をしている(担任教員による工夫)。

算数:避難時間算定

理科:浮力、発火の工夫

家庭:防災グッズの工夫

保健体育:救急医療法の工夫

防災教育の内容	実施時期(期間)	対象者
A 釜小ぼうさいの日の活動(マップ作成、避難訓練、防災学習、交流、発信活動) ・地域を知るための防災マップづくり ・下校時の避難訓練 ・裏山への避難訓練	毎月11日	全校生
B 釜小ぼうさい安全少年団結成(地区に対する防災的関心度向上)		全校生
C 防災安全マップ発表会	1回/年	全校生
D 授業として全校生による防災訓練の実施	9月11日	全校生



下校時避難訓練

◆教育成果の把握方法

- 防災マップづくりをとおして、地域の安全性や要援護者の存在を知り、地域住民との連携の大切さを学び、郷土への愛着が高まることを期待している。(防災は家庭でのマップ作成からスタート)
- これらの成果を全校生徒へ発表する準備と説明能力を観察し、理解度を把握している。

教育成果の把握方法	実施時期(期間)	対象者
A 防災安全マップ発表会 子どもによる発表、質問、回答形式 終了後に、感想文作成(高学年)によりふりかえりを行う	1回/年	全校生
B 下校時の避難行動で、担任教員が子どもの行動を観察		全校生
C 低学年は避難訓練等の後に、朝の会で話し合いを行う 高学年は感想文を作成する		1～3年 4～6年生



防災マップ発表会

◆防災教育の課題

- 現在の教育課程の中で防災教育をどのように強化継続していけるかが課題。
- 子どもの真剣さをどのように判断し評価するかが困難。
- 防災教育に特化できない。教科の中でどこまで防災意識を維持継続させられるか、教員の工夫に頼っている。
- 学校と地域との連携が必要とされているが、被災した地域では地域の防災組織も破壊されたままの地域が多く困難な状況にある。
しかし、こうした時こそ、学校側から積極的に地域に協力を要請することも必要であり、それが防災組織の再生につながる。

◆今後の計画

- 6年生を対象として、「防災巻」(災害発生とその後の行動をストーリーとして、巻物風に整理する)の作成。
- 防災教育は、人のために役立つ人間、相手の立場に立てる人づくりにつながる。そうした意識をもって防災教育を進めていきたい。
- 学校、公民館、町内会が学校防災のトライアングルとなり、それぞれの連携を強化していく。

◆防災教育のテーマと主な内容

○テーマ:「自分の命は自分で守る」ことのできる子ども

- ・自然災害のメカニズムや災害の歴史・七浦の地形(地質)について知り、的確な意思決定・行動選択ができる((知識、尽考、判断力を育成する)
- ・自然災害に伴う危険を理解し、自分の命を守るための行動ができる(危険の予測、主体的な行動ができるようにする)
- ・自他の生命を尊重し、災害後も自分ができることを考え、進んで安全活動に参加協力する(社会貢献の遂行)

○学習の科目:現在は、各教科の中で防災に関連した教育を行い、特別活動で防災に特化した学習や訓練を行っている。

また、年間を通して、全校一斉に避難訓練を行っている。

・1～2年生

生活科:まちを探検する。

道徳:命のつながりを知り、生きる喜びを知る。

特別活動:周辺の危険な場所を知る。避難訓練。

・3～4年生

国語:避難訓練や防災学習の感想文作成。

算数:避難場所までの距離や時間、避難場所の広さを図る。

社会:地域社会の安全性や、自然災害や防犯上の危険箇所を知る。

道徳:宿泊体験をとおして自主的活動を学ぶ。

特別活動:避難訓練。

・5～6年生

国語:自然の恩恵と人の生活とのかかわり

社会:過去の自然災害と国土について学ぶ。

理科:気象現象や流水の動きを学ぶ。

家庭科:非常時の食事の取り方を学ぶ。

特別活動:避難訓練。

防災教育の内容	実施時期(期間)	対象者
A 地震避難訓練(特別活動)	1回/年	全校生
B 津波避難訓練(避難場所へのタイムを計っている)	1回/月	全校生
C 警報音避難訓練、校外学習での避難訓練(生活、社会、総合)	随時	学年ごと全員
D 防災マップ作り(社会)	1回/年	4～5年生

◆教育成果の把握方法

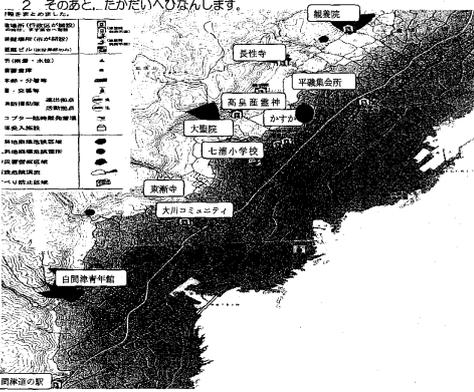
- 各教科の中で、津波への対策と同時に海からの恵みと地域固有の資源の大切さを理解することや互いに助け合うことの大切さを学んでいる。
- 学年ごとに各教科の中で、担任が工夫しながら防災への取組を指導し、学習後には感想文を作成する。また、避難訓練後にふりかえりカードを作成し、子ども同士で話し合いを持つ。これらを観察し、理解度を把握している。
- 地域住民も参加した避難訓練の中で、住民から見た子どもたちの防災や助け合い等の意識の度合いを報告してもらっている。

登校班で話し合おう

地区(千田) 班長(早川立成)

1 どうこう中、ゆれをかじったら「おちてこない」「たおれてこない」「いどうしてこない」ところに ひなんします。(車、電線、ガス管、ブロック塀注意)

2 そのあと、たかだいひなんします。



ちかい方に にげます。

5 おおつなみけいぼうが かいじよされたら こういきひなんばしよの [] にいきます。

ふりかえりカード

登校班(千田班長)

1 地震が来た時、「震」を尋ね、「揺れ」を感じたところからはなれてしゃがむことができましたか？
○でかこみましょう。

①よくできた ②できた ③できなかった

2 しゃがんだとしては、どんなところでしたか。
家のあいだでもあり近くにプールや水たまりがあった場所

3 『高台の避難場所』は、どこにしましたか？その場所は、避難場所として安全ですか？
(どこかすか)
①安全 ②土砂崩れなどの危険がある。 ③海からの高さが高い。

4 高台の避難場所にすべにいけましたか？○でかこみましょう。
①すべにいけた。 ②道路が分からなくてなかなか行けなかった。 ③どこに行ったらいいかわからなかった。 ④なかなか連絡がとれなかった。 ⑤その他 ()

5 ここまでの訓練で、よかったこと、なおした方がよいこと、こまったことを書きましょう。
場所が見えてきたらみんなあるいてしまっていた。

6 次はどこに避難しますか。高台避難場所はどこですか？
(どこかすか)
(い(休本)高皇産霊(神))

話し合い用の振ふりかえりカード

◆防災教育の課題

- 感想文やふりかえり等は高学年の作業となり、低学年では無理。徐々に意識を高めていく必要がある。
- 海の怖さと同時に、海から受ける恵みを理解させていく必要があり、それは防災にもつながるのではないかと考えている。
- 防災教育に特化できないが、各教科の中での教員の工夫による防災教育にも限界がある。ある程度、整理された教本も必要かと思う。

◆今後の計画

- 学校と地域との連携強化のために、登下校時の避難訓練を継続していきたい。
- 防災教育をとおして、人のために役立つ人間、相手の立場に立てる人間づくりを考えていきたい。
- 平成26年4月以降、地域の学校統合が予定されており、来年度は海辺の子どもから中山間の子どもまでいっしょになった学校生活となる。防災教育や避難訓練等の大幅な見直しを検討していかなければならない。

本日は、ご参加いただきありがとうございます。本日の訓練について、感想を書いていただきたいです。今後の指導へ生かして参りたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

お名前 (沼田 美如) 地区 (千田)

1 子どもたちの避難の様子で気になったこと

- ・ 多くにグラウンドの真中に逃げ、上級生は下級生の首などを良く見ていました。日頃、学校での訓練がきちんとできていて感じました。
- ・ 避難場所で整行整列、声も揃って、おしゃべりもありませんでしたが、訓練した成果がでていたと思います。

2 子どもたちに気をつけてほしいこと

- ・ 今日 2 雨で天気が悪く、道もぬりやすかったと思います。その時々状況を見極め、何が正しいか、逃げるといふ事を覚えてほしいです。

3 心配なこと

- ・ 今日 3 登校中という事で、上級生がいままでの訓練以上に、下級生だけを心配している時の避難は心配です。

4 その他 (七浦小学校の避難訓練について)

- ・ 色々な場面を想定しての訓練は大事だと思います。ひとりひとりがしっかりと自覚し、あわてずに避難する事ができるといい。日々話し合ったりする事が大事だと思います。

ご協力感謝申し上げます。

地域住民からの評価

◆防災教育のテーマと主な内容

○テーマ:今を生きる(地域との連携を目指す)
海辺に近く、津波による被害は必ず起きる。どこにいても避難できるようにしたい。

○学習の科目:総合学習を活用して教育学習を行っている。

防災教育の内容	実施時期(期間)	対象者
A 小中行動避難訓練(上級生と下級生との連携)	各学期に1回	全校生
B 防災学習会(町防災計画と一体、避難行動訓練、京都大学支援)	1回/年	全校生
C 防災キャンプ(防災用具学習、1泊)	1回/年	5~6年生
D 興津地域ぐるみ(避難訓練、炊き出し訓練)	2回/年	5~6年生



裏山への避難訓練



消防署の協力により救急法の講習会



学校プールを使ったライフジャケット装着訓練

◆教育成果の把握方法

- 地域の自然や災害に対する知識習得を行うと共に、海の恵みについても理解しながら、自助・共助の考え方を学んでいる。
- 低学年は担任教員による行動の観察を行い、担任に話し合いを経て次の指導方法に活かしている。
- 5～6年生は訓練や防災学習時には、感想文や自己シートを作成させ、担任教員が理解度を判断している。
- 5～6年生は半年間取り組んできた防災学習の成果を全校生徒に発表し、その行動を観察し理解度を把握している。

教育成果の把握方法	実施時期(期間)	対象者
A 防災学習の発表会	1回/年	5～6年生
B 避難行動や防災学習時に生徒の行動を観察		1～4年生
C 防災学習後の感想文、自己評価シートを作成		5～6年生



5～6年生による防災学習成果の発表会

◆防災教育の課題

- 自助から共助へ。
- 避難訓練はかなり実施しているが、防災に関する定まった教育課程がない。高知県の安全教育プログラムを活用している学校独自のものを検討していきたい。
- 家庭内、地域内において、危険リスクを知る学習が不足しており、学校での防災学習をどのように保護者や地域と連携できるかが課題となっている。
(学校での訓練と地域内での訓練では、子どもの真剣さに差が生じている)

◆今後の計画

- 学級活動に位置づけて防災教育を推進していくことを考えている。
- どこにいても自然に行動できるように防災意識をたかめていきたい。
- 京都大学の協力により、GPSを用いた子どもたちの避難行動を分析しており、今後の避難行動計画に活用したい。
- 防災学習の教育課程を防災行事と関連させて作成し、系統だった学習が実施できるように「防災教育課程」を作成したい

防災マップ作りの計画を立てよう!

平成 年 月 日 ()

年 名前 ()

1. 昨年度作成したマップから、良いところを見つけましょう。

(良いところ)		
○グループの意見		
()	()	()
・ビシマンを使っている。	・道がこゆくて見やすい。	・地域で見見したことが見やすく書かれています。
○全体の意見 列		班

2. 昨年度作成したマップから、改善点を見つけましょう。

(改善点)		
○グループの意見		
()	()	()
・道の線がうすい。	・現実でない道を書いているから、地図を見た人は分からない。	・色が少ない。 ・道の線がぼやい。
○全体の意見 列		班
<ul style="list-style-type: none"> ・ひなん所を大きく見やすくかく ・海枝を大きく見やすくかく ・道と矢印の色を分ける ・危険な所 助けをを求める所を大きくする 		<ul style="list-style-type: none"> ・色をこゆすぎないようにする。(色使い) ・建物のマークを増やす。 ・字が小さい→はっきりと!! ・道が分かりづらい→色を

2. 良い点、改善点をもとに、グループでどのようなマップを作っていくか考えましょう。

<ul style="list-style-type: none"> ・道をこゆくする ・字を大きくはっきりに ・明るい色で... ・写真は、8~9枚 ・見る人に分かりやすく ・ひなんしょだけ色をかえる ・海枝を大きく(500円玉ぐらい) ・ひなんしょ・ひなんタワーを大きく見やすく ・道がきれたら、「ここから、000」と書く(書いたとき) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひなんしょ ・むかい山 ・保育園 ・ひなんタワー(うき)
---	--

3. 防災マップを作るために、どのような活動をしらよいてしょうか。

○グループの意見		
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に、歩いたり、走ったりしてタイムをはかる。(子ども) ・危険な場所の写真を取る。 		
○全体の意見 列		班
		<ul style="list-style-type: none"> ・危険な所の写真 ・道のかくにん ・ひなんしょのかくにん

◆防災教育のテーマと主な内容

○テーマ:状況を適切に判断し、自分や家族の命を守り、仲間とともに地域に貢献する。
生徒の発想からスタートする防災学習の実践。

○学習の科目:総合的学習の時間を活用して防災教育を行っているが、各教科内、教科外で防災意識を高められるような工夫をしていきたい。
防災教育18時間:防災訓練10時間、防災学習7時間、防災道徳1時間
・教科内、教科外での防災教育の実践(下表参照)。

防災教育の内容	実施時期(期間)	対象者
A 防災訓練(地震、津波を想定した避難訓練、避難経路の確認)	10回/年	全校生
B 防災学習(DIGを使用した地域の危険箇所の把握、災害の知識習得、外部講師による授業、防災マップづくり等)	隔月	全校生

時間	教科内(教科内の時間で)	教科	教科外(教科外の時間で)	時間
		国語	防災用語の学習、避難放送の理解(全学年・学級)	1
1	焼津市の地理、焼津市の海岸沿いの特徴(1年) 自然のもたらす災害を克服する(2年)	社会		
1	地震発生と到達時間の計算(2年)	数学		
	3年理科「科学技術と人間」	理科	地震の発生原理、津波の発生原理、津波の強さ(3年・学級)	1
		音楽	災害時のストレス軽減音楽(3年)	1
1	ピクトグラム「非常口」のデザイン(2年) 避難所に飾られた紅白梅図屏風(2年)	美術		
		保健体育	災害時集団行動、災害時用体力作り、担架救助訓練、人工呼吸講座(全学年・学級)	2
3	太陽光発電の原理と模型作り、太陽熱の利用、水質浄化装置の作成、手回しラジオの作成(3年)	技術	災害時の箸、スプーン作り(3年・学級)	1
		家庭	カセットコンロを用いた非常時調理、非常食の栄養や保存、非常用水、食料の適、不適、必要な防寒具、非常食を食す(1年に一度1, 2, 3年・学級)	2

教科内、教科外での防災教育

◆教育成果の把握方法

- 小中合同の避難訓練をとおして自助とともに幼児児童や地域の要援護者へのサポートの大切さを学んでいる。
- 地域の防災マップづくりをとおして、地域が抱えている防災上の課題を見つけ、生徒同士学び合う環境を提供している。
- 防災学習の授業の中で、ワークシート等の配布により生徒自ら記入と話し合いをもっており、これらを観察することで理解度を把握している。

教育成果の把握方法	実施時期(期間)	対象者
A 防災安全マップ発表会	1回/年	全校生
B 防災学習における話し合いやアンケートの実施	隔月	全校生



防災マップづくり



避難所訓練としての非常食

◆防災教育の課題

- 教育成果を定量的に把握することは困難である。
- 防災教育は教科の中で防災に関心をもたせるように工夫していきたい。

◆今後の計画

- 避難訓練や防災学習をとおして、自分の命は自分で守る、周りの人と協力してお互いの命をともに守る、という意識を持たせていきたい。
- 学校全体の防災意識を向上させるために、教職員を対象に防災研修会を実施しているが、今後さらに教科継続していきたい。
- 在校時の地震や津波への対応は効果が出ているが、家庭や地域での対応に問題が生じている。今後、家庭地域との連携を強化していきたい。

防災教育に関するアンケート調査結果

NO	項目	H24(6月)	H25(6月)	比較
1	学校で地震が起きたとき、どのように避難すればよいかわかる。	94.1 %	95.9 %	1.8 % ↑
2	登下校中に地震が起きたとき、どのように避難すればよいかわかる。	81.5 %	83.9 %	2.4 % ↑
3	家で一人の時に地震が起きたとき、どのように避難すればよいかわかる。	84.6 %	90.4 %	5.8 % ↑
4	学校で地震が起きて津波の危険があるとき、どこに避難すればよいかわかる。	94.1 %	93.5 %	0.6 % ↓
5	登下校中に地震が起きて津波の危険があるとき、どこに避難するか決めている。	70.7 %	81.2 %	10.5 % ↑
6	家で一人の時に地震が起きて津波の危険があるとき、どこに避難するか決めている。	82.9 %	83.4 %	0.5 % ↑
7	家族で地震の後、どうやって連絡を取り合うか決めている。	53.0 %	45.0 %	8.0 % ↓
8	放射線がどういうものか知っている。	60.3 %	61.0 %	0.7 % ↑

◆防災教育のテーマと主な内容

○テーマ:学校と地域とが一体となった防災の里づくり

学校と地域社会の絆を深める「新庄3つの里づくり」とおして、生徒に防災への意識をはぐくむ。

○学習の科目:現在は、総合的学習の時間を活用して防災教育学習を行っている。

3年生が教科別、班別に分かれ、過去の地震・津波による災害状況や復興の過程、防災の取り組みなどについて調べ、まとめ、発表する「新庄地震学」の学習を行っている。過去11年間は選択教科に位置づけて取り組んできている。

東日本大震災の経過から学び、過去の本校の取り組みを検証し、防災減災を地域に幅広く啓発することを中心に取り組んでいる。

防災教育の内容	実施時期(期間)	対象者
A 新庄地震学の実施	1回/年	3年生
B 小中合同避難訓練		全校生
C ハザードマップづくり	1回/年	全校生
D 避難訓練(地域住民の避難を想定したサポート訓練)	1回/年	全校生

○新庄地震学(平成24年度実施分)

選択教科と防災学習のテーマ	取組内容
理科:地震と津波のエネルギー	南海トラフ等を起因とする地腰や津波、災害に関わる事柄について探求する
国語:防災標語	「防災標語」を小学生・中学生・高校生・地域の方々から募集・審査し、優秀作品を表彰する。また、地域の様々なところに掲示・配布する。
社会:登下校の避難場所	昨年度取り組んだハザードマップを改良し、新たな津波高に対応する避難場所や避難経路を、視覚に訴える方法で探求し、個々の避難場所について現状を把握する。
数学:数値でみる避難場所(体育館)	校内にある備蓄庫の状況確認を行い、避難場所である体育館や校舎でどのぐらいの人が生活できるか探求する。
英語:英語版防災紙芝居の製作と発表	簡単な英語を使った防災紙芝居を制作し、小学校高学年の児童に出前授業を行う。災害時の避難方法について啓発する。
美術:新庄地震学カレンダーの製作	新たな津波高のハザードマップや今年度の取り組み等をカレンダーにまとめ、配布する。
家庭:耐震家具の工夫	各家庭における耐震グッズや家具の転倒防止グッズ準備状況を学ぶと共に、アンケートを取り生徒自身が就寝している間取り状況を把握して、動画にて危険性を確認する。
保体:避難所の生活と保健衛生	避難所の生活を調べ、新庄中学校が避難所となった場合について、その生活面や保健衛生について検討し、率先して行動できる態度を養う。

◆教育成果の把握方法

- 3年生により地震学の準備活動及び全生徒や地域住民への発表をとおして、生徒の自然災害への理解や地域や家庭での防災活動の役割意識の向上を把握している。
- また、防災教育には総合的な取組が必要であることと同時に、地域のコミュニティの大切さについても学んでいる。
- これらを毎年実施している全校生徒と地域住民を対象とした「新庄地震学発表会」に向けた、生徒の準備とその発表力を観察し理解度を把握している。

教育成果の把握方法	実施時期(期間)	対象者
A 地震学発表会	1回/年	3年生



新庄地震学発表会



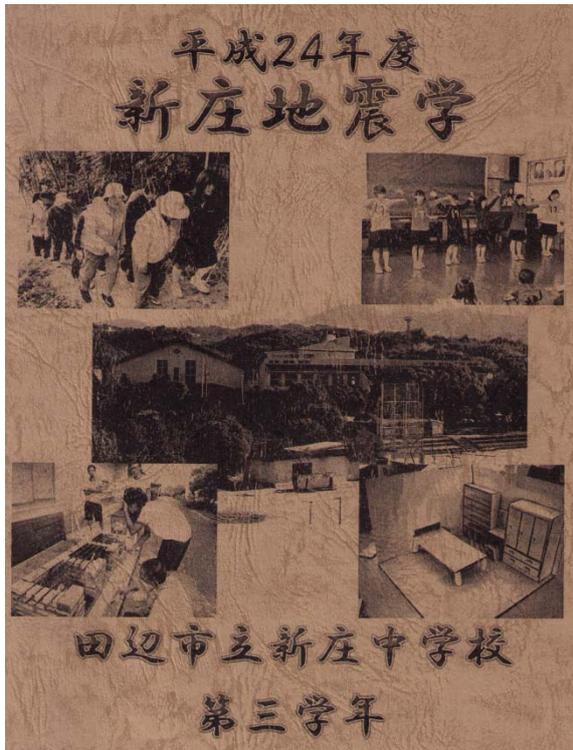
被災地への支援活動報告

◆防災教育の課題

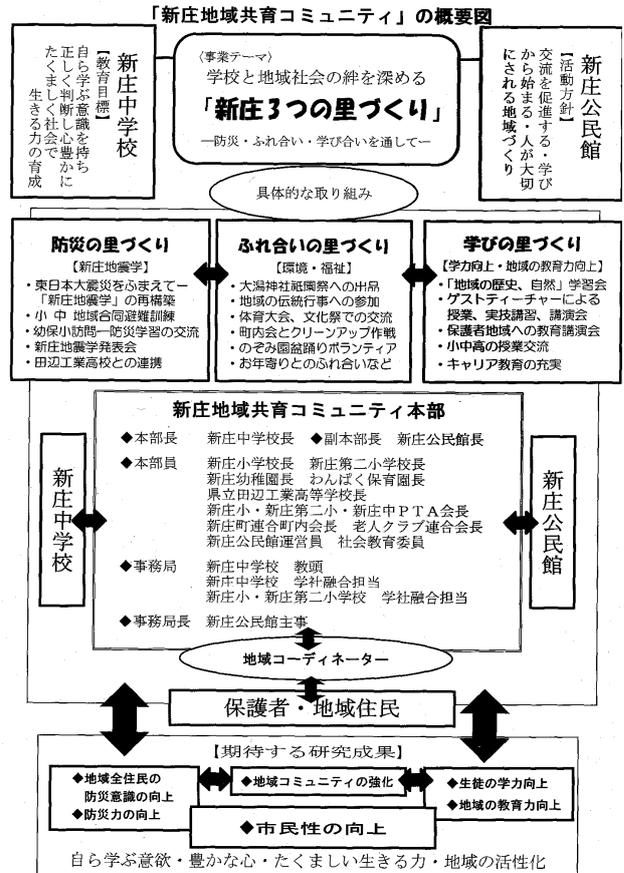
- 生徒が防災教育について、ネガティブな感情をもたないように注意している。
- 防災の里づくりはその一環であり、地域への愛着を増しコミュニティづくりに参画することが、防災教育にもつながるものと考えている。

◆今後の計画

- 新庄中学校と新庄公民館が連携し、地域ぐるみで子どもを育てる取り組み「新庄地域共育コミュニティ」を推進しているが、今後とも、新庄地震学を中心とした防災の里づくりを展開していく。
- 災害発生時にはこの新庄中学校が地域防災の拠点となる。このことを踏まえて、新庄中学生が防災活動の担い手となるよう、防災教育を推進していく。



地震学発表会の報告書



新庄の里づくりと新庄中学校の取組の位置づけ



地震学発表会当日の地域住民の炊き出しサービス

◆防災教育のテーマと主な内容

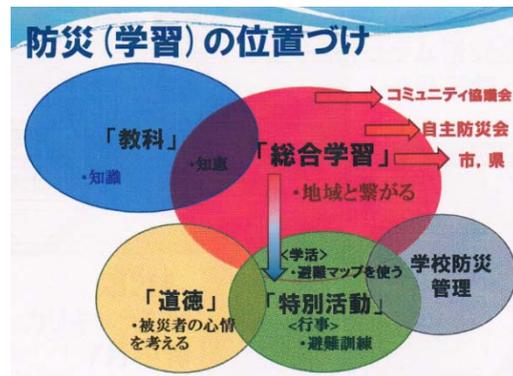
○テーマ:地域とつながることをテーマとして、2, 3年生の総合的な学習の時間を活用して、「防災講座」を設定し、希望する生徒が選択する方法をとっている。

○学習の科目:選択した生徒が中心となって以下の活動をし、他生徒への啓発を行っている。
年間の活動計画は、地域住民、学識者等も参加したカリキュラム研究会によって決めている。

- ①繋がる活動
- ②地域に貢献する活動
- ③被災地に貢献する活動
- ④自ら体験する活動

○防災教育の位置づけ

防災学習は総合的な学習の時間にける防災講座が中心となっており、教科の中で災害への知識を学び、道徳では被災者の心情を考え、特別活動では避難訓練や防災マップを用いた地域の安全性を理解している。



防災教育の内容(平成24年度の活動内容)	実施時期(期間)	対象者
A 繋がる活動(毎年恒例の活動) ○保・幼・小・中合同避難訓練 ○幼稚園、小学生への防災出前授業 ○非常食づくり ○町民への防災意識調査(調査結果の配布) ○町内津波避難訓練に参加	平成24年度 複数回/年	全生徒 2年生 2年生 3年生 2, 3年生
B 地域に貢献する活動 ○家具転倒防止器具設置の呼びかけ ○地域の安全安心のための整備計画を行政に提言 ○津波避難支援マップ作成	複数回/年	3年生
C 被災地に貢献する活動 ○阪神淡路大震災追悼イベント	1回/年	
D 自ら体験する活動 ○タブレット型PCを使用したバーチャル避難訓練 ○世界防災会議に参加	複数回/年	2, 3年生、他

◆教育成果の把握方法

- 総合的な学習の時間の防災講座を選択する生徒は現在2, 3年生約30名となっており、生徒の各種活動を防災担当教員が行動観察したり、MJ自己評価カードをチェックすること、また全校生徒への発表会に対する準備や発表能力等を観察し、教育成果を把握している。
- 教科については、各担任が生徒の発表や行動等を観察し把握している。

津田中学校では、自己評価カードを「MJ(my journey time)自己評価カード」(自分探しのためのカード)として、各種の活動に対する自己評価に用いている。

MJ自己評価カード	
年 組 番	氏名
MJ名	
MJの内容(どんな活動をしたか) ー 具体的にー	
MJでのあなたの役割	
1年間のMJの取り組みについて(よくできた◎ できた○ あまりできなかった△ できなかった×)	
1	MJを楽しみながら、一生懸命に取り組めたか。 関心・意欲・態度
	1年間のMJ(まとめや発表)を終えて、何ができて、何ができなかったか、どんな工夫をしたか。 主体的な態度・創造性
1 2	あなたの学習をふりかえって、一番あてはまるものを選びなさい。 主体的な態度 ア 先生の指示や説明を聞いて、その通りにだけ活動することが多かった。 イ 先生の指示や説明を参考に、自分の考えを生かして活動できた。 ウ 自分の考えを中心に活動したので、先生には助言だけしてもらった。
1	あなたはMJで新しいことにチャレンジできたか。 意欲・学習の広がり
	それはどんなことか。
2	MJで、迷ったり、困ったり、つまづいたりしたことがあったか。 課題発見・設定の能力
	そのとき、どうしたか(結果はどうなったか)。 課題解決・総合的な思考・判断
2 今まで気づけなかった新しい発見があったか。 気付きの能力 はい いいえ それはどんなことか。	
3 MJで新しい情報(技術・資料)を得ることができたか。 それはどのような方法で得ることができたか。 学び方の学習	
3 他の人とうまくコミュニケーションがとれたか(協力・配慮・マナーなど)。 コミュニケーションの能力(伝える・聞く・意見交換により考えを深める・マナー・交流の広がり)	
4 今まで学習したこと(小学校や家庭も含む)をMJで生かされたか。 知識の総合 どんなことを、どんな場面で生かされたか。	
4 MJで学習したことを生活の中に生かされたか。 総合の活用 どんなことを、どんな場面で生かされたか。	
未来を生かせる力 MJを通して自分に自信が持てるようになったか。 自分のどんなことについて自信が持てるようになったか。	
1 「学習への主体的・創造的な態度」：MJへの関心・意欲・態度。 2 「問題解決の能力」：次々に生じる問題や課題に対して善処や解決がはかれたか。 3 「総合的な思考・判断・表現」：情報・資料の収集・活用能力、コミュニケーションの能力などを含む、 学び方や考え方・表現のくふう。 4 「総合的な応用の能力」：生活の体験から得た知識・技能をMJの場で応用できたか。	
MJの学習で、教科の学習のときよりもふえたものは何ですか。(いくつ○をつけてよい)。 ア 先生との会話 イ 生徒間の会話 ウ 学校外の人の会話 エ 何かで調べること オ 新しい機械を使うこと カ ものをつくること キ その他()	
MJを終えて(感想、改善すればよかった点、MJで学んだこと、次にチャレンジしたいことなど)	
備考	

◆防災教育の課題

- 防災講座に参加している生徒の災害への知識や自主的な避難行動、社会貢献等の意識は高いが、他の生徒については、十分にできていない。今後、他生徒への啓発をどう進めるかが課題となっている。
- 津田中学校の卒業生は、それぞれの環境で中心的な活動をしている

◆今後の計画

- アンケート調査結果で示された防災学習の問題点を解決するために、具体的に取り組みたい。
- 防災講座を選択する生徒をふやしていきたい。

◆防災教育のテーマと主な内容

- テーマ：・日頃から災害に対する備えを行い、災害発生時には状況に応じた的確な判断により、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
- ・災害発生時には、自らの安全を守るだけでなく、防災活動やボランティア活動等に積極的に参加し、地域の人々の安全確保に貢献できるようにする。
 - ・災害発生メカニズムや歴史、及び地域の防災体制についての理解を深めることができるようにする。
- 学習の科目：現在は、総合学習を活用して教育学習を行っているが、今後、正規の教科として扱うよう検討している。
- * 地元自治体、銚子气象台、千葉科学大学、日本赤十字、海上保安庁、災害ボランティア等との連携により学習効果を高めている。
 - * 教科の目標
 - ・全ての災害発生時に、的確な判断を行い、自らの安全を確保するために行動できるようにする。
 - ・防災教育を生命を大切にする教育と位置づけ、災害発生時には、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。
 - ・地域の教材の活用や地域と連携した防災訓練等の実施により、災害の発生メカニズムや歴史、地域の自然環境や防災体制について理解できるようにする。

防災教育の内容	実施時期(期間)	対象者
A 防災学習(近年の自然災害について、ボランティア体験) <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の主な自然災害状況 ・地震・台風・水害の理解 ・応急手当について学習 ・災害ボランティアについて学習 ・被災体験談を聞く ・災害対応地震・水害・災害後 ・災害と法律を知る 	1回/月 ボランティアは7, 8月	1年生の希望者
B 防災学習(身近にできる防災対策) <ul style="list-style-type: none"> ・「火災」と「自然災害」防災対策の違いについて学習 ・「自然災害」の防災対策について学習 ・過去の被害を知る ・災害から地域を守る対策を知る ・こころのケアについて考える ・災害後の支援体制を考える ・地震のメカニズムを知る ・災害復旧の実態を考える 	1回/月 ボランティアは7, 8月	2年生の希望者

◆教育成果の把握方法

- 防災教育は総合的な取組が必要であることから、教科として進めようとしている。また学校が地域の避難拠点であることから、地域との連携強化、ボランティア活動の大切さを学んでいる。
- これらを防災学習の授業中の生徒の参加度合いや発表力、レポートの内容、ミニテスト等から、理解度を把握している。
- また、生徒の移動時及び校外活動時に安全確保ができているかをチェックし、理解の程度を把握している。

教育成果の把握方法	実施時期(期間)	対象者
A 防災学習や避難訓練等への出席状況		全校生
B 防災学習、避難訓練等の後のレポート		全校生
C 生徒の移動時及び校外活動時の安全確保の状況		全校生

◆防災教育の課題

- 現在の教育課程の中で防災教育をどのように強化継続していけるかが課題であり、新たに、「防災の学び」を教科として位置づけたいと考えている。

「防災の学び」の授業内容

- ・近年の自然災害について学ぶ
- ・自助(自分の命は自分で守る)について学ぶ
- ・共助(地域とともに活動する)について学ぶ
- ・災害発生のしくみについて学ぶ
- ・災害と情報について学ぶ

- 県立高校は地域とのつながりが少ない。防災拠点校として、見直ししていくことが必要となっている。

◆今後の計画

- 昨年度、地域とのつながりを向上させるために、地域住民と連携した避難所訓練を行ったが、今後も継続して行っていく。

◆防災教育のテーマと主な内容

- テーマ:生徒の防災意識を高め地域に貢献できる人材を育成する
外部講師を招聘しての防災講座、「防災ノート」のHR等での活用、生徒会を中心にした東日本大震災被災地への視察・支援交流とその報告会、徹底した防災訓練・避難訓練を通して、生徒の防災知識を高めるとともに防災リーダーの育成を図る。
- 学習の科目:現在は、総合学習を活用して教育学習を行っているが、各教科の中で防災意識を高められるような工夫をしている(担任教員による工夫)。

防災教育の内容	実施時期(期間)	対象者
A 防災講座の開催	3回/年	全校生
B 防災ノートの活用	常時	全校生
C 東日本大震災被災地への視察	1回/年	生徒会、他
D 防災訓練、避難訓練(津波を想定した4階への避難訓練、部活中の避難訓練、HR中の緊急地震速報対応訓練他)	5回/年	全校生
E 地域の防災訓練への参加	2回/年	全校生
F 防災リーダーの育成 アプレンティスシップ(徒弟制度)の活用 生徒会に防災委員会を設置	常時	生徒会、他



仮設トイレ設置訓練



HRの防災ノートの活用

◆教育成果の把握方法

- 「防災ノート」をHRの時間に活用することにより(2～3時間)、防災知識を程度を把握している。
- 生徒会やボランティア委員会を中心に東日本大震災被災地への視察や支援交流、さらにその報告会が行われている。これらの活動を通して、生徒の防災意識や防災リーダー形成の過程を把握している。
- また、生徒会の常設委員会として「防災委員会」を設けられており、これらの活動の参加者や活動の積極さから防災教育の成果を把握している。

教育成果の把握方法	実施時期(期間)	対象者
A 防災ノートの活用	常時	全校生
B 東日本大震災被災地への視察や支援交流報告会	1回/年	生徒会、他
C 生徒の防災訓練への参加の姿勢、参加報告書の内容	5回/年	全生徒



文化祭での展示報告会



支援交流会の報告会

◆防災教育の課題

- 防災教育を授業として単独に実施するのは困難であり、各教科の中で防災意識が向上するよう工夫していきたい。
- 生徒の理解を定量的に把握するのは困難であり、今後、リーダーが育っていく経緯を観察していきたい。そうした中で、評価する方法を発見できるかもしれない。
- 防災は統合的な取組が必要であり、ほとんどの教科と関係を持つ。したがって各教科の中で意識付けさせるのが適している。
- 全生徒が防災ノートを所有できるように援助してもらいたい。

◆今後の計画

- PDCAサイクルを活用した防災教育を検討していきたい。
- 共助に力をいれていきたい。

防災訓練参加報告書

組	番	氏名	性別
参加した訓練		救急法 トイレ設営	テント設営 バケツリレー
<p>① 今日、行った訓練についての感想。</p> <p>トイレ設営とバケツリレーをやりましたが、トイレ設営においては、仮設トイレを作っているところを見るのは初めてでしたが、生徒だけで作れることに驚くとともに、意外と時間がかかるものだということが分かりました。バケツリレーでは、ただバケツを回すだけではありませんが、何度も繰り返していると腕や腰に痛みを感じ、結構な重労働だと分かりました。</p>			
<p>② これまでに学校で行ってきた防災についての講習や訓練を通して学んだこと。</p> <p>小中学校の防災訓練というと、防災ずきんを被って逃げる、いわゆる自分の身を自分で守ることに重点が置かれた訓練でしたが、高校では自分の身を自分で守ることは前提で、他人と助け合い、みんなと一緒に自分だけでなく周りの人々や地域を守っていくことが大切であるということを知ることができ、助け合うことの大切さを学びました。</p>			
<p>③ 防災について、家庭ではどのような事を話したりしていますか。また、どのような準備をしていますか。</p> <p>数年前から非常持ち出し袋は用意し、水や食料などの生活必需品を入れています。また、学校にいる時と家にいる時どちらの場合でもあせらず行動できるよう、何を持て逃げるかやどこに逃げるかといった話をしています。</p>			
<p>④ 高校生として、災害時にはどのような形で地域に貢献できると思いますか。</p> <p>一人一人が自覚を持って、自分の身を守ることを第一に考え、かつ訓練で学んだトイレやテントの設営等に取り組むことは地域の貢献につながると思います。また、学校に逃げてくる地域の方々には、突然の事態ということにパニックされていると思うので、私たちが落ち着きを持って行動すれば、周りの方々も自然と冷静になれるのではないかと思います。実際にトイレやテントを設営するという行動だけでなく、冷静さを保って地域の方々にまめたり、先頭に立って引っ張っていくことも地域への貢献といえるのではないかと思います。</p>			

◆防災教育のテーマと主な内容

- テーマ： 校内での防災教育を推し進めるためには、まず、指導側の教師が防災というものをよく知ることが必要である。
職員の防災教育に関わる専門性を高めていくことが、児童生徒への防災教育の普及、防災意識の向上につながっていくのではないかと考えている。
- 学習の科目：多くの場合は学校行事として行っている。

防災教育の内容	実施時期(期間)	対象者
A 防災教育の研修	1回/月	教職員
B 学校安全マップづくり	1回/年	教職員
C 防災教育シンポジウムの開催	1回/年	教職員 保護者
D その他 ・カードゲームクロスロード ・過去の水害の語り部 ・家庭内DIG ・HUG(避難所運営ゲーム)	1回/年	児童生徒 教職員 保護者
E 命を守る訓練	1回/月	児童生徒 教職員 保護者
F 命を守る学校待機訓練	1回/年	児童生徒
G 各学年での防災教育(小学部、中学部、高等部)	1ヶ月	児童生徒
H 地域との連携(学校設置地域での連携、児童生徒居住地での連携)	1回/年	保護者

○学校安全マップづくり

学校回りの危険な場所や災害時に利用できる場所を探すため、職員で校外を散策、その後、地図に情報を落とし込み「校内安全マップ」を作成した。

○学校待機訓練

大雨警報が発表されたことを想定し、宿泊経験のある児童生徒(商学部5年生以上)を対象に、約100人が宿泊訓練を行った。

◆教育成果の把握方法

- 高等部の生徒は、防災教育の中で、作品づくりへの積極さ、クラスごとの発表力等から、防災への理解を把握している。
また、高等部では小テストも行っており、その結果から理解の度合いを把握している。
- また、中学部や小学部では、体験活動や避難行動での動きを観察し、防災への理解を把握している。

教育成果の把握方法	実施時期(期間)	対象者
A 作品づくりや行動、発表力、小テスト		高等部
B 体験活動や避難訓練等での行動		高等部 中学部
C 地震発生の初期対応への行動 (リズムランニングをとおしたダンゴムシやアリさん動き)		小学部

◆防災教育の課題

- 防災教育の日常化:これまでに実施した活動をどのように継続していくかが問われている。
- 児童生徒は学校よりも家庭で生活する時間が長く、学校以外で災害にあう可能腔の方が高い。災害時に児童生徒が命を守る方法を身につけることも大切であるが、その家族の防災意識を高めていくことも命を守るという意味で重要となっている。
- 家族を巻き込み、家庭に波及していくような防災教育の方法を探っていく必要がある。
- 特別支援学校の児童生徒をサポートするには地域とのつながりが重要となる。しかし、一方で児童生徒の保護者側にプライバシー保護の壁も存在する。地域と連携した避難訓練等を展開する上で、解決していくべき課題となっている。
- 児童生徒は広域から通学してくるため、学校設置地域と児童生徒の居住地が異なることが多い。このため地域住民との結びつきが弱く連携も進めにくい。まず、学校のことや子どものことを知ってもらうことが必要と考えている。

◆今後の計画

- 児童生徒を居住地で認知してもらうことが重要であり、地域での避難訓練等にも参加できるよう、関係者に働きかけていく。
- 通学途中での避難を想定し、通学路周辺地域の住民、学校、ボランティア等に協力してもらう仕組みを構築していきたい。

◆防災教育のテーマと主な内容

- テーマ： 関係機関と連携を図った防災体制づくり
- ・学校における災害発生時の対応について教職員の役割等を明確にし、学校防災体制を確立する。
 - ・家庭や地域、関係機関等と連携を図った防災体制の構築、推進を図る。
 - ・児童生徒の年齢や発達段階に合わせた防災教育の実践により、自分の命を守ることができる子どもを育てる。

○学習の科目：総合的学習の時間と学校行事として行っている。

防災教育の内容	実施時期(期間)	対象者
A 福祉避難所等への避難及び引き渡し訓練	1回/年	児童生徒 保護者
B 下校中(スクールパス)の避難訓練	1～2回/年	児童生徒 保護者 ルート沿いの 小中学校
C 屋上への避難訓練	8回/年	児童生徒 教職員
D 防災専門家からの助言	1回/年	児童生徒 教職員 保護者
E 防災宿泊訓練	1回/年	中学部 教職員
F 親子防災教室・防災マップづくり	1回/年	高等部 保護者
G 静岡県地震防災センター見学	1ヶ月	高等部
H 職員防災研修会、講演会 (職員の防災意識を高める)	1～3回/年	
I PTA防災講演会	1～2回/年	

◆教育成果の把握方法

- 児童・生徒の体力、心の状態などの違い踏まえて、避難行動を中心にした指導を行っている。
- 高等部の生徒は、防災教育の中で、作品づくりへの積極さや内容等を観察し、理解度を把握している。
- また、中学部や小学部では、避難行動での動きを観察し、防災への理解を把握している。
- 避難訓練を実施した時は、事後学習として降り返りを行う。

	教育成果の把握方法	実施時期(期間)	対象者
A	作品づくりへの行動		高等部
B	避難訓練等での指示に対する行動		高等部 中学部 小学部

- 事後学習(振り返り)
【小学部】
事前の約束が守れたかを話し合い、できたことを称揚する。
【中学部及び高等部】
学部主事の講評を聞いたり、教師との話し合いの中で、事前指導や約束を守れたかを確認する。

◆防災教育の課題

- 児童生徒に防災に対する理解力の差があり、ほとんど教員が指導し、それに対応できたかどうかを確認する状態が続いている。
高等部では教員の指導を受けて、徐々に自主的な活動も見られるようになっており、今後さらに意識向上を図り、活動を展開させていく工夫が必要となっている。
- 特別支援学校の児童生徒に対する防災学習の教材が不足している。
(避難訓練の方法が中心となっているものが多く、

◆今後の計画

- スクールバスのルート沿いの学校に対して、新たな避難場所受入の依頼を行うと共に、受入校との協力体制を強化し、合同の避難訓練実施の可能性を検討していく。
- 学校とバス会社(スクールバス)との無線連絡体制を強化する。
- NPOや地域のボランティア等との連携を強化し、合同の防災訓練や防災学習を実施する。
(特に、地域の災害ボランティアとの交流を図るため、どのような人が存在するか調べたい。)

12月12日(水) スクールバスのひなんくんれん		
じゅんばん		
1	バスにのる	
2	じしんがおこる	
3	ひがししょうがっこう にいく	
4	バスのなかで まつ	
5	ひがししょうの たいいくかんでまつ トイレ・すいどう 	
6	バスにのる	
7	おむかえ	さようなら 

スクールバス避難訓練時の児童生徒との約束カード

「防災教育の体系的な指導に関する調査研究」に関するアンケート調査票
(平成25年10月 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課委託事業)

<調査の目的>

文部科学省では東日本大震災等で明らかになった教訓を踏まえ、児童生徒の発達段階に応じた効果的かつ体系的な防災教育を推進するため、全国で防災教育を積極的に実践している学校(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校)を対象に、アンケートや現地調査を行い、①教育目標、達成目標、学習のねらい、②学習指導の方法、③児童生徒の達成度を客観的かつ総合的に評価する手法について調査研究を行うと共に、その成果を報告書に取りまとめ、学校現場での指導に活用されるよう各教育委員会等へ配布することとしています。

このアンケート調査は、積極的に防災教育を推進している学校(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校)をご紹介します。あわせて教育委員会としての防災教育に対するご意見をお聞かせするものです。

<ご記入にあたって>

1. ご回答方法は、選択肢を選び回答欄にその番号を記入していただくもの(複数回答の場合もあります)と、具体的な内容を記述していただくものがあります。
2. 選択肢「その他」を選択した場合は、回答欄の「その他」の欄に具体的な内容を記入してください。
3. ご回答いただいたアンケートの内容については、統計的数値として取りまとめると共に、個々の具体的な回答内容がそのまま公になることはありません。
4. 本調査について不明な点等ございましたら、下記調査実施機関担当者までお問合せください。

<調査票の返信について>

1. 本調査票は電子媒体(マイクロソフトExcel形式)で、メールにより送付しております。ご回答いただいた調査票はメールにて、下記電子媒体の送信先Emailまでご返信ください。締め切りは、平成25年10月16日(水)までとさせていただきます。

【調査実施機関・調査票についての問合先・調査票返信先】

株式会社 政策研究所 政策科学部 (担当: 山本、養田)
住所 〒107-0062 東京都港区南青山2-7-19-301
電話 03-6804-6606 FAX 03-6804-6695
電子媒体の送信先Email bousai25@seijsakuken.co.jp

【調査委託元・調査の趣旨等についての問合先】

文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課防災教育係(高塚、谷口)
電話03-5253-4111(内2670)

ご担当者の所属・連絡先をご記入ください。

都道府県名	教育委員会名称
ご担当者名	所属
電話番号	Email

問1 貴教育委員会が所管している小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の種別についてお聞きます。所管している学校種別を選び、回答欄に○をつけてください。

問2以降は学校種別ごとの問になっています。→の指示にそって所管する学校種別の間にお進みます。なお、問18と問19は共通の間となっていますので、学校種別に限らずご記入をお願いいたします。

所管する学校種別回答欄

小学校	→問2から問5についてご記入ください
中学校	→問6から問9についてご記入ください
高等学校	→問10から問13についてご記入ください
特別支援学校	→問14から問17についてご記入ください

問2 【小学校について】

貴教育委員会では、小学校の防災教育に関して、どのような点を重視し教育するよう、各校に対して指導していますか。

以下の項目の中から、特に重視していると考える項目を選び(4つまで)、回答欄に該当する項目が無い場合は、その他の欄に重視する点をご記入ください。

- 1 児童が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 児童が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 児童が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 児童が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 児童が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 児童が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。
- 7 その他

小学校の防災教育に関する回答欄(特に重視している指導)

項目の番号				
その他				

問3 問2で選んだ、特に重視している指導について、貴教育委員会ではその成果をどのように把握していますか。回答欄に問2で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に、把握する方法を、以下の項目の中から選び、その番号をご記入ください。(複数回答可)
その他の方法を選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

- 1 学校側に、指導した成果報告書の提出を求め、分析している。
- 2 避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 3 応急手当、心肺蘇生等の訓練の実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 4 地域と連携した防災活動(防災訓練や防災マップづくりなど)への参加回数や、参加者数の報告から把握している。
- 5 特に把握していない。
- 6 その他の方法

成果の把握に関する回答欄

問2で選んだ、特に重視している指導項目の番号	成果を把握する方法の項目番号

その他の方法	
--------	--

問4 問3の結果、貴教育委員会ではどの程度成果が出ていると分析していますか。問2で選んだ、特に重視している指導ごとに、その成果状況を下記の4段階の成果の状況から1つ選び、その番号をご記入ください。

成果の度合いに関する回答欄

問2の、特に重視する指導項目の番号	成果の状況
記入例 2	4
その他	

4段階の成果の状況: 4 (かなり成果があがっていると感じる)
3 (やや成果があがっていると感じる)
2 (変化は見られない)
1 (わからない)

問5 防災教育の成果を把握する上で、どのような課題がありますか。回答欄に自由にご記入ください。

成果を把握する上での課題回答欄

--

問6 【中学校について】

貴教育委員会では、中学校の防災教育に関して、どのような点を重視し教育するよう、各校に対して指導していますか。

以下の項目の中から、特に重視していると考える項目を選び(4つまで)、回答欄に該当する項目が無い場合は、その他の欄に重視する点をご記入ください。

- 1 生徒が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 生徒が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 生徒が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 生徒が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 生徒が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。
- 7 その他

中学校の防災教育に関する回答欄(特に重視している指導)

項目の番号				
その他				

問15 問14で選んだ、特に重視している指導について、貴教育委員会ではその成果をどのように把握していますか。回答欄に問14で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に、把握する方法を、以下の項目の中から選び、その番号をご記入ください。（複数回答可）
その他の方法を選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

- 1 学校側に、指導した成果報告書の提出を求め、分析している。
- 2 避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 3 応急手当、心肺蘇生等の訓練の実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 4 地域と連携した防災活動（防災訓練や防災マップづくりなど）への参加回数や、参加者数の報告から把握している。
- 5 特に把握していない。
- 6 その他の方法

成果の把握に関する回答欄

問14で選んだ、特に重視している指導項目の番号	成果を把握する方法の項目番号			

その他の方法	
--------	--

問16 問15の結果、貴教育委員会ではどの程度成果が出ていると分析していますか。
問14で選んだ、特に重視している指導ごとに、その成果状況を下記の4段階の成果の状況から1つ選び、その番号をご記入ください。

成果の度合いに関する回答欄

問14で選んだ、特に重視している指導項目の番号	成果の状況	
記入例	2	4
その他		

4段階の成果の状況：	4（かなり成果があがっていると感じる）
	3（やや成果があがっていると感じる）
	2（変化は見られない）
	1（わからない）

問17 防災教育の成果を評価する上で、どのような課題がありますか。回答欄に自由にご記入ください。

成果を評価する上での課題回答欄

--

問18 貴教育委員会において、今後とも防災教育を推進していくために、取り組むべき課題をお聞かせください。

小学校の防災教育について

取り組むべき課題	
----------	--

中学校の防災教育について

取り組むべき課題	
----------	--

高等学校の防災教育について

取り組むべき課題	
----------	--

特別支援学校の防災教育について

取り組むべき課題	
----------	--

問19 本アンケート調査の集計後、学校における防災教育の状況を調査するため、個別の学校に対して調査等を行う予定です。貴教育委員会が所管する学校で、防災教育を積極的に推進している学校を1～2校ご紹介ください。

小学校

学校名	防災教育の特色

中学校

学校名	防災教育の特色

高等学校

学校名	防災教育の特色

特別支援学校

学校名	防災教育の特色

● 貴教育委員会として、防災教育を推進する上での課題について、お考えをご自由にお書きください。

--

ご協力ありがとうございました。

調査票は10月16日（水）までに、以下のアドレスまでご返信ください。

Email : bousai25@seisakuken.co.jp

市町村教育委員会
「防災教育の体系的な指導に関する調査研究」に関するアンケート調査票
(平成25年10月 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課委託事業)

<調査の目的>

文部科学省では東日本大震災等で明らかになった教訓を踏まえ、児童生徒の発達段階に応じた効果的かつ体系的な防災教育を推進するため、全国で防災教育を積極的に実践している学校(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校)を対象に、アンケートや現地調査を行い、①教育目標、達成目標、学習のねらい、②学習指導の方法、③児童生徒の達成度を客観的かつ総合的に評価する手法について調査研究を行うと共に、その成果を報告書に取りまとめ、学校現場での指導に活用されるよう各教育委員会等へ配布することとしています。

このアンケート調査は、積極的に防災教育を推進している学校(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校)をご紹介します。あわせて教育委員会としての防災教育に対するご意見をお聞きするものです。

<ご記入にあたって>

1. ご回答方法は、選択肢を選び回答欄にその番号を記入していただくもの(複数回答の場合もあります)と、具体的な内容を記述していただくものがあります。
2. 選択肢「その他」を選択した場合は、回答欄の「その他」の欄に具体的な内容を記入してください。
3. ご回答いただいたアンケートの内容については、統計的数値として取りまとめると共に、個々の具体的な回答内容がそのままになることはありません。
4. 本調査について不明な点等ございましたら、下記調査実施機関担当者までお問合せください。

<調査票の返信について>

1. 本調査票は電子媒体(マイクロソフトExcel形式)で、メールにより送付しております。ご回答いただいた調査票はメールにて、下記電子媒体の送信先Emailまでご返信ください。締め切りは、平成25年10月16日(水)までとさせていただきます。

【調査実施機関・調査票についての問合先・調査票返信先】

株式会社 政策研究所 政策科学部 (担当: 山本、養田)
住所 〒107-0062 東京都港区南青山2-7-19-301
電話 03-6804-6606 FAX 03-6804-6695
電子媒体の送信先Email bousai25@seisakukken.co.jp

【調査委託元・調査の趣旨等についての問合先】

文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課防災教育係(高塚、谷口)
電話03-5253-4111(内2670)

1

ご担当者の所属・連絡先をご記入ください。

都道府県名	市町村名
教育委員会名称	所属
ご担当者名	Email
電話番号	FAX番号

問1 貴教育委員会で所管している小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の種別についてお聞きます。所管している学校種別を選び、回答欄に○をつけてください。

問2以降は学校種別ごとの間になっています。→の指示にそって所管する学校種別の間にお進みください。なお、問18と問19は共通の間となっていますので、学校種別に限らずご記入をお願いいたします。

所管する学校種別回答欄

小学校	→問2から問5についてご記入ください
中学校	→問6から問9についてご記入ください
高等学校	→問10から問13についてご記入ください
特別支援学校	→問14から問17についてご記入ください

問2 【小学校について】

貴教育委員会では、小学校の防災教育に関して、どのような点を重視し教育するよう、各校に対して指導していますか。

以下の項目の中から、特に重視していると考える項目を選び(4つまで)、回答欄に該当する項目が無い場合は、その他の欄に重視する点をご記入ください。

- 1 児童が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 児童が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 児童が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 児童が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 児童が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようにすることを重視している。
- 6 児童が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。
- 7 その他

小学校の防災教育に関する回答欄(特に重視している指導)

項目の番号				
その他				

2

問3 問2で選んだ、特に重視している指導について、貴教育委員会でその成果をどのように把握していますか。回答欄に問2で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に、把握する方法を、以下の項目の中から選び、その番号をご記入ください。(複数回答可)
その他の方法を選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

- 1 学校側に、指導した成果報告書の提出を求め、分析している。
- 2 避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 3 応急手当、心肺蘇生等の訓練の実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 4 地域と連携した防災活動(防災訓練や防災マップづくりなど)への参加回数や、参加者数の報告から把握している。
- 5 特に把握していない。
- 6 その他の方法

成果の把握に関する回答欄

問2で選んだ、特に重視している指導項目の番号	成果を把握する方法の項目番号			

その他の方法	
--------	--

問4 問3の結果、貴教育委員会でどの程度成果が出ていると分析していますか。問2で選んだ、特に重視している指導ごとに、その成果状況を下記の4段階の成果の状況から1つ選び、その番号をご記入ください。

成果の度合いに関する回答欄

問2の、特に重視する指導項目の番号	成果の状況
記入例 2	4
その他	

4段階の成果の状況: 4 (かなり成果があがっていると感じる)
3 (やや成果があがっていると感じる)
2 (変化は見られない)
1 (わからない)

3

問5 防災教育の成果を把握する上で、どのような課題がありますか。回答欄に自由に記入ください。

成果を把握する上での課題回答欄

--

問6 【中学校について】

貴教育委員会では、中学校の防災教育に関して、どのような点を重視し教育するよう、各校に対して指導していますか。

以下の項目の中から、特に重視していると考える項目を選び(4つまで)、回答欄に該当する項目が無い場合は、その他の欄に重視する点をご記入ください。

- 1 生徒が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 生徒が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 生徒が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 生徒が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようにすることを重視している。
- 6 生徒が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。
- 7 その他

中学校の防災教育に関する回答欄(特に重視している指導)

項目の番号				
その他				

4

問7 問6で選んだ、特に重視している指導について、貴教育委員会ではその成果をどのように把握していますか。回答欄に問6で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に、把握する方法を、以下の項目の中から選び、その番号をご記入ください。（複数回答可）
その他の方法を選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

- 1 学校側に、指導した成果報告書の提出を求め、分析している。
- 2 避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 3 応急手当、心肺蘇生等の訓練の実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 4 地域と連携した防災活動（防災訓練や防災マップづくりなど）への参加回数や、参加者数の報告から把握している。
- 5 特に把握していない。
- 6 その他の方法

成果の把握に関する回答欄

問6で選んだ、特に重視している指導項目の番号	成果を把握する方法の項目番号			

その他の方法	
--------	--

問8 問7の結果、貴教育委員会ではどの程度成果が出ていると分析していますか。問6で選んだ、特に重視している指導ごとに、その成果状況を下記の4段階の成果の状況から1つ選び、その番号をご記入ください。

成果の度合いに関する回答欄

問6で選んだ、特に重視している指導項目の番号	成果の状況	
記入例	2	4
その他		

4段階の成果の状況：	4（かなり成果があがっていると感じる）
	3（やや成果があがっていると感じる）
	2（変化は見られない）
	1（わからない）

問9 防災教育の成果を評価する上で、どのような課題がありますか。回答欄に自由にご記入ください。

成果を評価する上での課題回答欄

--

問10 【高等学校について】
貴教育委員会では、高等学校の防災教育に関して、どのような点を重視し教育するよう、各校に対して指導していますか。
以下の項目の中から、特に重視していると考える項目を選び（4つまで）、回答欄に該当する項目が無い場合は、その他の欄に重視する点をご記入ください。

- 1 生徒が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 生徒が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 生徒が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 生徒が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 生徒が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。
- 7 その他

高等学校の防災教育に関する回答欄（特に重視している指導）

項目の番号				
その他				

問11 問10で選んだ、特に重視している指導について、貴教育委員会ではその成果をどのように把握していますか。回答欄に問10で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に、把握する方法を、以下の項目の中から選び、その番号をご記入ください。（複数回答可）
その他の方法を選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

- 1 学校側に、指導した成果報告書の提出を求め、分析している。
- 2 避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 3 応急手当、心肺蘇生等の訓練の実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 4 地域と連携した防災活動（防災訓練や防災マップづくりなど）への参加回数や、参加者数の報告から把握している。
- 5 特に把握していない。
- 6 その他の方法

成果の把握に関する回答欄

問10で選んだ、特に重視している指導項目の番号	成果を把握する方法の項目番号			

その他の方法	
--------	--

問12 問11の結果、貴教育委員会ではどの程度成果が出ていると分析していますか。問10で選んだ、特に重視している指導ごとに、その成果状況を下記の4段階の成果の状況から1つ選び、その番号をご記入ください。

成果の度合いに関する回答欄

問10で選んだ、特に重視している指導項目の番号	成果の状況	
記入例	2	4
その他		

4段階の成果の状況：	4（かなり成果があがっていると感じる）
	3（やや成果があがっていると感じる）
	2（変化は見られない）
	1（わからない）

問13 防災教育の成果を評価する上で、どのような課題がありますか。回答欄に自由にご記入ください。

成果を評価する上での課題回答欄

--

問14 【特別支援学校について】
貴教育委員会では、特別支援学校の防災教育に関して、どのような点を重視し教育するよう、各校に対して指導していますか。
以下の項目の中から、特に重視していると考える項目を選び（4つまで）、回答欄に該当する項目が無い場合は、その他の欄に重視する点をご記入ください。

- 1 児童生徒が、地震や津波などの自然現象や災害、防災・減災に対する正しい知識を習得することを重視している。
- 2 児童生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになることを重視している。
- 3 児童生徒が、避難訓練等を通して迅速な避難行動ができるようになることを重視している。
- 4 児童生徒が、年少者、高齢者、障がい者等要援護者への配慮ができるようになることを重視している。
- 5 児童生徒が、応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、活用できるようになることを重視している。
- 6 児童生徒が、防災活動や災害時のボランティア等支援活動に、積極的に参加できるようになることを重視している。
- 7 その他

特別支援学校の防災教育に関する回答欄

項目の番号				
その他				

問15 問14で選んだ、特に重視している指導について、貴教育委員会ではその成果をどのように把握していますか。回答欄に問14で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に、把握する方法を、以下の項目の中から選び、その番号をご記入ください。（複数回答可）
その他の方法を選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

- 1 学校側に、指導した成果報告書の提出を求め、分析している。
- 2 避難訓練などの実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 3 応急手当、心肺蘇生等の訓練の実施回数や参加者数などの報告から把握している。
- 4 地域と連携した防災活動（防災訓練や防災マップづくりなど）への参加回数や、参加者数の報告から把握している。
- 5 特に把握していない。
- 6 その他の方法

成果の把握に関する回答欄

問14で選んだ、特に重視している指導項目の番号	成果を把握する方法の項目番号			

その他の方法	
--------	--

問16 問15の結果、貴教育委員会ではどの程度成果が出ていると分析していますか。
問14で選んだ、特に重視している指導ごとに、その成果状況を下記の4段階の成果の状況から1つ選び、その番号をご記入ください。

成果の度合いに関する回答欄

問14で選んだ、特に重視している指導項目の番号	成果の状況	
記入例	2	4
その他		

4段階の成果の状況：	4（かなり成果があがっていると感じる）
	3（やや成果があがっていると感じる）
	2（変化は見られない）
	1（わからない）

問17 防災教育の成果を評価する上で、どのような課題がありますか。回答欄に自由にご記入ください。

成果を評価する上での課題回答欄

問18 貴教育委員会において、今後とも防災教育を推進していくために、取り組むべき課題をお聞かせください。

小学校の防災教育について

取り組むべき課題	
----------	--

中学校の防災教育について

取り組むべき課題	
----------	--

高等学校の防災教育について

取り組むべき課題	
----------	--

特別支援学校の防災教育について

取り組むべき課題	
----------	--

問19 本アンケート調査の集計後、学校における防災教育の状況を調査するため、個別の学校に対して調査等を行う予定です。貴教育委員会が所管する学校で、防災教育を積極的に推進している学校を1～2校ご紹介ください。

小学校

学校名	防災教育の特色

中学校

学校名	防災教育の特色

高等学校

学校名	防災教育の特色

特別支援学校

学校名	防災教育の特色

● 貴教育委員会として、防災教育を推進する上での課題について、お考えをご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

調査票は10月16日（水）までに、以下のアドレスまでご返信ください。

Email : bousai25@seisakuken.co.jp

小学校用

「防災教育の体系的な指導に関する調査研究」に関するアンケート調査票
(平成25年11月 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課委託事業)

<調査の目的>

文部科学省では東日本大震災等で明らかになった教訓を踏まえ、児童生徒の発達の段階に応じた効果的かつ体系的な防災教育を推進するため、全国で防災教育を積極的に実践している学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）を対象に、アンケートや現地調査を行い、①教育目標、達成目標、学習のねらい、②学習指導の方法、③児童生徒の達成度を客観的かつ総合的に評価する手法について調査研究を行うと共に、その成果を報告書に取りまとめ、学校現場での指導に活用されるよう各教育委員会等へ配布することとしています。

このアンケート調査は、以上を踏まえて、教育委員会への調査から積極的に防災教育を推進している学校として紹介していただいた小学校へアンケート調査票を送付し、防災教育の内容や小学生の達成度を客観的かつ総合的に評価する方法などをお聞きするものです。

<ご記入にあたって>

1. ご回答は、主に学校防災等をご担当している方に、ご記入をお願いいたします。
2. ご回答方法は、選択肢を選び回答欄にその番号を記入していただくもの（複数回答の場合もあります）と、具体的な内容を記述していただくものがあります。
3. 選択肢「その他」を選択した場合は、回答欄の「その他」の欄に具体的な内容を記入してください。
4. ご回答いただいたアンケートの内容については、統計的数値として取りまとめると共に、個々の具体的な回答内容がそのまま公になることはありません。
5. 本調査について不明な点等がございましたら、下記調査実施機関担当者までお問合せください。

<調査票の返信について>

1. 本調査票は、電子媒体（マイクロソフトExcel形式）の返信も可能としています。必要とする場合は、マイクロソフトExcel形式によるアンケート調査票をメールでお送りしますので、下記のメールによる電子媒体の送り先までお知らせください。

メールによる電子媒体の送り先： bousaikyouiku@seisakuken.co.jp

2. ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）でご返送いただくか、メールにより電子媒体を平成25年12月16日（月）までに送付ください。

【調査実施機関・調査票についての問合せ先・調査票返信先】

株式会社 政策研究所 政策科学部 (担当：山本、襄田)
住所 〒107-0062 東京都港区南青山2-7-19-301
電話 03-6804-6606 FAX 03-6804-6695
電子媒体の送り先：bousaikyouiku@seisakuken.co.jp

【調査委託元・調査の趣旨等についての問合せ先】

文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課防災教育係(高塚、谷口)
電話03-5253-4111(内2670)

ご担当者の所属・連絡先をご記入ください。

都道府県名		市町村名	
学校名		ご担当者名	
ご担当者の役職		Email	
電話番号		FAX番号	

問1 貴校では、児童への防災教育に関して、児童の発達段階に応じて、どのような点を重視していますか。以下の項目の中から特に重視していると考える項目を発達段階ごと最大4つまで選び、回答欄に数字をご記入ください。該当する項目が無い場合は、その他の欄に重視する点をご記入ください。

- 1 教師の話や指示を注意して聞き、内容を理解できるようになること。
- 2 日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方を理解すること。
- 3 きまりの大切さを理解すること。
- 4 地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 5 被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解すること。
- 6 安全、危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動することができるようになること。
- 7 危険な状況を見つけた時、身近な大人にすぐ知らせることができるようになること。
- 8 災害時における危険を認識し、日常的な訓練を活かして、自らの安全を確保することができるようになること。
- 9 高齢者や地域の人と関わり、自分のできることをするようになること。
- 10 友達と協力して活動に取り組むことができるようになること。
- 11 自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができるようになること。
- 12 その他

小学校1, 2学年の防災教育に関して特に重視している教育内容

項目の番号				
その他				

小学校3, 4学年の防災教育に関して特に重視している教育内容

項目の番号				
その他				

小学校5, 6学年の防災教育に関して特に重視している教育内容

項目の番号				
その他				

問2 問1で選んだ、特に重視している項目について、貴校ではどのような教育活動の中で、また、どのような方法で実施していますか。回答欄に問1で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右欄に教育活動名、具体的な手立てを、以下の項目の中から選び（それぞれ最大2つまで）、その番号をご記入ください。
その他の手立てを選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

教育活動名

- | | | | |
|----------|-----------|-----------|----------|
| 1 教科 | | | |
| 1-1 国語 | 1-2 社会 | 1-3 算数 | 1-4 理科 |
| 1-5 生活 | 1-6 音楽 | 1-7 図画工作 | 1-8 家庭 |
| 1-9 体育 | | | |
| 2 道徳 生活科 | | | |
| 3 総合的な学習 | | | |
| 4 特別活動 | | | |
| 4-1 学級活動 | 4-2 児童会活動 | 4-3 クラブ活動 | 4-4 学校行事 |
| 5 その他 | | | |

具体的な指導の手立て等

- 1 写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴を実施している。
- 2 外部からのゲストティーチャーを活用している。
- 3 通常使用している教科書や副教材を活用している。
- 4 自治体等が作成した副教材を活用している。
- 5 防災ポスターや標語づくり、新聞づくり等を実施している。
- 6 地域と連携し児童を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させている。
- 7 緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施している。
- 8 テント生活や教室での宿泊生活などを実施している。
- 9 幼稚園や高齢者や障がい者福祉施設等と連携し、避難行動訓練を実施している。
- 10 応急手当の方法について、講義や実習を実施している。
- 11 自分たちが学んだことや作成した防災作品を発表させている。
- 12 地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組方法を調査している。
- 13 その他の手立て。

1, 2学年児童への教育活動等に関する回答欄

記入例	問1で選んだ、特に重視している指導項目の番号	教育活動名		具体的な指導の手立て	
		1-5	3	2	3
	1				

3, 4学年児童への教育活動等に関する回答欄

記入例	問1で選んだ、特に重視している指導項目の番号	教育活動名		具体的な指導の手立て	

5, 6学年児童への教育活動等に関する回答欄

記入例	問1で選んだ、特に重視している指導項目の番号	教育活動名		具体的な指導の手立て	

問3 問1で選んだ、特に重視している項目について、貴校では児童への教育成果をどのように把握していますか。回答欄に問1で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に把握する方法を、以下の項目の中から選び（最大2つまで）、その番号をご記入ください。その他の把握方法を選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

- 1 クラスでの話し合いや作文、ポスターづくり等。
- 2 児童の自己評価シート。
- 3 学校独自のペーパーテストや検定等。
- 4 自治体等や外部団体等が実施する検定等。
- 5 避難行動や避難所での生活訓練。
- 6 けがなどの簡単な応急手当の技能テスト。
- 7 地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への児童の参加状況。
- 8 特に把握していない。
- 9 その他の把握方法。

1. 2学年児童への教育成果の把握に関する回答欄

問1で選んだ、特に重視している教育項目の番号	成果を把握する方法の項目番号	
		その他の把握方法

3. 4学年児童への教育成果の把握に関する回答欄

問1で選んだ、特に重視している教育項目の番号	成果を把握する方法の項目番号	
		その他の把握方法

5. 6学年児童への教育成果の把握に関する回答欄

問1で選んだ、特に重視している教育項目の番号	成果を把握する方法の項目番号	
		その他の把握方法

問7 今後どのような防災教育をしようと考えていますか。回答欄に自由にご記入ください。

今後検討している防災教育

ご協力ありがとうございました。
調査票は12月16日(月)までに、
ご返送ください。

問4 問3で示した把握方法の結果、児童にどの程度成果が出ていると感じますか。問1で選んだ、特に重視している指導ごとに、その成果状況を下記の4段階の成果の状況から1つ選び、その番号をご記入ください。

成果の度合いに関する回答欄			成果の度合いに関する回答欄		
記入例	問1の、特に重視する指導項目の番号	成果の状況	記入例	問1の、特に重視する指導項目の番号	成果の状況
	1,2学年	2		4	3,4学年

成果の度合いに関する回答欄

記入例	問1の、特に重視する指導項目の番号	成果の状況
	5,6学年	2

- 4段階の成果の状況： 4（かなり成果があがっていると感じる）
3（やや成果があがっていると感じる）
2（変化は見られない）
1（わからない）

問5 貴校では、評価した結果を児童への防災教育にどのように活かしていますか。回答欄に自由にご記入ください。

評価結果の活かし方回答欄

問6 貴校の防災教育について、児童への成果を評価する上でどのような課題がありますか。回答欄に自由にご記入ください。

成果を把握する上での課題回答欄

中学校用

「防災教育の体系的な指導に関する調査研究」に関するアンケート調査票
(平成25年11月 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課委託事業)

<調査の目的>

文部科学省では東日本大震災等で明らかになった教訓を踏まえ、児童生徒の発達の段階に応じた効果的かつ体系的な防災教育を推進するため、全国で防災教育を積極的に実践している学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）を対象に、アンケートや現地調査を行い、①教育目標、達成目標、学習のねらい、②学習指導の方法、③児童生徒の達成度を客観的かつ総合的に評価する手法について調査研究を行うと共に、その成果を報告書に取りまとめ、学校現場での指導に活用されるよう各教育委員会等へ配布することとしています。

このアンケート調査は、以上を踏まえて、教育委員会への調査から積極的に防災教育を推進している学校として紹介していただいた中学校へアンケート調査票を送付し、防災教育の内容や中学生の達成度を客観的かつ総合的に評価する方法などをお聞きするものです。

<ご記入にあたって>

1. ご回答は、主に学校防災等をご担当している方に、ご記入をお願いいたします。
2. ご回答方法は、選択肢を選び回答欄にその番号を記入していただくもの（複数回答の場合もあります）と、具体的な内容を記述していただくものがあります。
3. 選択肢「その他」を選択した場合は、回答欄の「その他」の欄に具体的な内容を記入してください。
4. ご回答いただいたアンケートの内容については、統計的数値として取りまとめると共に、個々の具体的な回答内容がそのまま公になることはありません。
5. 本調査について不明な点等がございましたら、下記調査実施機関担当者までお問合せください。

<調査票の返信について>

1. 本調査票は、電子媒体（マイクロソフトExcel形式）の返信も可能としています。必要とする場合は、マイクロソフトExcel形式によるアンケート調査票をメールでお送りしますので、下記のメールによる電子媒体の送り先までお知らせください。

メールによる電子媒体の送り先： bousaikyouiku@seisakuken.co.jp

2. ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）でご返送いただくか、メールにより電子媒体を平成26年12月16日（月）までに送付ください。

【調査実施機関・調査票についての問合先・調査票返信先】

株式会社 政策研究所 政策科学部（担当：山本、糞田）
住所 〒107-0062 東京都港区南青山2-7-19-301
電話 03-6804-6606 FAX 03-6804-6695
電子媒体の送り先：bousaikyouiku@seisakuken.co.jp

【調査委託元・調査の趣旨等についての問合先】

文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課防災教育係（高塚、谷口）
電話03-5253-4111（内2670）

ご担当者の所属・連絡先をご記入ください。

都道府県名		中町村名	
学校名		ご担当者名	
ご担当者の役職		Email	
電話番号		FAX番号	

問1 貴校では、生徒への防災教育に関して、どのような点を重視していますか。以下の項目の中から特に重視していると考えられる項目を最大4つまで選び、回答欄に数字をご記入ください。該当する項目が無い場合は、その他の欄に重視する点をご記入ください。

- 1 地域で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 2 被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解すること。
- 3 災害時のメカニズムの基礎や諸地域の災害例から危険を理解すること。
- 4 備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 5 災害時における危険を認識し、日常的な訓練等を活かして、自らの安全を確保することができるようになること。
- 6 日常生活において知識を基に正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができるようになること。
- 7 災害の軽減、災害後の生活を考え備えることができるようになること。
- 8 災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること。
- 9 自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができるようになること。
- 10 地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加することができるようになること。
- 11 その他

中学校の防災教育に関して特に重視している教育内容

項目の番号					
その他					

問2 問1で選んだ、特に重視している項目について、貴校ではどのような教育活動の中で、また、どのような方法で実施していますか。回答欄に問1で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に教育活動名、具体的な手立てを、以下の項目の中から選び（それぞれ最大2つまで）、その番号をご記入ください。その他の手立てを選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

教育活動名

1 教科			
1-1 国語	1-2 社会	1-3 数学	1-4 理科
1-5 音楽	1-6 美術	1-7 保健体育	1-8 技術・家庭
1-9 外国語			
2 道徳			
3 総合的な学習			
4 特別活動			
4-1 学級活動	4-2 生徒会活動	4-3 学校行事	
5 その他			

具体的な指導の手立て等

- 1 写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴を実施している。
- 2 防災関連施設を活用している。
- 3 外部からのゲストティーチャーを活用している。
- 4 通常使用している教科書や副教材を活用している。
- 5 自治体等が作成した副教材を活用している。
- 6 地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組等の調査を実施している。
- 7 ワークシートへの生徒自らの記入や、グループディスカッションをしている。
- 8 地域と連携し、生徒を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させている。
- 9 緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施している。
- 10 テント生活や教室での宿泊生活などを実施している。
- 11 幼稚園、小学校、高齢者や障がい者福祉施設等と連携し、避難行動訓練を実施している。
- 12 応急手当の方法について、講義や実習を実施している。
- 13 自分たちが学んだことや作成した防災作品を発表させている。
- 14 その他の手立て。

中学生への教育活動等に関する回答欄

記入例	問1で選んだ、特に重視している指導項目の番号	教育活動名		具体的な指導の手立て	
		1-5	3	2	3

問3 問1で選んだ、特に重視している項目について、貴校では生徒への教育成果をどのように把握していますか。回答欄に問1で選んだ特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に把握する方法を、以下の項目の中から選び（最大2つまで）、その番号をご記入ください。その他の把握方法を選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

- 1 授業中での生徒の発表や、生徒が記入したワークシート等。
- 2 授業中の生徒の言動等をチェックする授業評価シート。
- 3 学校独自のペーパーテストや検定等。
- 4 自治体等や外部団体等が実施する検定等。
- 5 避難行動や避難所での生活訓練。
- 6 けがなどの簡単な応急手当や、心肺蘇生、AEDの操作等の技能テスト。
- 7 地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への生徒の参加状況。
- 8 特に把握していない。
- 9 その他の把握方法。

生徒への教育成果の把握に関する回答欄

問1で選んだ、特に重視している教育項目の番号	成果を把握する方法の項目番号	
		その他の把握方法

問4 問3で示した把握方法の結果、生徒にどの程度成果が出ていると感ずますか。

問2で選んだ、特に重視している指導ごとに、その成果状況を下記の4段階の成果の状況から1つ選び、その番号をご記入ください。

成果の度合いに関する回答欄

問1の、特に重視する教育項目の番号	成果の状況
2	4

4段階の成果の状況： 4（かなり成果があがっていると感ずる）
3（やや成果があがっていると感ずる）
2（変化は見られない）
1（わからない）

問5 貴校では、評価した結果を生徒への防災教育にどのように活かしていますか。回答欄に自由にご記入ください。

評価結果の活かし方回答欄

問6 貴校の防災教育について、生徒への成果を評価する上でどのような課題がありますか。回答欄に自由にご記入ください。

成果を把握する上での課題回答欄

問7 今後どのような防災教育をしようと考えていますか。回答欄に自由にご記入ください。

今後検討している防災教育

ご協力ありがとうございました。

調査票は12月16日（月）までに、ご返送ください。

「防災教育の体系的な指導に関する調査研究」に関するアンケート調査票
(平成25年11月 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課委託事業)

<調査の目的>

文部科学省では東日本大震災等で明らかになった教訓を踏まえ、児童生徒の発達の段階に応じた効果的かつ体系的な防災教育を推進するため、全国で防災教育を積極的に実践している学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）を対象に、アンケートや現地調査を行い、①教育目標、達成目標、学習のねらい、②学習指導の方法、③児童生徒の達成度を客観的かつ総合的に評価する手法について調査研究を行うと共に、その成果を報告書に取りまとめ、学校現場での指導に活用されるよう各教育委員会等へ配布することとしています。

このアンケート調査は、以上を踏まえて、教育委員会への調査から積極的に防災教育を推進している学校として紹介していただいた高等学校へアンケート調査票を送付し、防災教育の内容や高校生への達成度を客観的かつ総合的に評価する方法などをお聞きするものです。

<ご記入にあたって>

- ご回答は、主に学校防災等をご担当している方に、ご記入をお願いいたします。
- ご回答方法は、選択肢を選び回答欄にその番号を記入していただくもの（複数回答の場合もあります）と、具体的な内容を記述していただくものがあります。
- 選択肢「その他」を選択した場合は、回答欄の「その他」の欄に具体的な内容を記入してください。
- ご回答いただいたアンケートの内容については、統計的数値として取りまとめると共に、個々の具体的な回答内容がそのまま公開になることはありません。
- 本調査について不明な点等がございましたら、下記調査実施機関担当者までお問合せください。

<調査票の返信について>

- 本調査票は、電子媒体（マイクロソフトExcel形式）の返信も可能としています。必要とする場合は、マイクロソフトExcel形式によるアンケート調査票をメールでお送りしますので、下記のメールによる電子媒体の送り先までお知らせください。

メールによる電子媒体の送り先：bousaikyouiku@seisakuken.co.jp

- ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）でご返送いただくか、メールにより電子媒体を平成25年12月16日（月）までにご送付ください。

【調査実施機関・調査票についての問合せ先・調査票返信先】

株式会社 政策研究所 政策科学部（担当：山本、養田）
住所 〒107-0062 東京都港区南青山2-7-19-301
電話 03-6804-6606 FAX 03-6804-6695
電子媒体の送り先：bousaikyouiku@seisakuken.co.jp

【調査委託元・調査の趣旨等についての問合せ先】

文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課防災教育係（高塚、谷口）
電話03-5253-4111（内2670）

ご担当者の所属・連絡先をご記入ください。

都道府県名		市町村名	
学校名		ご担当者名	
ご担当者の役職		Email	
電話番号		FAX番号	

問1 貴校では、生徒への防災教育に関して、どのような点を重視していますか。以下の項目の中から特に重視していると思われる項目を最大4つまで選び、回答欄に数字をご記入ください。該当する項目が無い場合は、その他の欄に重視する点をご記入ください。

- 災害時のメカニズムの基礎や諸地域の災害例から危険を理解すること。
- 備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 世界や日本の主な災害の歴史や原因を理解すること。
- 災害時に必要な物資や支援について考え、日常生活や災害時に適切な行動をとるための判断に活かすことができるようになること。
- 日常生活において知識を基に正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができるようになること。
- 災害の軽減、災害の生活を考え備えることができるようになること。
- 災害時には危険を予測し、率先して避難行動をとることができるようになること。
- 日常生活において発生する可能性のある様々な危険を予測し回避することができるようになること。
- 災害時には地域や社会全体の安全について考え行動をとることができるようになること。
- 地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加することができるようになること。
- 事前の備えや災害時の支援について考え、積極的に地域防災や災害時の支援活動に取り組みすることができるようになること。
- その他

高等学校の防災教育に関して特に重視している教育内容

項目の番号					
その他					

問2 問1で選んだ、特に重視している教育について、貴校ではどのような教育活動の中で、またどのような方法で実施していますか。回答欄に問1で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に教育活動名、具体的な手立てを、以下の項目の中から選び（それぞれ最大2つまで）、その番号をご記入ください。

その他の手立てを選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

教育活動名

1 学科に共通する教科			
1-1 国語	1-2 地理歴史	1-3 公民	1-4 数学
1-5 理科	1-6 保健体育	1-7 芸術	1-8 外国語
1-9 家庭	1-10 情報		
2 専門学科に開設される教科			
2-1 農業	2-2 工業	2-3 商業	2-4 水産
2-5 家庭	2-6 看護	2-7 情報	2-8 福祉
2-9 理数	2-10 体育	2-11 音楽	2-12 美術
2-13 英語			
3 総合的な学習			
4 特別活動			
4-1 ホームルーム活動	4-2 生徒会活動	4-3 学校行事	
5 その他			

具体的な指導の手立て等

- 津波や地震災害等の情報を活用している。
- 防災関連施設を活用している。
- 外部からのゲストティーチャーを活用している。
- 通常使用している教科書や副教材を活用している。
- 自治体等が作成した副教材を活用している。
- 地域における災害の歴史や、地震・津波等に対する行政や地域住民の取組等の調査を実施している。
- ワークシートへの生徒自らの記入や、グループディスカッションをしている。
- 地域と連携し、生徒を防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）に参加させている。
- 災害图上訓練を実施している。
- 緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施している。
- 高齢者や障害者等への配慮サービスを実施している。
- テント生活や教室での宿泊生活などを実施している。
- 幼稚園、小中学校、高齢者や障がい者福祉施設等と連携し、避難行動訓練を実施している。
- 応急手当の方法について、講義や実習を実施している。
- 自分たちが学んだことや作成した防災作品を発表させている。
- 津波や地震等の地域の災害特性や防災への取組を調査している。
- その他の手立て。

高校生への教育活動等に関する回答欄

記入例	問1で選んだ、特に重視している指導項目の番号	教育活動名	具体的な指導の手立て		
	1	1-5 3	2	3	その他の手立て

問3 問1で選んだ、特に重視している教育について、貴校では生徒への教育成果をどのように把握していますか。回答欄に問1で選んだ特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に把握する方法を、以下の項目の中から選び（最大2つまで）、その番号をご記入ください。

その他の把握方法を選んだ場合は、回答欄にその内容をご記入ください。

- 授業中の生徒の発表や、生徒が記入したワークシート等。
- 授業中の生徒の言動等をチェックする授業評価シート。
- 学校独自のペーパーテストや検定等。
- 自治体等や外部団体等が実施する検定等。
- グループワーク。
- 避難行動や避難所での生活訓練。
- けがなどの簡単な応急手当や、心肺蘇生、AEDの操作等の技能テスト。
- 地域と連携した防災活動（防災訓練やハザードマップづくりなど）への生徒の参加状況。
- 特に把握していない。
- その他の把握方法。

生徒への教育成果の把握に関する回答欄

問1で選んだ、特に重視している教育項目の番号	成果を把握する方法の項目番号	
		その他の把握方法

問4 問3で示した把握方法の結果、生徒にどの程度成果が出ていると感じますか。
問2で選んだ、特に重視している指導ごとに、その成果状況を下記の4段階の成果の状況から1つ
選び、その番号をご記入ください。

成果の度合いに関する回答欄

問1の、特に重視する 教育項目の番号	成果の状況
2	4

4段階の成果の状況： 4（かなり成果があがっていると感じる）
3（やや成果があがっていると感じる）
2（変化は見られない）
1（わからない）

問5 貴校では、評価した結果を生徒への防災教育にどのように活かしていますか。
回答欄に自由にご記入ください。

評価結果の活かし方回答欄

問6 貴校の防災教育について、生徒への成果を評価する上でどのような課題がありますか。
回答欄に自由にご記入ください。

成果を把握する上での課題回答欄

問7 今後どのような防災教育をしようと考えていますか。回答欄に自由にご記入ください。

今後検討している防災教育

ご協力ありがとうございました。

調査票は12月16日（月）までに、
ご返送ください。

特別支援学校用

「防災教育の体系的な指導に関する調査研究」に関するアンケート調査票
(平成25年11月 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課委託事業)

<調査の目的>

文部科学省では東日本大震災等で明らかになった教訓を踏まえ、児童生徒の発達の段階に応じた効果的かつ体系的な防災教育を推進するため、全国で防災教育を積極的に実践している学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）を対象に、アンケートや現地調査を行い、①教育目標、達成目標、学習のねらい、②学習指導の方法、③児童生徒の達成度を客観的かつ総合的に評価する手法について調査研究を行うと共に、その成果を報告書に取りまとめ、学校現場での指導に活用されるよう各教育委員会等へ配布することとしています。

このアンケート調査は、以上を踏まえて、教育委員会への調査から積極的に防災教育を推進している学校として紹介していただいた特別支援学校へアンケート調査票を送付し、防災教育の内容や特別支援学校の児童・生徒の達成度を客観的かつ総合的に評価する方法などをお聞きするものです。

<ご記入にあたって>

1. ご回答は、主に学校防災等をご担当している方に、ご記入をお願いいたします。
2. ご回答方法は、選択肢を選び回答欄にその番号を記入していただくもの（複数回答の場合もあります）と、具体的な内容を記述していただくものがあります。
3. 選択肢「その他」を選択した場合は、回答欄の「その他」の欄に具体的な内容を記入してください。
4. ご回答いただいたアンケートの内容については、統計的数値として取りまとめると共に、個々の具体的な回答内容がそのまま公になることはありません。
5. 本調査について不明な点等がございましたら、下記調査実施機関担当者までお問合せください。

<調査票の返信について>

1. 本調査票は、電子媒体（マイクロソフトExcel形式）の返信も可能としています。必要とする場合は、マイクロソフトExcel形式によるアンケート調査票をメールでお送りしますので、下記のメールによる電子媒体の送り先までお知らせください。

メールによる電子媒体の送り先： bousaikvouiku@seisakuken.co.jp

2. ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）でご返送いただくか、メールにより電子媒体を平成25年12月16日（月）までに送付してください。

【調査実施機関・調査票についての問合先・調査票返信先】

株式会社 政策研究所 政策科学部（担当：山本、巖田）
住所 〒107-0062 東京都港区南青山2-7-19-301
電話 03-6804-6606 FAX 03-6804-6695

【調査委託元・調査の趣旨等についての問合先】

文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課防災教育係（高塚、谷口）
電話03-5253-4111（内2670）

ご担当者の所属・連絡先をご記入ください。

都道府県名	市町村名
学校名	ご担当者名
ご担当者の役職	Email
電話番号	FAX番号

問1 貴校では、児童・生徒の防災教育に関して、どのような点を重視して教育していますか。以下の項目の中から特に重視していると考える項目を最大4つまで選び、回答欄に数字を ご記入ください。
該当する項目が無い場合は、その他の欄に重視する点をご記入ください。

- 1 児童・生徒が、障害の種類と程度、発達段階に応じて、地震や津波などの災害を引き起こす自然現象について、正しい知識を習得できるようになること。
- 2 児童・生徒が、災害によって引き起こされる危険を予測し、自ら危険を回避できるようになること。
- 3 児童・生徒が、地震や津波などの災害に対して、自分だけでなく、支援者として、学校、家庭、地域社会と助け合って（連携して）、安全に貢献できるようになること。
- 4 児童・生徒が、指示に従って迅速に避難できることや、児童生徒との助け合いができるようになること。
- 5 児童・生徒が、日頃から十分に身体を動かすことができるようになること。
- 6 児童・生徒が、日頃から帽子（防災頭巾やヘルメット）や靴の着脱ができるだけ早くできるようになること。
- 7 児童・生徒が、日頃から教師や他の児童・生徒等の言葉やサインを見開きして、行動できるようになることを重視している。
- 8 児童・生徒が、日頃から集団生活のルールを理解できるようになること。
- 9 児童・生徒が、日頃から自分の気持ちを伝え、災害時にもコミュニケーションを図ることができるようになること。
- 10 児童・生徒が、災害時の初期対応や応急手当、心肺蘇生、AEDの操作等の災害時に役立つ技能を身につけ、様々な場面で活用できるようになること。
- 11 児童・生徒が、災害に応じた安全な避難方法や日常生活での備えを理解し、パニック防止と安全な行動ができるようになること。
- 12 児童・生徒への災害体験の語り継ぎ、継承、発信。
- 13 特別支援学校と家庭や地域との防災活動の連携の維持強化。
- 14 その他

特別支援学校の防災教育に関して特に重視している教育内容

項目の番号				
その他				

問2 問1で選んだ、特に重視している教育について、貴校ではどのような教育活動の中で、また、どのような方法で実施していますか。回答欄に問1で選んだ、特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に学部名、具体的な手立てを、以下の項目の中から選び（最大2つまで）、その番号をご記入ください。

学部名			
1 小学部	2 中学部	3 高等部	4 その他

- 具体的な指導の手立て
- 写真やポスターの展示、ビデオ等映像の視聴を実施している。
 - 防災関連施設への見学を実施している。
 - 外部からのゲストティーチャーの招聘による講演等を実施している。
 - 通常使用している教科書や副教材を使用している。
 - 自治体等が作成した副教材を使用している。
 - 防災ポスターや標語づくり、新聞づくり等を実施している。
 - 地域と連携し、児童・生徒を防災活動（避難行動、その他の防災訓練など）に参加させている。
 - 緊急地震速報の活用等により、学校全体で定期的に避難行動訓練を実施している。
 - テント生活や教室での宿泊生活等を実施している。
 - 地域と連携し、避難行動訓練を実施している。
 - 応急手当の方法について、講義や実習を実施している。
 - 他の学校生徒と連携した避難行動や防災訓練をしている。
 - 自分たちが学んだことや作成した防災作品を発表させている。
 - その他の手立て。

児童・生徒への教育活動等に関する回答欄

問1で選んだ、特に重視している教育項目の番号	学部名		具体的な指導の手立て	
	1	2	1	2
記入例	1	1	2	2

問3 問1で選んだ、特に重視している教育について、貴校では生徒への教育成果をどのように把握していますか。回答欄に問1で選んだ特に重視している指導項目の番号を記入し、その右横に把握する方法を、以下の項目の中から選び（最大2つまで）、その番号をご記入ください。

- 授業中での児童・生徒の行動や発表、生徒が作成した作品。
- 授業中の生徒の言動等をチェックする授業評価シート。
- 学校独自のペーパーテストや検定等。
- 自治体等や外部団体等が実施する検定等。
- 避難行動や避難所での生活訓練。
- けがなどの簡単な応急手当や、心肺蘇生等の、児童・生徒の実習状況。
- 地域と連携した防災活動（避難行動訓練やその他防災訓練など）への、児童・生徒の参加行動。
- 特に把握していない。
- その他の方法。

生徒への教育成果の把握に関する回答欄

問1で選んだ、特に重視している教育項目の番号	成果を把握する方法の項目番号	
		その他の把握方法

問4 問3で示した把握方法の結果、生徒にどの程度成果が出ていると感じますか。問2で選んだ、特に重視している指導ごとに、その成果状況を下記の4段階の成果の状況から1つ選び、その番号をご記入ください。

成果の度合いに関する回答欄

問1の、特に重視する教育項目の番号	成果の状況	
	2	4
記入例		
その他		

- 4段階の成果の状況： 4（かなり成果があがっていると感じる）
 3（やや成果があがっていると感じる）
 2（変化は見られない）
 1（わからない）

問5 貴校では、評価した結果を児童・生徒への防災教育にどのように活かしていますか。回答欄に自由にご記入ください。

評価結果の活かした方回答欄

問6 貴校の防災教育について、児童・生徒への成果を評価する上でどのような課題がありますか。回答欄に自由にご記入ください。

成果を把握する上での課題回答欄

問7 今後どのような防災教育をしようと考えていますか。回答欄に自由にご記入ください。

今後検討している防災教育

ご協力ありがとうございました。

調査票は12月16日（月）までに、ご返送ください。

